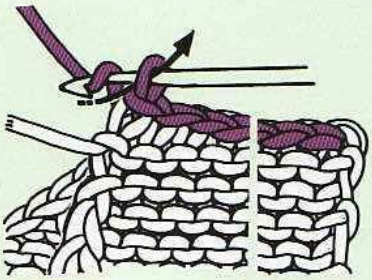
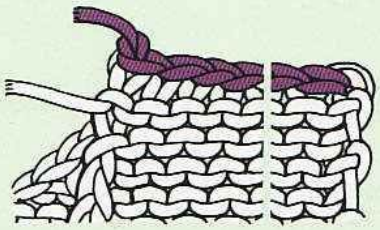


4 かぎ針に糸をかけて引き抜きます。3・4をくり返します。



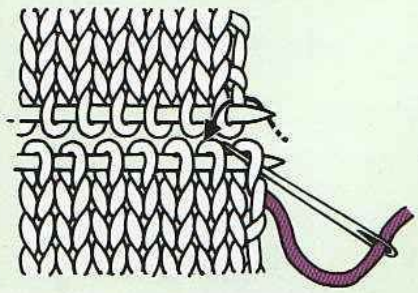
5 終わりはもう一度引き抜き、糸を切ります。



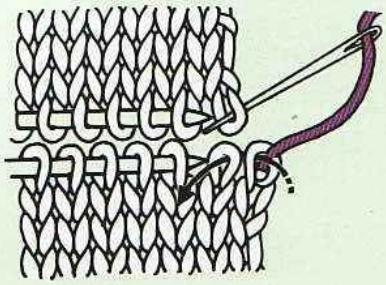
6 糸端を引きしめます。

メリヤスはぎ

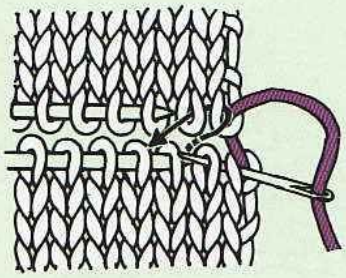
目と目をつなぐはぎの中で、このメリヤスはぎほど自然に仕上がる方法は他にありません。
メリヤス編みの糸の渡りを理解できればむずかしいことはありません。
はぎ糸は編み地の幅の3〜4倍の長さが必要です。



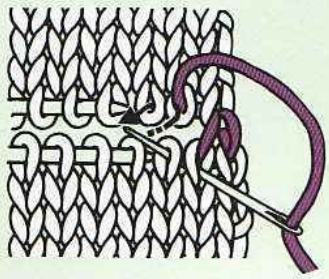
1 針に糸を通し、表側からはぎ合わせます。手前の目は裏から表に針を通します。



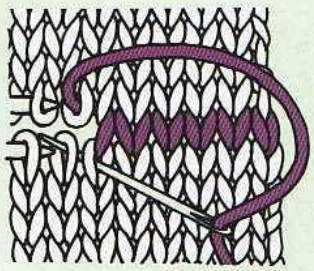
2 向こうの目も裏から表に通します。



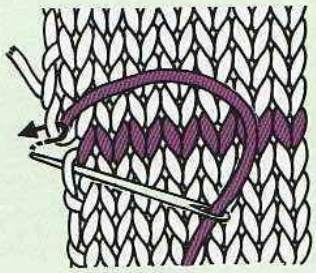
3 手前の目は表から裏、裏から表に通します。



4 向こうの目も表から裏、裏から表に通します。



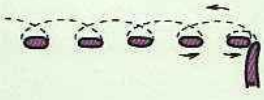
5 メリヤス編みの糸の渡りのとおり、3・4をくり返します。

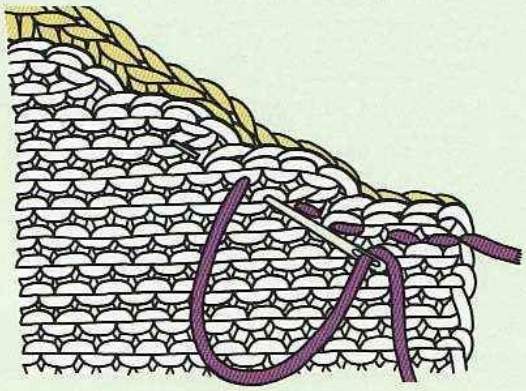


6 終わりは手前の半目に表から裏に通し、向こうの半目に矢印のように通します。

半返し縫い

引き抜きはぎに比べて、薄くすっきりとした仕上がりになります。
縫うときは編み目の空間に針を刺すのではなく、なるべく糸を割るようにするときれいな仕上がりになります。縫う糸は割り糸(25ページ参照)を使うとよいでしょう。





Marisabel



広瀬光治の
あみものの基礎

初心者のための基礎ブック

日本ヴォーグ社

Let's Knit Series NV6077

Marisabel

広瀬光治の

あみものの基礎

初心者のための基礎ブック

は・じ・め・に

編みものを始めてみようかな…と思ってくれる人が多くなりました。本当に嬉しいことですね。何でも同じだと思いますが、基礎はとても大事です。編みものは自己流でも編めるのですが、しっかり基礎をマスターできれば仕上がりもぐっと違ってきます。

また、テクニックにはいろいろな方法があるのですが、作品に適した技法を選ぶことも大切です。作品1点を編むたびに1歩ずつ進んでゆくものです。始めは難しくても、技術が進歩すると編みものの楽しさも倍増します。この本をいつも手元に置いてレッツニット！

広瀬光治

contents

かぎ針編み

糸と針 …… 4
ラベルの見方 …… 5
記号図の見方／糸のかけ方と針の持ち方 …… 6
作り目 …… 7
作り目の針の号数／最初の目の作り方／鎖編みの作り目 …… 7
基本の編み地 …… 8
かぎ針編みの約束ごと／立上がり／細編み …… 8
長編み …… 10
中長編み／長々編み …… 12
簡単な割り出し方／割り出し記号図が右側部分しかない場合 …… 13
基本の増減目 …… 14
細編み1目の増し目／細編み1目の減目 …… 14
長編み1目の増し目／長編み1目の減目 …… 15
カーブの編み方 …… 16
基本のモチーフ …… 18
輪の作り目 …… 18
基本の四角モチーフ …… 19
モチーフのつなぎ方 …… 21
巻きかがりでつなぐ …… 21
引き抜き編みでつなぐ …… 22
とじ・はぎ …… 24
引き抜き編みの鎖とじ／すくいとじ …… 24
引き抜き編みの鎖はぎ …… 25

Marisabel

仕上げ …… 26
縁編みのしかた …… 26
往復編みの編み方／糸始末／糸の足し方 …… 27
袖つけ …… 28
編み目記号の編み方 …… 29

棒針編み

編みものの用具と針と糸の持ち方 …… 32
編み方図の読み方 …… 34
作り目 …… 37
指でかける作り目 …… 37
別鎖の作り目／共鎖の作り目 …… 38
編み方の基本 …… 39
メリヤス編みと裏メリヤス編み …… 39
減目と増し目 …… 40
ゲージについて …… 43
ゲージ／アイロンをかけましょう／ゲージを測りましょう／
編み目／割り出し計算をしましょう …… 43
衿ぐりカーブと肩の引き返し編み …… 44
右側 …… 44
左側 …… 46
拾い目のしかた …… 48
別鎖からの拾い目 …… 48
衿ぐりからの拾い目 …… 49
止め・とじ・はぎ …… 50
止め …… 50
とじ …… 53
はぎ …… 54
袖つけ …… 56
編む途中のこと・仕上げ …… 58
糸のかえ方・糸始末 …… 58
糸の足し方・糸始末 …… 59
編み目記号の編み方 …… 60
編み込み模様 …… 63
横に糸を渡す編み込み模様 …… 63
縦に糸を渡す編み込み模様 …… 64
索引 …… 65

Marisabel

かぎ針編み

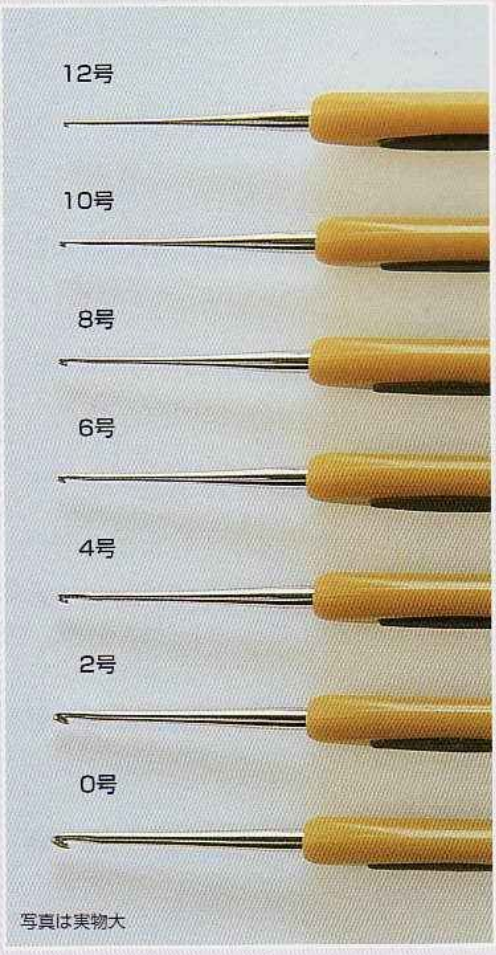


針1本の手軽さから、子供の頃に“遊び”として親しんだ方も多いことでしょう。
私も移動の新幹線の中では、もっぱらかぎ針編みを楽しんでいます。
かけて引き出す作業をマスターしてしまえば、殆んどの作品を編むことができます。
糸の引き出し方を覚えてバランスのとれた編み目を心がけましょう。

糸と針

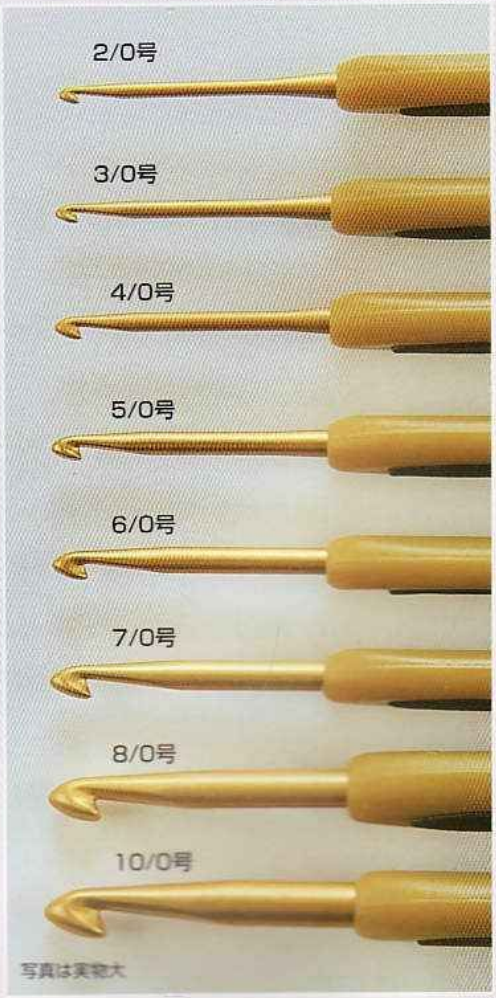
美しい編み地を作るには、糸の太さやタイプに合った針を選ぶことが大切なポイントです。
糸玉のラベルにプリントされた表示(5ページ参照)にある、適している針の号数や標準ゲージを参考に、
使用する針を決めると良いでしょう。

レース針



写真は実物大

かぎ針

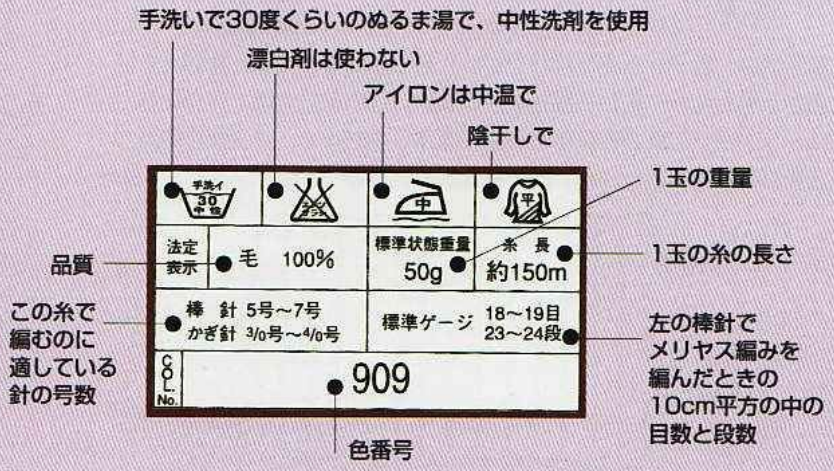


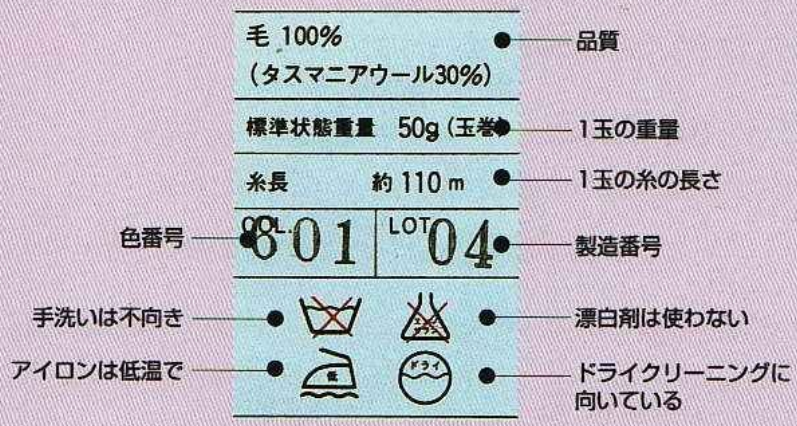
写真は実物大

ラベルの見方

自分の編もうと思っているデザインに近づける一番の早道は同じ糸で編むことです。でも手持ちの大好きな糸で編みたい、どうしても違うメーカーの糸で編みたいというときは、まず同じ太さであることを確かめます。その目安になるのは糸についているラベルです。ラベルに表示されている糸長(いとちょう)がだいたい同じであることが大切なポイントです。

ラベルはメーカーによって、表示の仕方に違いはありますが、内容は大体いっしょです。編みたい作品の作り方にある糸の糸長と重量の割合が同じであれば、おおよそ同じ太さの糸と言えます。たとえば、糸長が100mで50gの糸と、糸長が80mで40gの糸は、おおむね同じです。





広瀬先生のアドバイス

ONE POINT ADVICE



糸の選び方

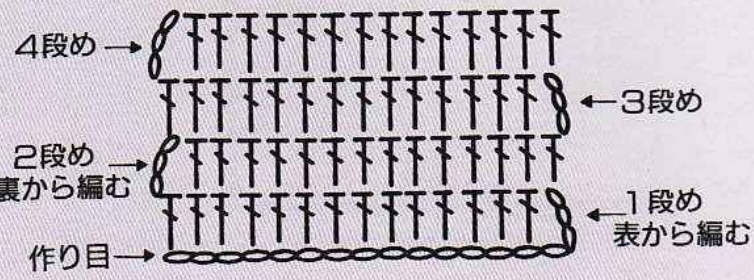
昔と違って、糸の種類も多種多様になりました。糸選びはとても楽しいものですが、編み地や作品のシルエットとの相性を考えないと失敗の原因にもなります。また、初心者の方があまり細い糸を選ぶと、大変時間がかかり、途中で挫折することにもなりかねません。慣れるまで編み目のわかりやすい太めの糸を選んでください。

Marisabel

記号図の見方

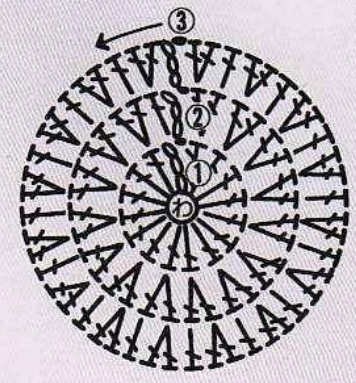
平編み

記号図は、表側から見た状態で書いてありますが、実際に編むときは、表から編んだり、裏から編んだりします。これを記号図で見分けるには、立上がりの鎖が右側にある段が表から編む段で、立上がりの鎖が左側にある段が裏から編む段になります。



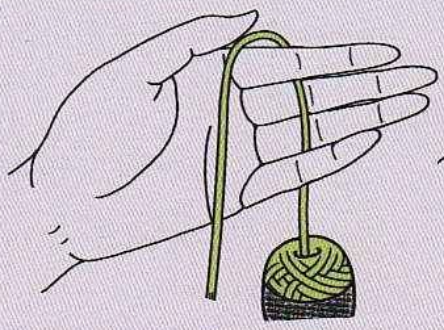
円編み

中心から円形に編み広げるときは、立上がりの鎖から左側の記号を見て編み進みます。

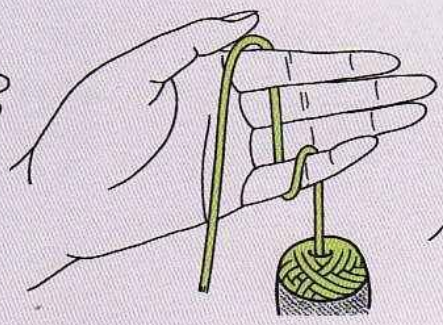


糸のかけ方と針の持ち方

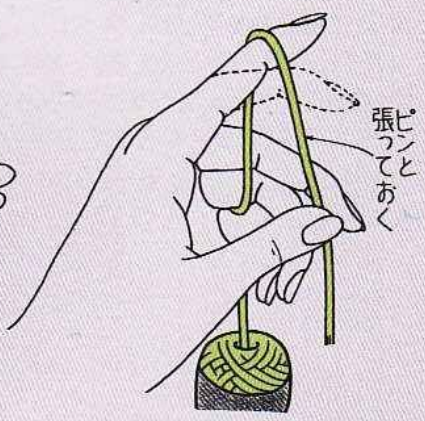
左手（糸のかけ方）



1 左手に糸をかけます。図のように真ん中の2本の指の内側を通し、両端の指の外側に出します。



2 細い糸や、すべりやすい糸のときは、小指に1回巻いて、糸の送りを調整します。



3 人さし指を立てます。人さし指は、編み目に応じて糸を送りこんだり、引きもどしたりするテンションの役目をするので、自由に動かせるようにしておきます。

広瀬先生のアドバイス ONE POINT ADVICE

糸のかけ方

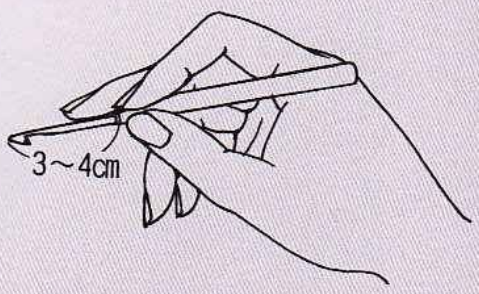
ここでご紹介しましたかけ方は、あくまでも一般的なものであって、実際はどんなかけ方でもよいのです。糸は人さし指にかける人が多いのも事実ですが、中指にかけてもよし、自分の編みやすい慣れた方法にしましょう。要は鎖1目、長編み1目が編めればよいことなのです。

もうひとつのかけ方



このかけ方は、糸を小指と薬指の間にはさんで、左手の向こう側から人さし指にかけるかけ方です。

右手（針の持ち方）



針先を下に向けて、親指と人さし指で上下から軽くにぎり、中指を針先に添えて持ちます。この中指は針にかかった編み目を押える役目もするため、自由に動けるように軽く添えます。

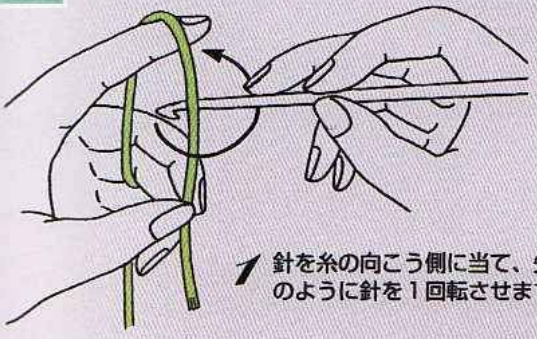
作り目

作り目の針の号数

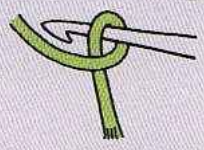
作り目の鎖編みから目を拾い出すと、鎖が上に引っ張られて鎖の長さがつまります。鎖1目から1目ずつ拾い出す編み地のときは、編み地より作り目がかなりつまる結果になりますし、鎖を何目かとばして拾う編み地では、作り目はあまりつまりません。編み地の種類によって、作り目の号数を変えると作り目と編み地がバランス良く編むことができます。

模様の種類	例	作り目の号数(編み地の号数との差)	例
長編み、細編み	5/0号	2号太く	7/0号
方眼編み	5/0号	1号～2号太く	6/0～7/0号
一般的な透かし模様	5/0号	1号～2号太く	6/0～7/0号
ネット編み	5/0号	同じ～1号太く	5/0～6/0号

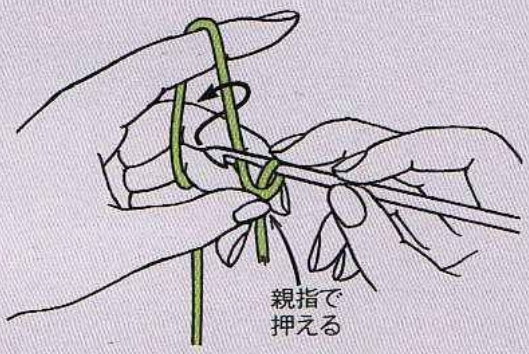
最初の目の作り方



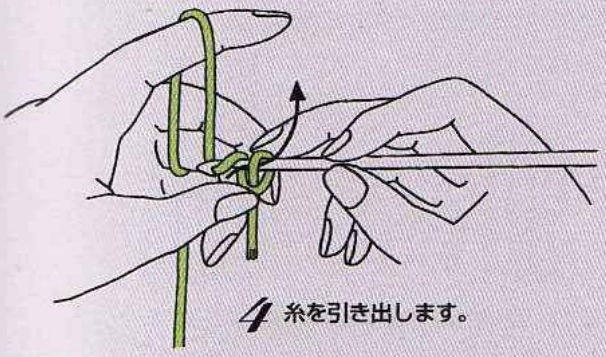
1 針を糸の向こう側に当て、矢印のように針を1回転させます。



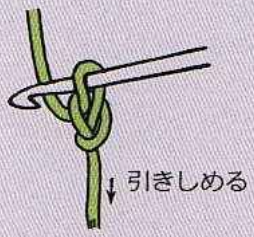
2 針に糸が巻きつきます。



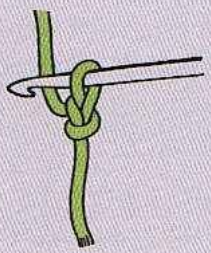
3 矢印のように針を動かし、糸をかけます。



4 糸を引き出します。

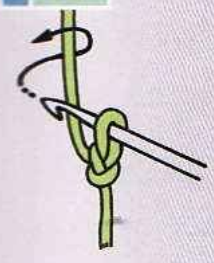


5 糸端を引いてしめます。



6 最初の目のでき上がり。この目は作り目の数には含まれません。

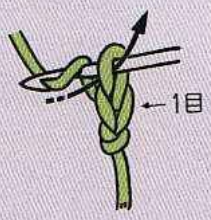
鎖編みの作り目



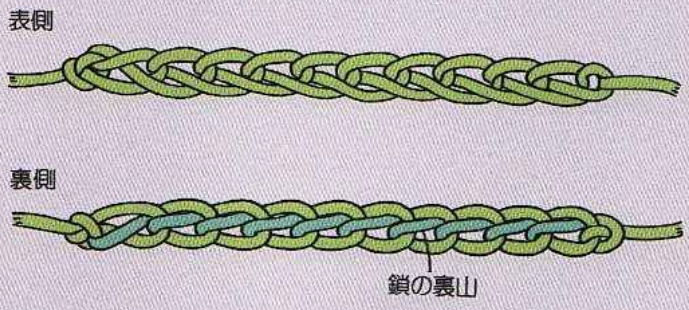
1 矢印のように針に糸をかけます。



2 針にかかった目の中から糸を引き出します。



3 1目でき上がり。同じように糸をかけて編みます。



鎖の表と裏です。鎖の裏山をおぼえましょう。

基本の編み地

かぎ針編みの約束ごと

かぎ針編みの大切な約束ごとです。

❶ かぎ針編みは編み目によって高さが違い、段の始めに必ず編まれる立上がりの鎖の目数も異なります。
❷ 記号図はすべて表側から見た状態で表現されています。

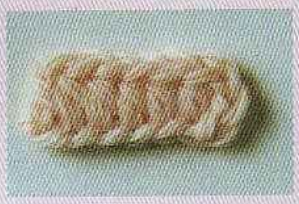
編み目の高さ

細編み(こまあみ)
細編みの高さ…鎖1目



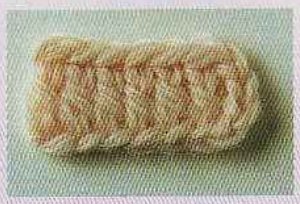


中長編み(ちゅうながあみ)
中長編みの高さ…鎖2目



長編み(ながあみ)
長編みの高さ…鎖3目





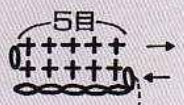
長々編み(ながながあみ)
長々編みの高さ…鎖4目



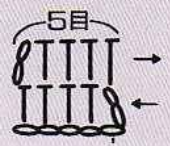


立上(たちあ)がり

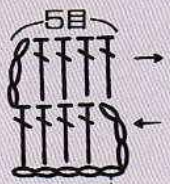
●立上がりとは、各段の編み始めに必ず編まれるもので、その段の編み目の高さを鎖で代用することをいいます。この立上がりの鎖は、中長編み以上の高さの編み目は、立上がりを1目と数え、細編みの立上がりは小さいので、1目と数えません。
●立上がりを1目と数える場合には、立上がりの台になる作り目が必要です。立上がりを1目と数えないときは、台になる作り目はいりません。



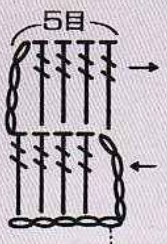
細編み



中長編み



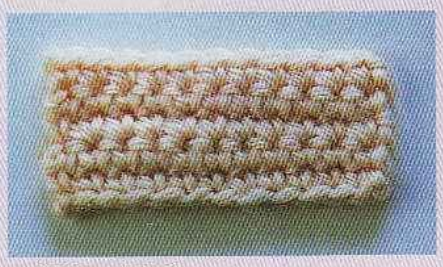
長編み



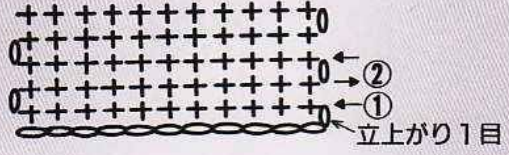
長々編み

細編(こまあ)み

JIS記号で定められた細編みの記号は×ですが、この本では細編み目を＋の記号にして前段のどの目から拾うかが、はっきり分かるようにしています。



●細編みの編み地

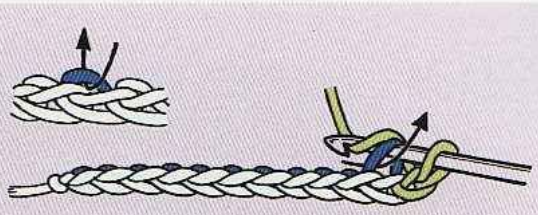


●細編みの記号図

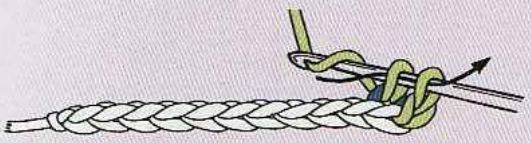
1段め



1 2号太い針で作り目し、編み地を編む号数に替えて立上がりの鎖1目を編みます。



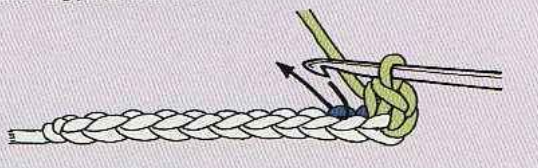
2 作り目1目めの裏山に矢印のように針を入れ、糸をかけて引き出します。



3 もう一度糸をかけ、2目を一度に引き抜きます。



5 1段めの編み終りは編み地の左側を手前に回して持ちかえます。

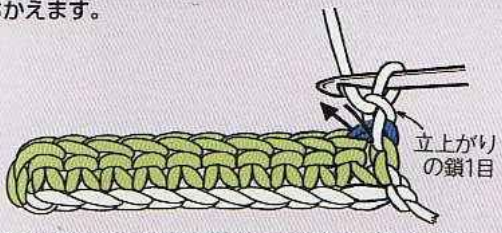


4 細編みが1目編めたところです。次の裏山を拾って同様に編みます。

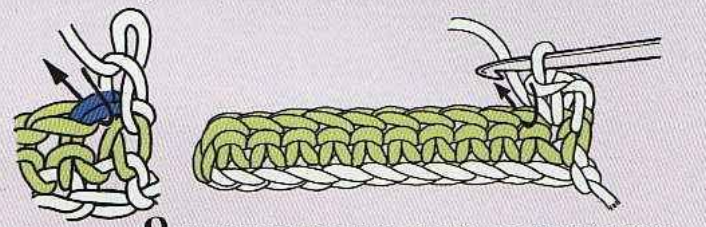
2段め



6 糸を手前に置き、立上がりの鎖を編みます。

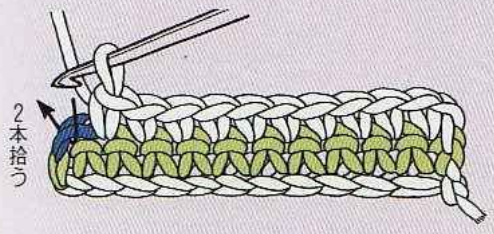


7 前段の右端の目の頭2本を拾って細編みを編みます。

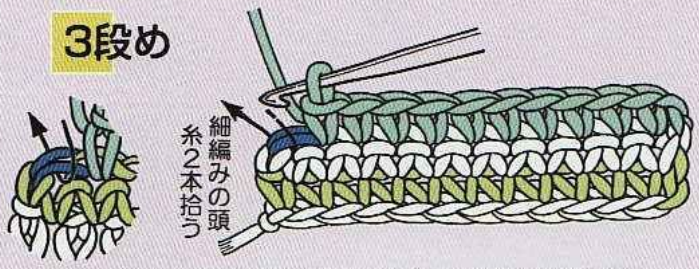


8 次からは前段の目を1目ずつ拾って同様に編みます。

3段め



9 左端の最後の目も前段細編みの頭2本を拾って編みます。3段めも編み地を回してから立上がりの1目を編みます。編み地の回し方は1段めと同じです。



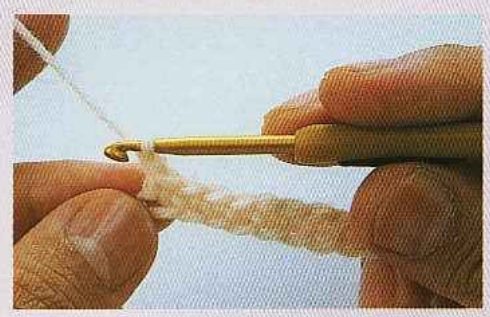
10 前段細編みの頭2本を拾って細編みを編みます。左端の最後の目も前段細編みの頭2本を拾って編みます。編み地の回し方は2段めと同じです。

ONE POINT ADVICE

編み地の回し方

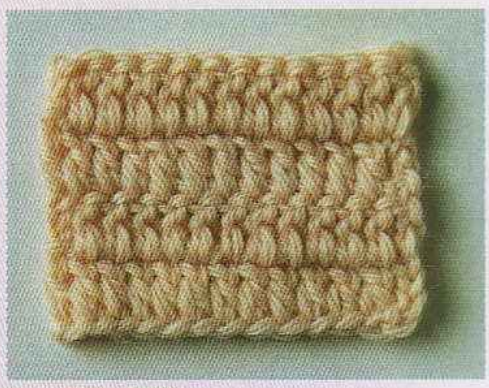
編み地の回し方の質問もよくあります。結果から言えばどちらでもよいのです。“立上りは次の段だから、編み地を回してから編む”方が理屈に合っているようですが、回す前に編んだ方が、最後の目がゆるみません。私はこの方法を使っています。ただし、編み地を回す方向は図のとおりに回さないと、編み目に空間ができてしまいます。

広瀬先生のアドバイス

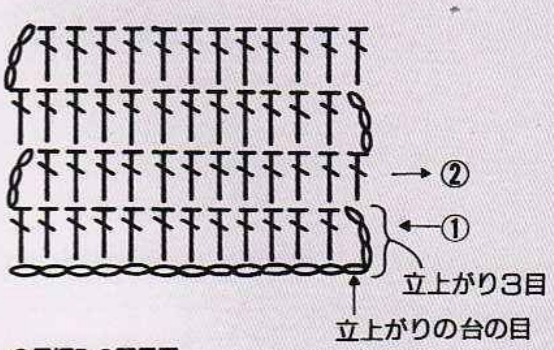


1段編み終え、続けて次の段の立上がりの鎖の1目を編んだところ。編み地を回す前に立上がりの鎖を編むと、最後の目がゆるみません。

長編み

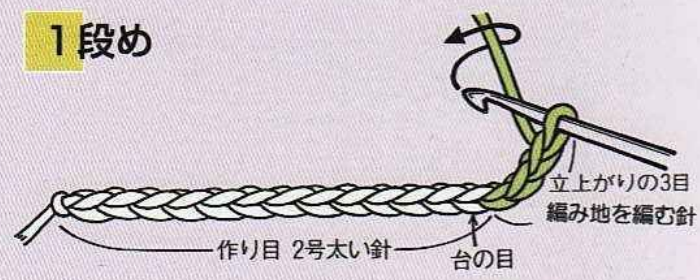


●長編みの編み地

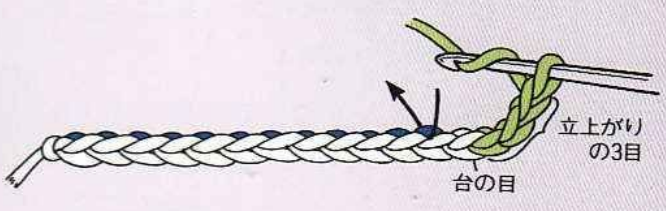


●長編みの記号図

1段め



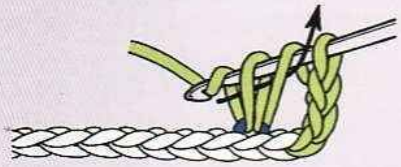
1 2号太い針で作り目し、編み地を編む号数に替えて立上がりの鎖3目を編みます。



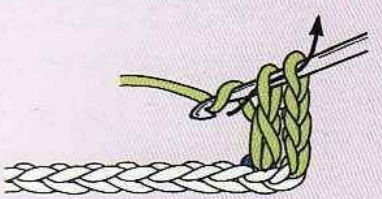
2 針から5目めの裏山に針を入れます。裏山は矢印のようにすくいます。



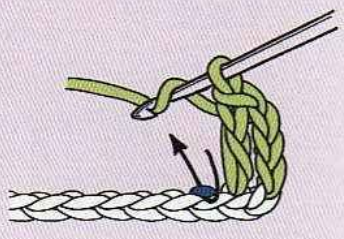
3 糸をかけて矢印のように引き出します。



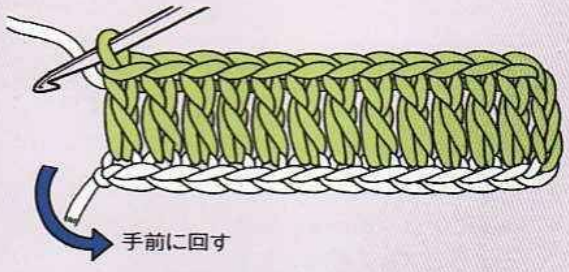
4 糸をかけて針先から2本だけ引き抜きます。



5 もう一度糸をかけて、残りの2本を引き抜きます。

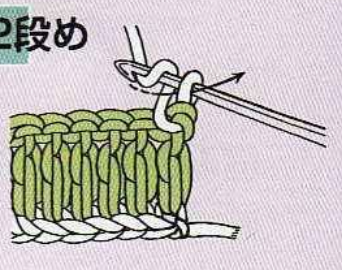


6 長編み1目が編めました。同じように糸をかけ、長編みを編みます。

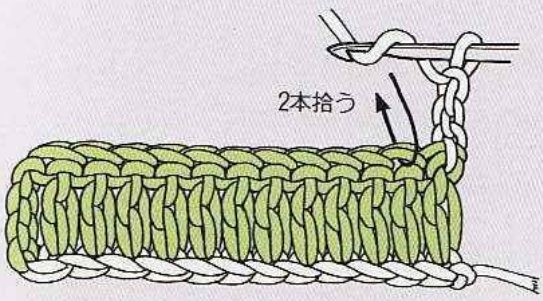


7 編み地は手前側に回して持ちかえます。回し方を反対にしますと端目と次の目の間に穴があいてしまいます。

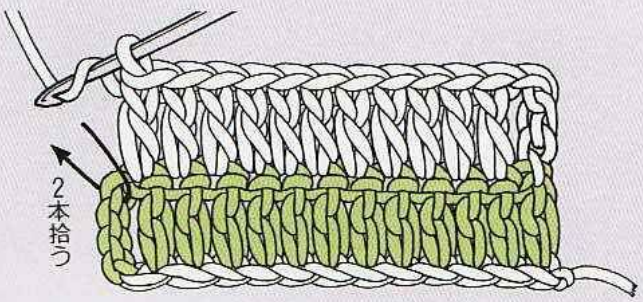
2段め



8 次段の最初の目は、糸を手前から針にかけます。

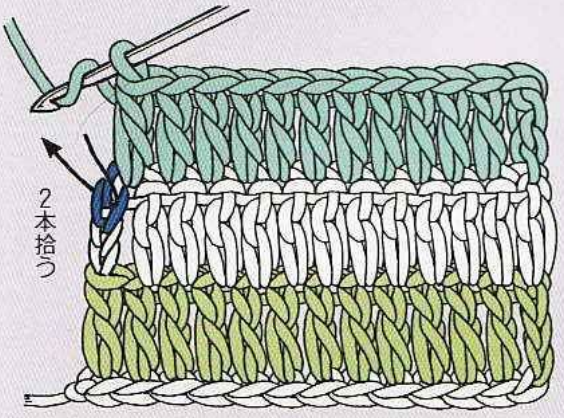


9 立上がりの鎖を編み、2目めからは前後の長編みの頭の2本を拾って編みます。

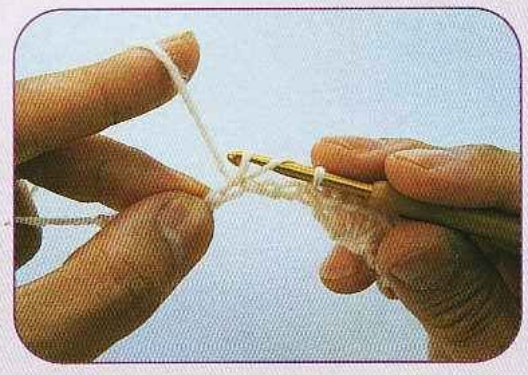


10 左端の最後は、前段の立上がりの鎖3目めの、裏山と外側にある糸1本の2本を拾って編みます。

3段め



11 編み地は必ず手前から回して持ちかえ、各段の最初には立上がりの鎖を編みます。左端は、前段の鎖が表向きになっていますので、外側にある糸1本と裏山の2本を拾って編みます。

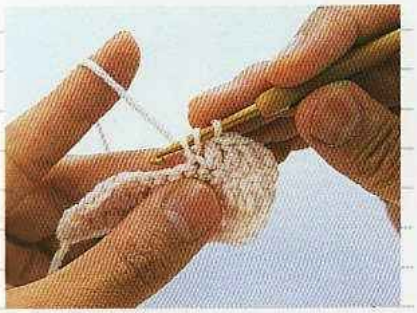


鎖1目にたくさんの編み目を入れるときは、作り目の鎖の裏山と糸1本の2本を拾います。

広瀬先生のアドバイス

長編みの角度

かぎ針編みの作品で最も多く使われるのが長編みです。この長編みをバランスよく編めると作品の仕上がりがとてもきれいです。糸をかけて引き出すときの針の角度を確認してみましょう。普通のウエアものの場合、45度くらいが適当ですが、針が水平になってしまうと長編みの足がぐずぐずになります。写真を参考に編んでみましょう。

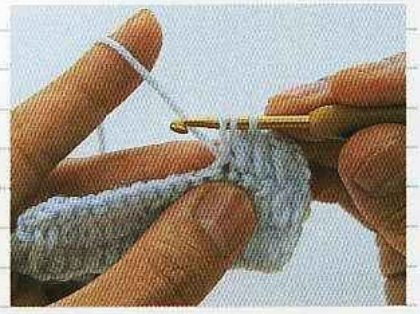


ONE POINT ADVICE

例外はあるもの

どんなことにも例外はあるもの。左で説明した長編みのバランスも、糸や作品によっては変えることもあります。平偏なリボンヤーンは幅を生かすために、ベビーの作品はふっくらとやわらかい編み目にするため針を水平に…編み物にもTPOがあるのです。

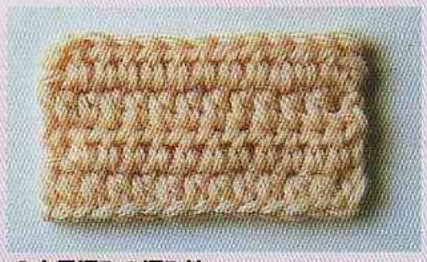




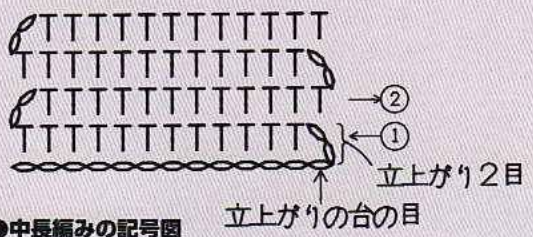
広瀬先生のアドバイス



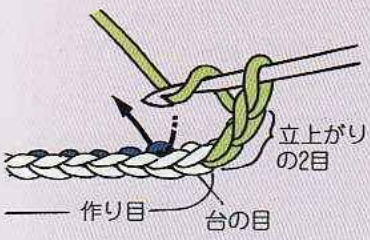
中長編み



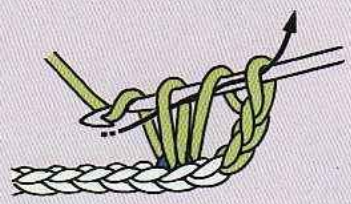
●中長編みの編み地



●中長編みの記号図



1 鎖2目で立上がり、針に糸をかけて針から4目めの鎖の裏山に針を入れます。



2 糸をかけて引き出し、針にかかった3本を一度に引き抜きます。



3 中長編み1目のでき上りです。1・2を繰返します。

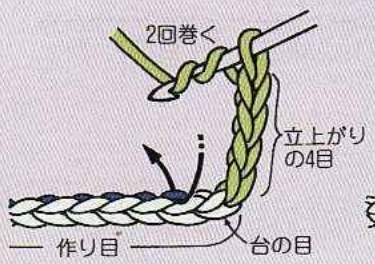


4 立上がりを1目に数えますので、4目編めたところです。

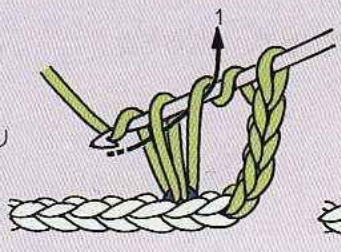
長々編み



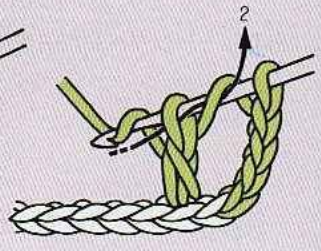
●長々編みの編み地



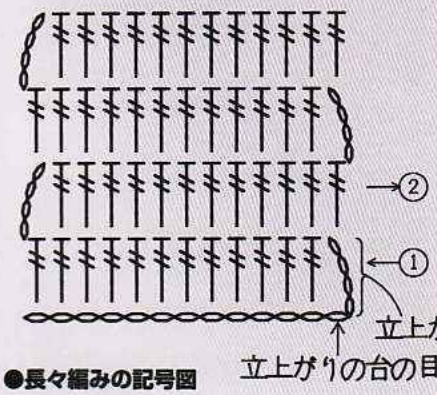
1 鎖4目で立上がり、針に糸を2回巻き、針から6目めの裏山に針を入れます。



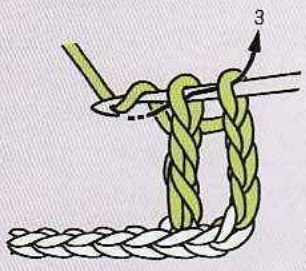
2 糸を引き出し、針にかかっている4本のうち2本だけを引き抜きます。



3 さらに糸をかけ、矢印のように2本を引き抜きます。



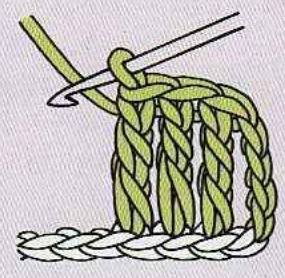
●長々編みの記号図



4 もう一度糸をかけ、残りを一度に引き抜きます。



5 1目めのでき上りです。1～4を繰返します。



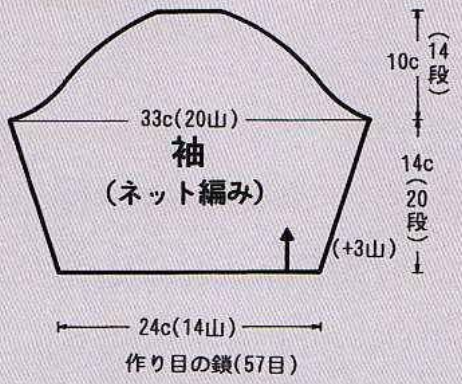
6 立上がりを1目に数えますので、4目編めたところです。

簡単な割り出し方

例 ネット編みのゲージ　10cm平方で6山・14段
袖下の割り出し



●袖の編み図



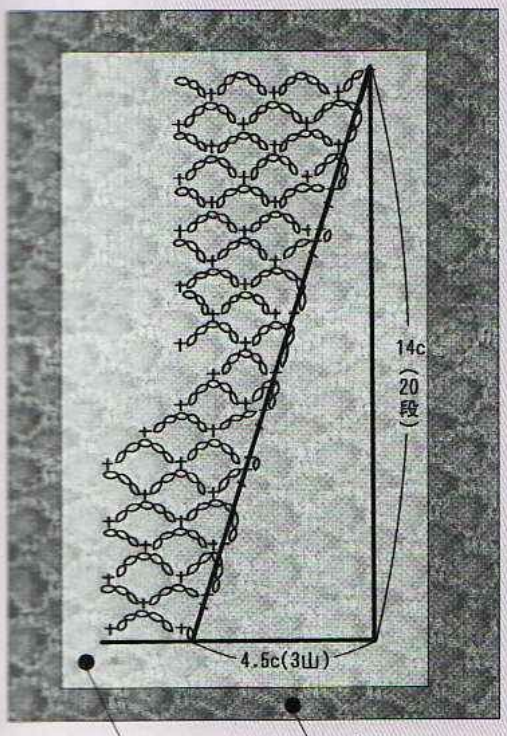
広瀬先生のアドバイス ONE POINT ADVICE

割り出しについて

かぎ針で一番の難点はカーブなどの割り出しかも知れません。ゲージが同じ場合や大きな編み目グラフがあるときはよいのですが、本の通りに編めないこともあります。掲載されているような小さな記号図をコピーして貼り合わせるのも大変です。こんな時は、後身頃などの平らな部分の編み地をコピーして割り出しに使いましょう。文明の利器も活用してください。

割り出し順序

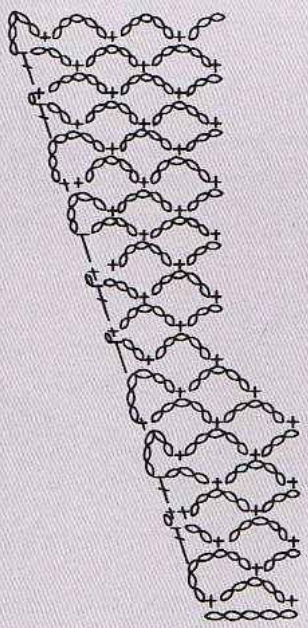
❶ゲージを取るために編んだ編地、あるいは後身頃の平らな部分を利用します。
❷編み地のコピーを取ります。このとき、編み地がゆがまないように整えてとるようにします。小さいときは複数枚とり、貼り合わせておきます。
❸トレーシングペーパーをかけて、模様数を書き入れます。
❹割り出して書いてみましょう。



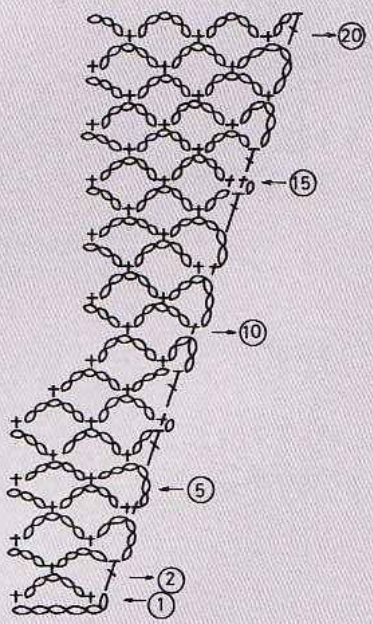
割り出し記号図が右側部分しかない場合…

反対側（左側）は中心から左右対称に編むのが原則です。
右側の立上がりの鎖の数で左側は決まります。鎖3目で立上がった段の左側は長編みに、鎖2目で立上がった段の左側は中長編みに替えれば、左右対称に仕上がります。

例 1段めの右側は立上がりの鎖と細編みですので、左側は細編み1目。2段めの右側は長編みになっていますので、左側は長編みに相当する鎖3目になることがわかります。



左側は立上がりの鎖の数で決まります。



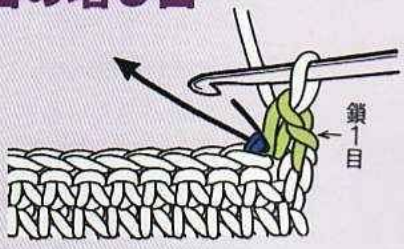
ネット編みの斜線の割り出し（右側）

基本の増減目

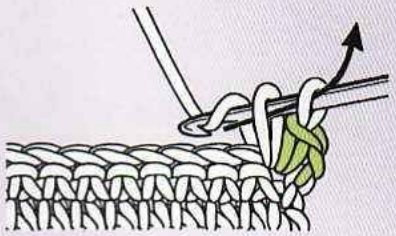
細編み1目の増し目

右側





1 立上がりの鎖を1目編みます。端の目に細編みを編みます。

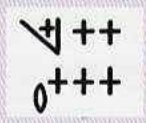


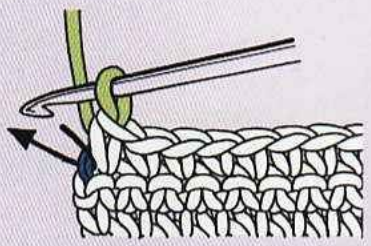
2 同じ目にもう1目細編みを編みます。



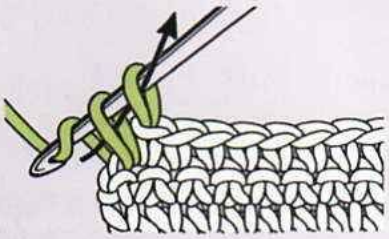
3 1目増し目ができました。

左側

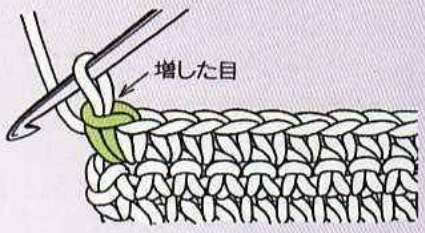




1 最後の目まで細編みを編みます。



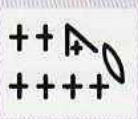
2 同じ目にもう1目細編みを編みます。



3 1目増し目ができました。

細編み1目の減目

右側

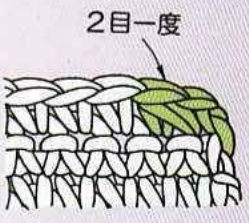




1 立上がりの鎖を1目編み、端の目と次の目から糸を引き出します。（未完成な細編みを2目編みます。）

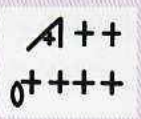


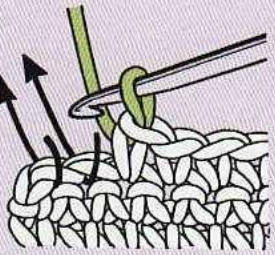
2 糸をかけて、一度に引き抜きます。



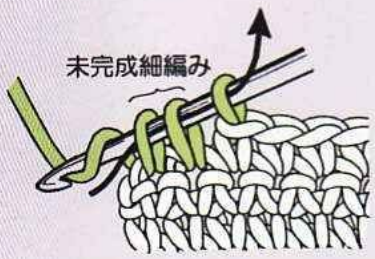
3 1目減目ができました。

左側





1 左端の2目から、それぞれ糸を引き出します（未完成な細編みを2目編みます）。



2 糸をかけて、一度に引き抜きます。

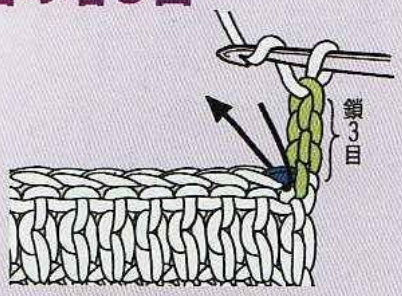


3 1目減目ができました。

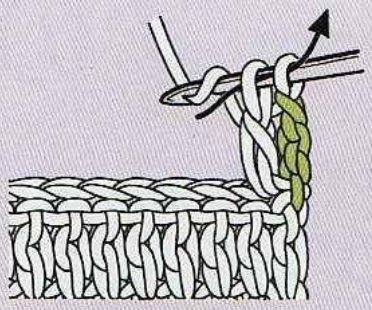
長編み1目の増し目

右側

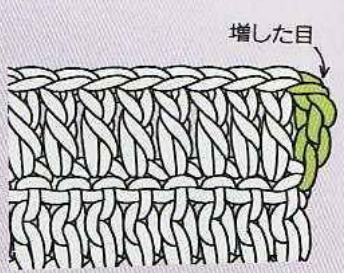




1 立上がりの鎖3目を編みます。



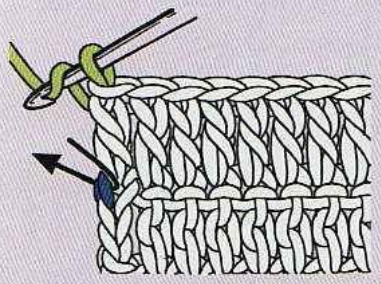
2 端の目に長編みを編みます。



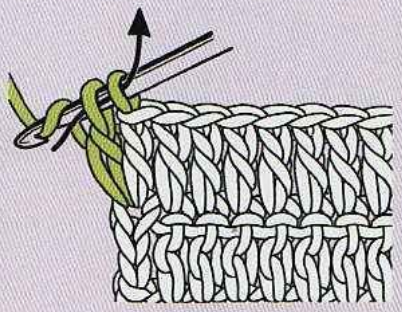
3 1目増し目ができました。

左側

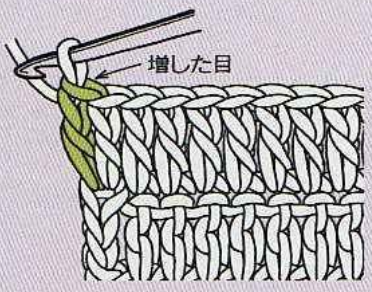




1 最後の目まで長編みを編みます。



2 左端の同じ目に、もう1目長編みを編みます。

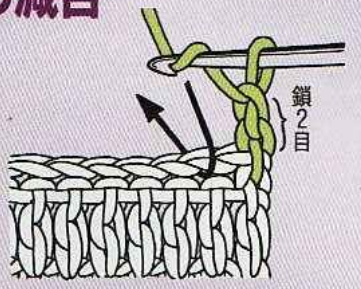


3 1目増し目ができました。

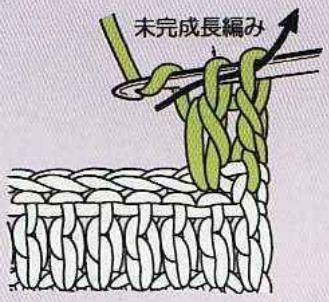
長編み1目の減目

右側





1 立上がりの鎖を2目（未完成な長編みと同じ高さ）編みます。
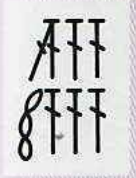


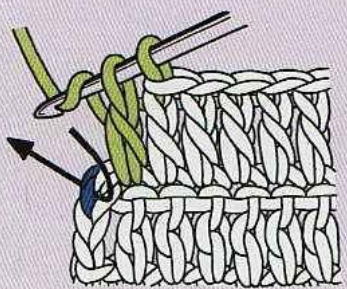
2 次の目を未完成な長編みにし、糸をかけて一度に引き抜きます。



3 1目減目ができました。

左側

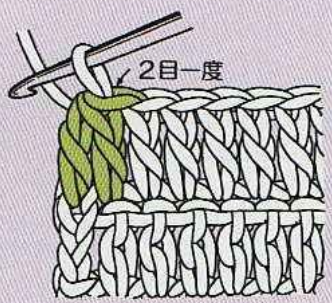




1 左端の2目を、未完成長編みに編みます。



2 糸をかけて、2目を一度に引き抜きます。

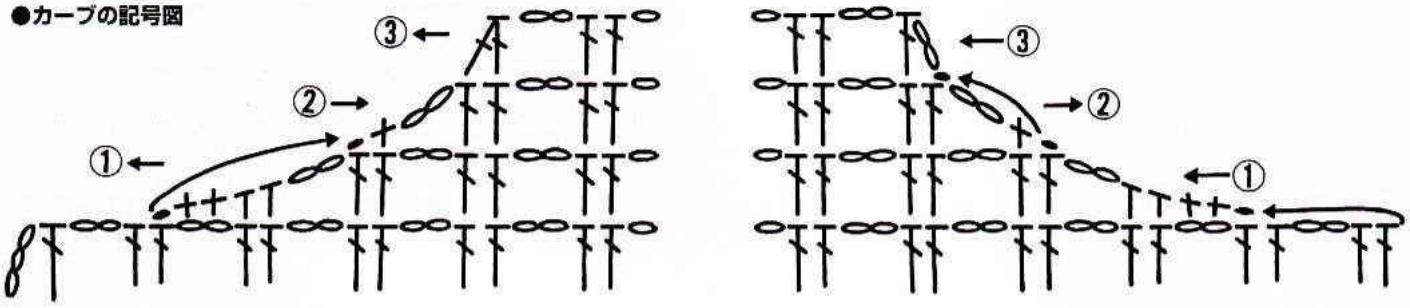


3 1目減目ができました。

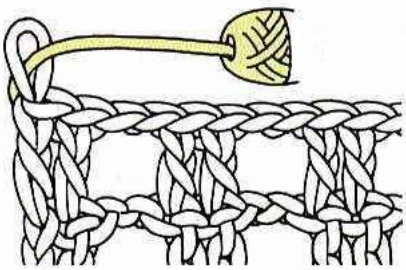
カーブの編み方

セーターの袖ぐりや衿ぐりのカーブは1段の目の高さを調整することで斜線を作る減目と、
端でする減目を組み合わせて作ります。
斜線を作る減目は、段の終わりで針にかかっている目に糸玉を通して目を止め、
その糸を切らずに次の段に渡す(下の記号図の長く伸ばした矢印部分)のがポイントです。

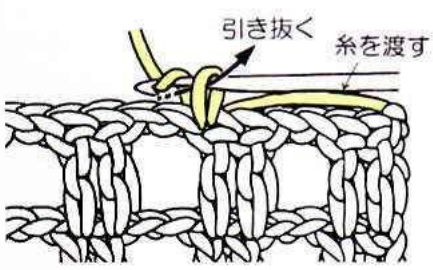
●カーブの記号図



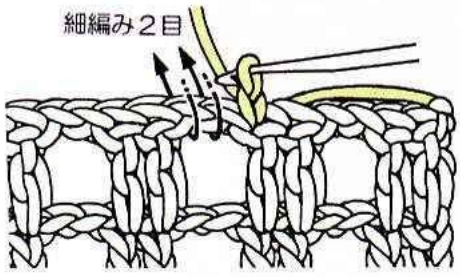
1段め・右側



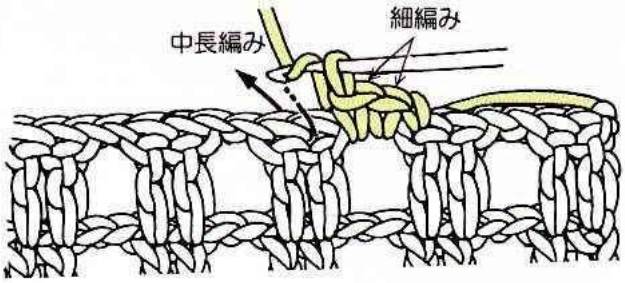
1 針にかかっている目を伸ばして糸玉を通し、目を止めます。



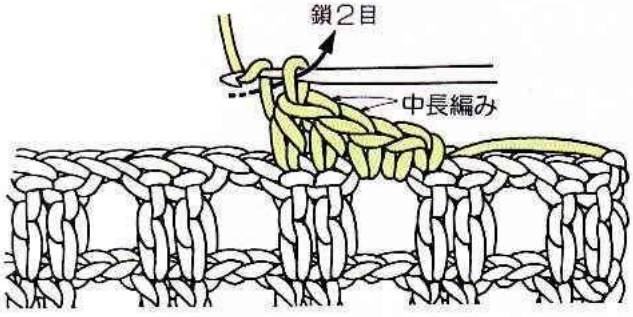
2 糸を伸ばして6目めの前段長編みの頭(糸2本)から糸を引き出し、糸をかけて引き抜きます。



3 前段の鎖を束に(そくに=すっぽりと)すくって細編み2目を編みます。

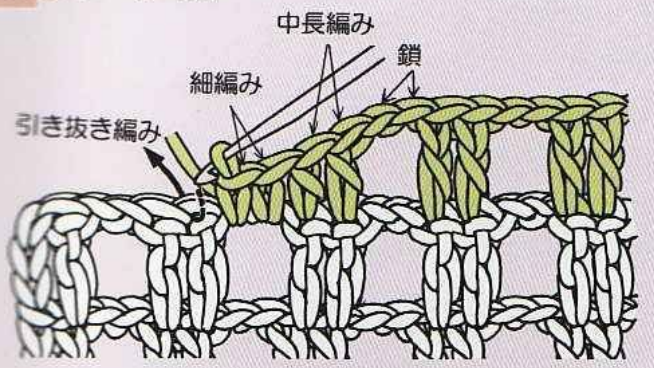


4 次は前段長編みの頭の2本を拾って中長編み2目を編みます。

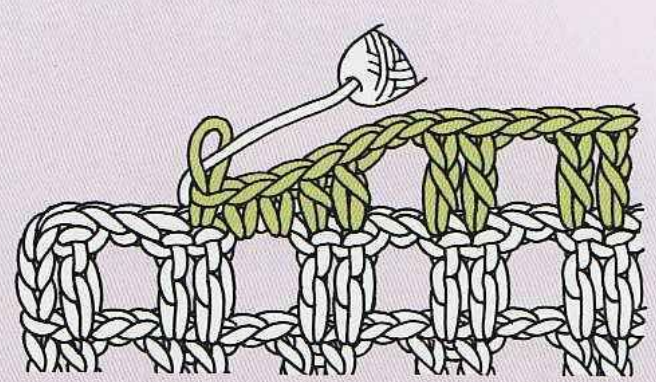


5 鎖2目を編み、あとは記号どおりに編み進みます。

1段め・左側

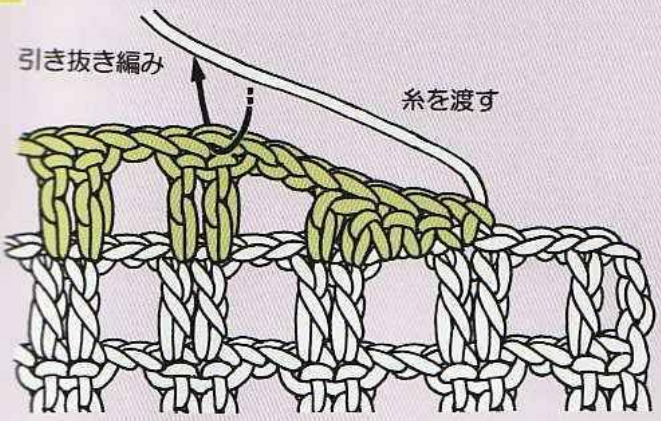


6 左側は右側とは逆に、鎖2目、中長編み2目、細編み2目を編みます。

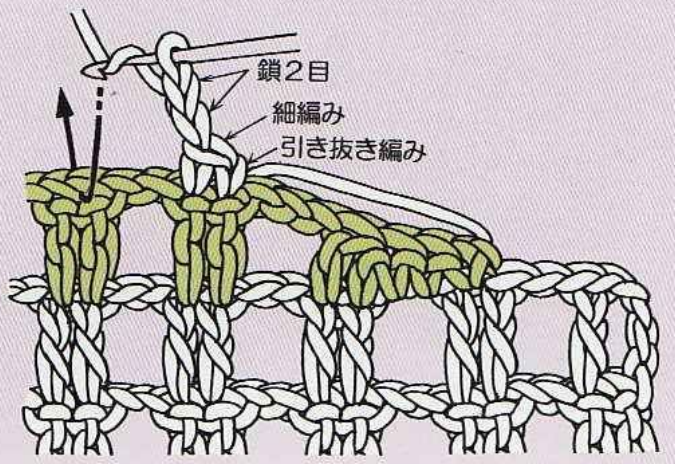


7 引き抜き編みを編んだら針にかかっている目を伸ばし、糸玉を通して止めます。

2段め・左側

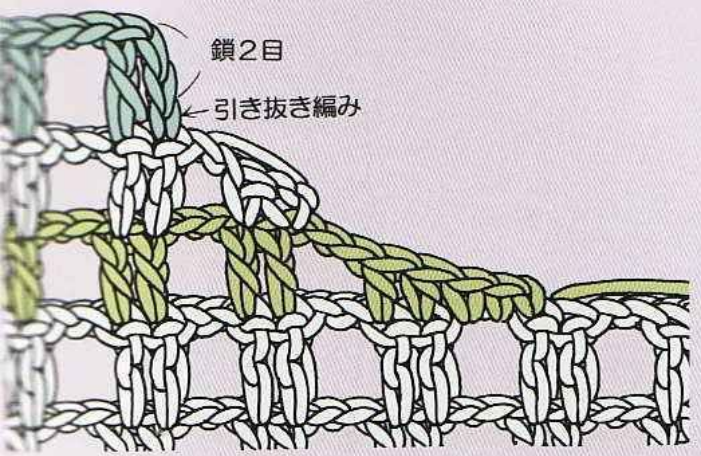


8 裏に返して糸を伸ばし、引き抜き編みをする位置で目を引き出します。



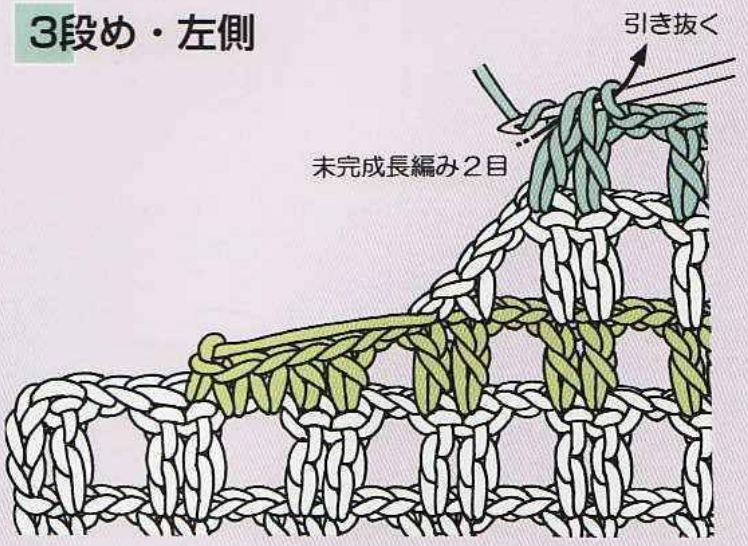
9 左右の端で斜線を作りながら、記号どおりに編み進みます。

3段め・右側



10 3段めの右側は糸を渡して引き抜きでつけ、鎖2目と未完成長編みの2目を一度に引き抜きます。

3段め・左側



11 左側は、端の2目を未完成長編みに編み、糸をかけて2目を一度に引き抜きます。

基本のモチーフ

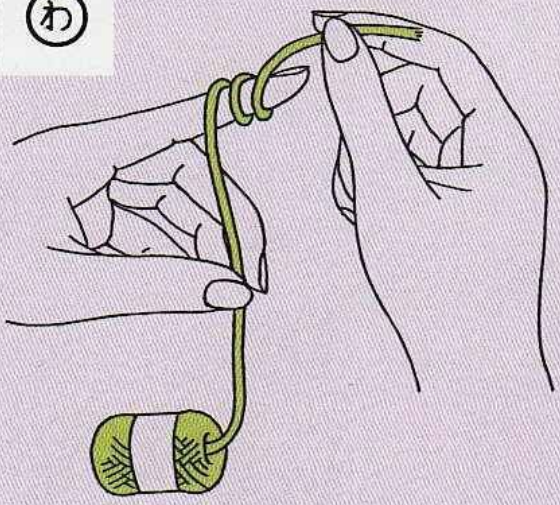
輪の作り目

円形に編むときの作り目には、大きく分けてふた通りあります。

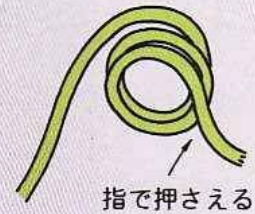
❶ 指に糸を巻いて作った輪に1段めを編み、中心をきっちりしめる方法。
❷ 鎖を編んで輪にしてそこに1段めを編む方法。中心に穴があきます。

糸端で輪を作る

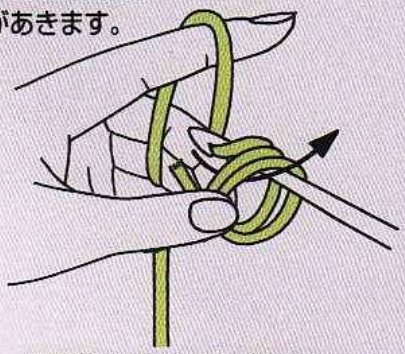
わ



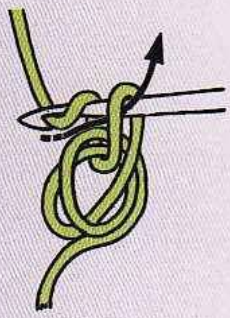
1 指に糸を2回巻きつけます。



2 輪をはずし、長い糸を左手にかけ、交点を親指と中指で押さえます。



3 輪の中に針を入れ、糸を引き出します。



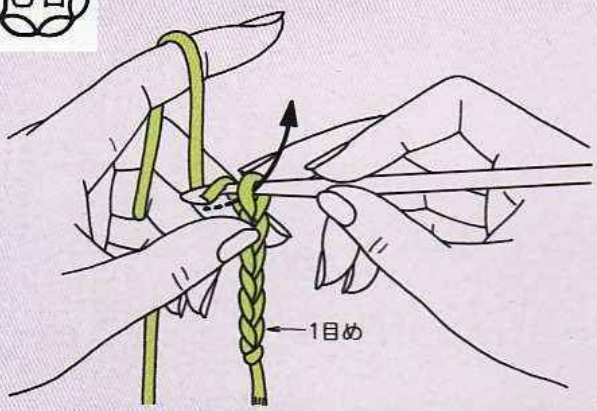
4 もう一度糸をかけて引き出し、目をしめます。



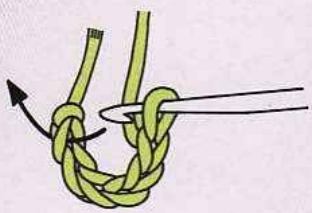
5 最初の目のでき上がり。これは1目とは数えません。

鎖で輪を作る

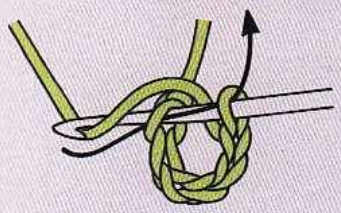
6目



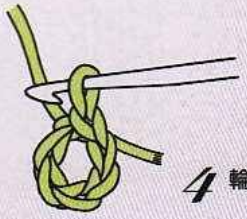
1 針に糸をかけて必要目数の鎖を編みます。



2 1目めの鎖の糸1本と裏山の2本に針を入れます。



3 糸をかけて引き抜きます。



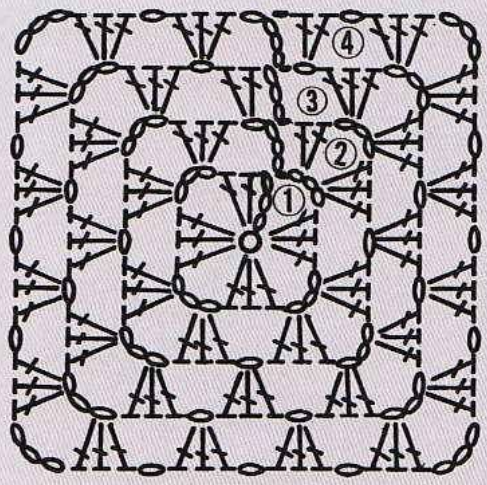
4 輪の作り目のでき上がりです。

基本の四角モチーフ

輪の作り目をして中心から外側に編み広げていく、基本の四角モチーフです。
1段めの終わりで中心をしめるときは、ゆっくりやさしく引いて下さい。
中心の糸端は裏側で編み目にくぐらせて始末します。

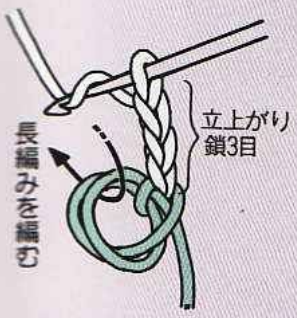


●四角モチーフ

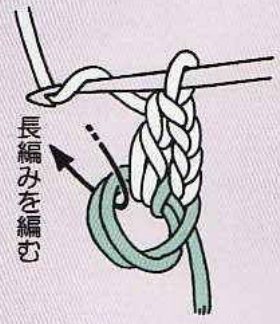


●四角モチーフの記号図

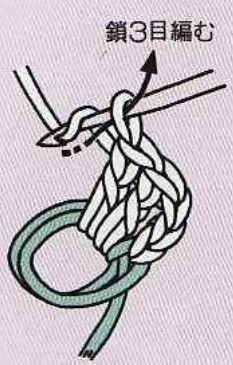
1段め



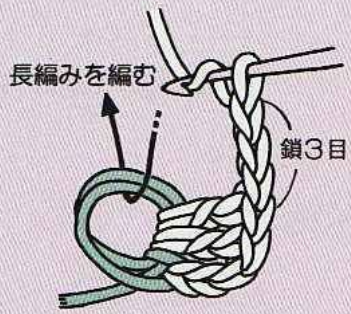
1 指に糸を巻いて中心の輪を作り、立上がりの鎖3目を編みます。



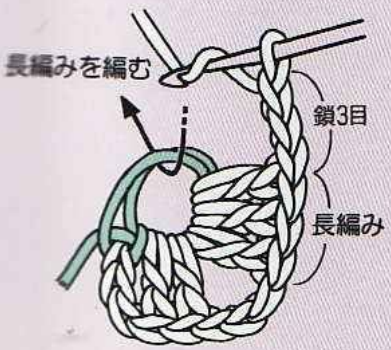
2 中心の輪に長編み2目を編みます。



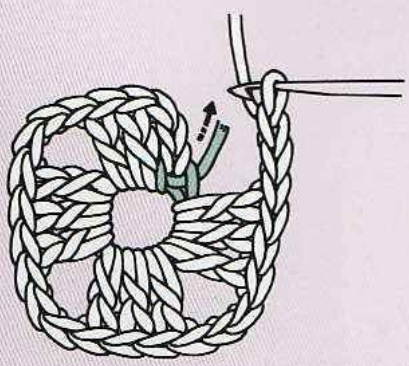
3 鎖3目を編みます。(四角形の角になります)



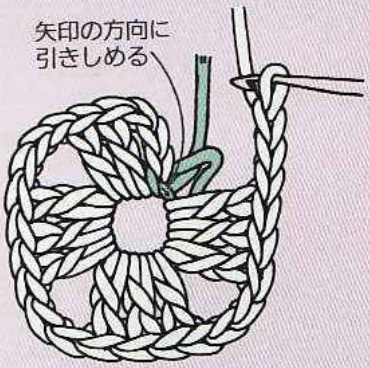
4 中心の輪に長編み3目を編みます。



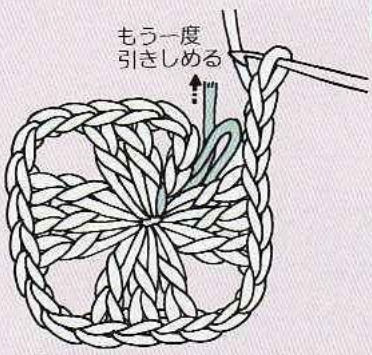
5 長編み3目と鎖3目をくり返します。



6 糸端を少し引いて動く糸を確かめます。

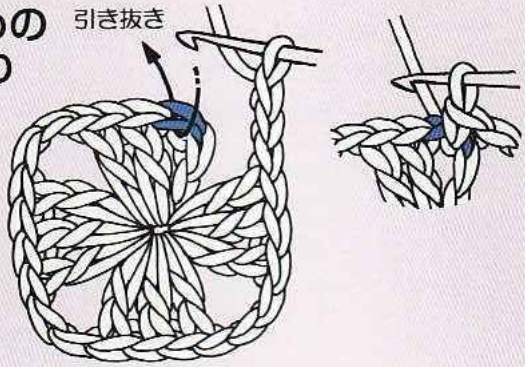


7 6で動かなかった方の糸を矢印の方向に引き、輪を縮めます。



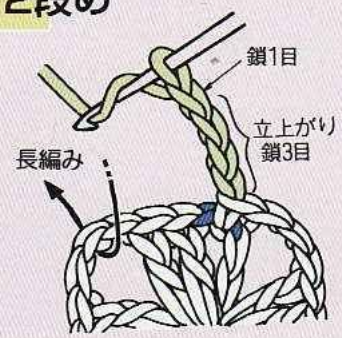
8 再び糸端を引いてしめます。

1段めの終わり



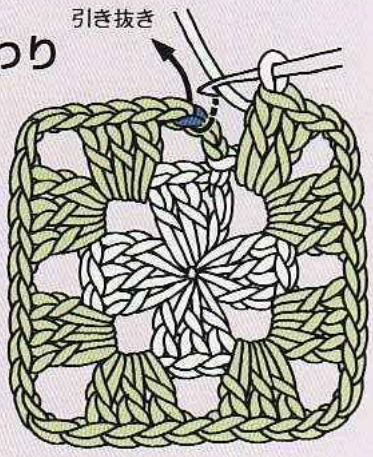
9 1段めの終わりは立上がりの鎖3目めに引き抜きます。

2段め



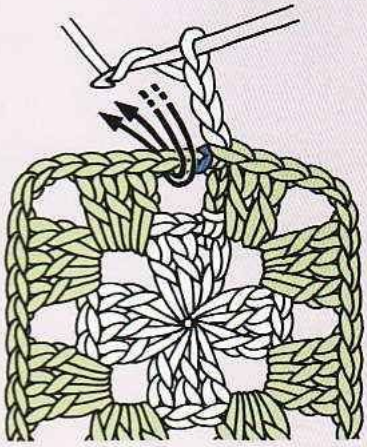
10 2段めの長編みは角の鎖を束に（そくに＝すっぽりと）すくって編みます。

2段めの終わり



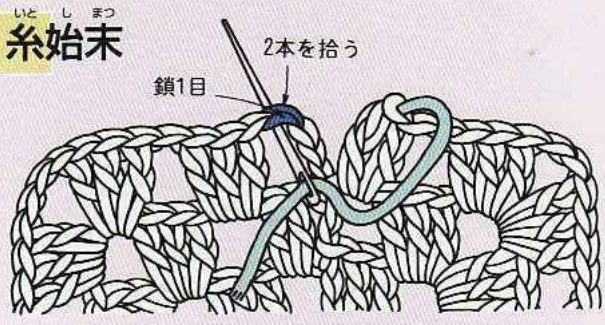
11 2段めの終わりも立上がりの鎖3目めに引き抜きます。

3段め

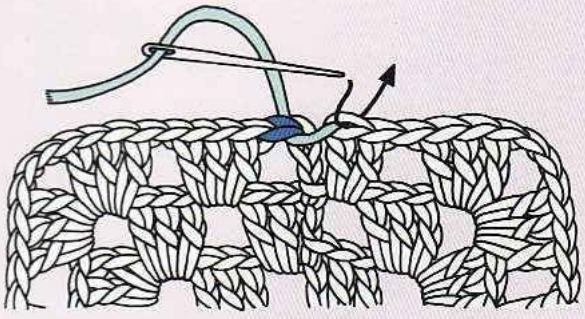


12 3段めの長編みも前段の鎖を束にすくって編みます。

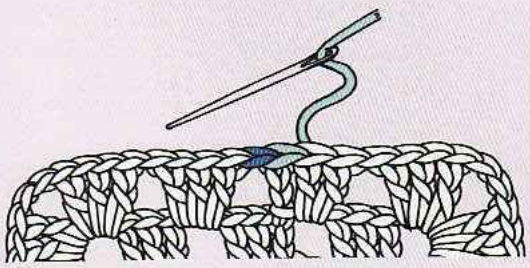
糸始末（いとしまつ）



1 糸端を7~8cm残して切り、針にかかっている目を引いて糸端を引きだし、とじ針に通します。



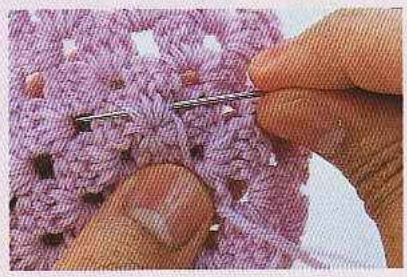
2 立上がりの次の鎖の糸2本に針を通し、再びもとの長編みに戻します。



3 糸端は裏側に出し、糸を引いて左右と同じ大きさに目を作ります。



4 糸は裏側で目立たないように編み地にくぐらせて始末します。



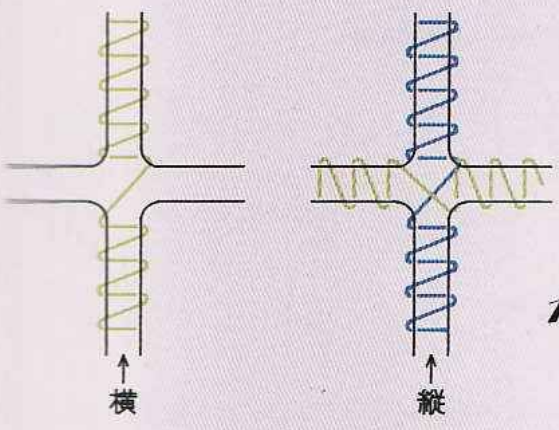
5 中心の糸もとじ針に通して同様に始末します。

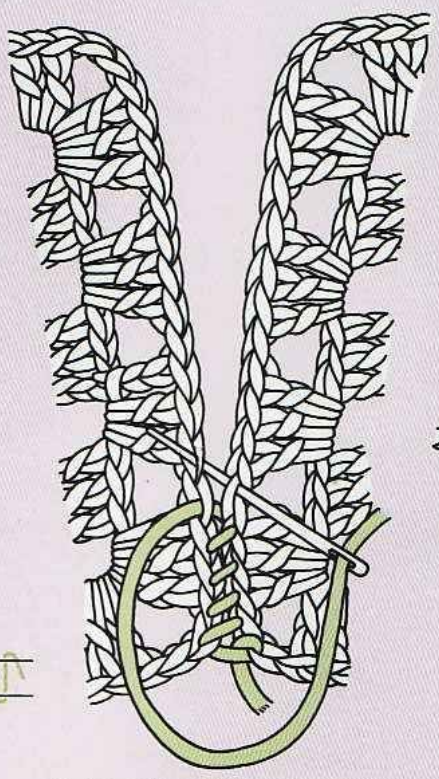
モチーフのつなぎ方

巻きかがりでつなぐ

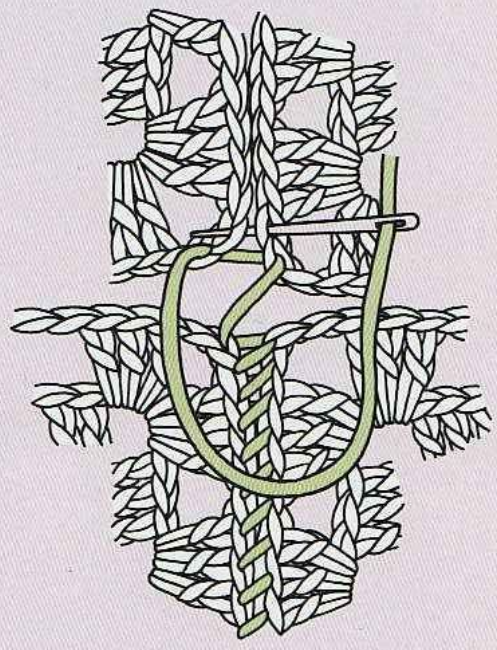
必要なモチーフを編んでおいて、あとでいっきにつなぐ方法です。

モチーフをつき合わせ、半目(糸1本)同士を巻きかがりでつなぐ方法は一番簡単で手軽な方法です。
編みためたモチーフをでき上がりの状態に並べておき、まず横方向、次に縦方向をつなぐようにします。





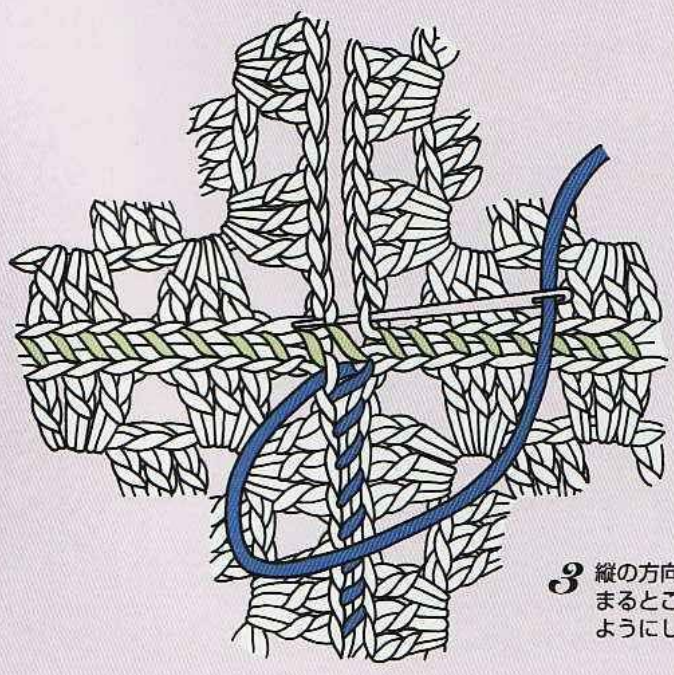
1 モチーフはつき合わせに持ち、とじ針に糸を通して内側の半目(糸1本)ずつをすくってかがります。



2 次のモチーフに移るときも、糸を切らずに同様にかがります。



＊縦方向につないでいるところです。
糸はわかりやすいように色を変えています。



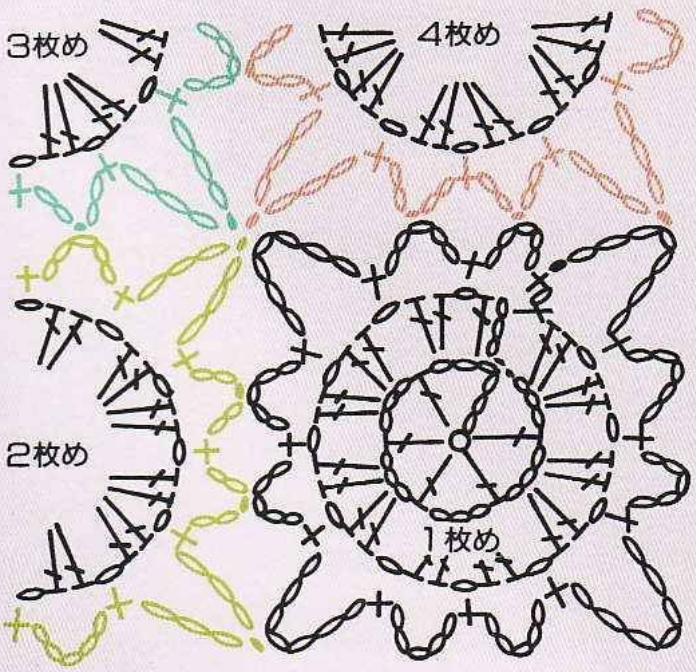
3 縦の方向も同要領。4枚集まるところは×に糸が渡るようにします。

Marisabel

引き抜き編みでつなぐ

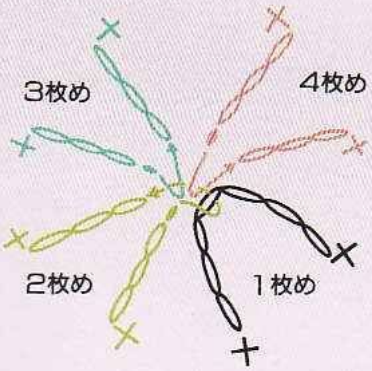


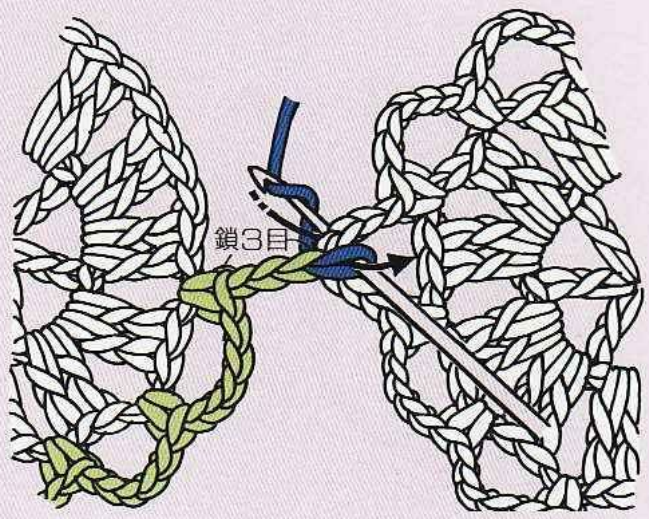
●でき上がり



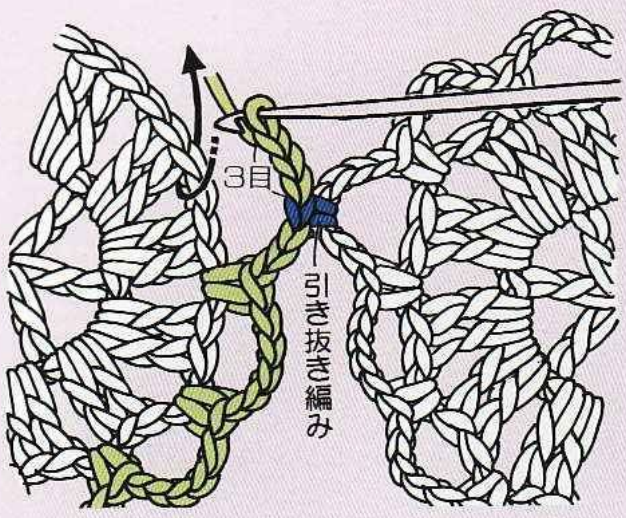
●引き抜き編みでつなぐときの記号図

編みながらつなぐ簡単な方法は、鎖目のところで相手のモチーフに引き抜くやり方です。
鎖7目のときは4目めで、5目のときは3目めで引き抜くようにします。
4枚集まる角は、2枚めは普通につなぎ、3・4枚めは引き抜き目の足に針を入れて引き抜きます。

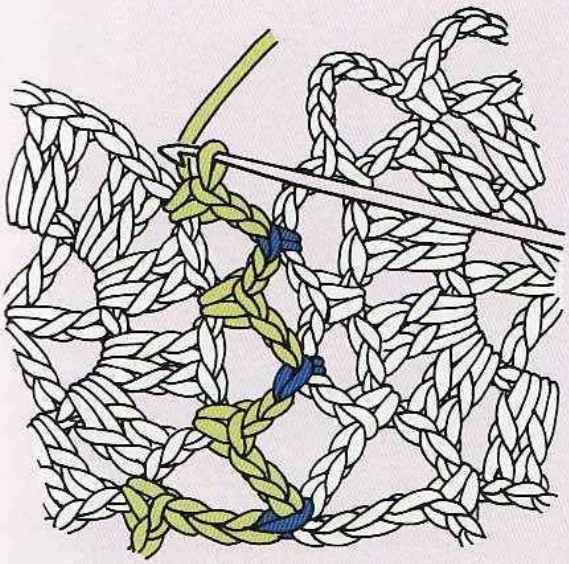




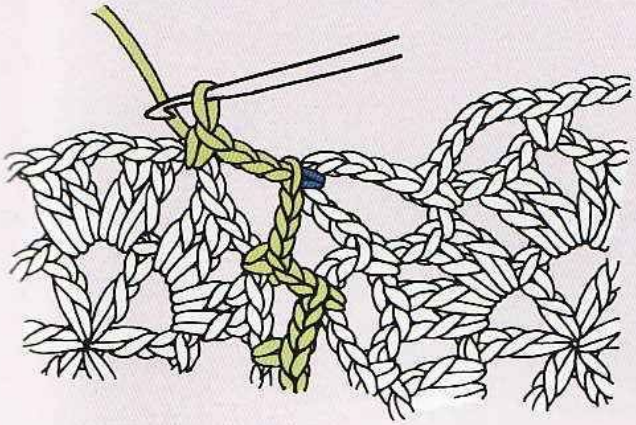
1 鎖7目のところです。4目めで、相手のループに針を入れて引き抜きます。



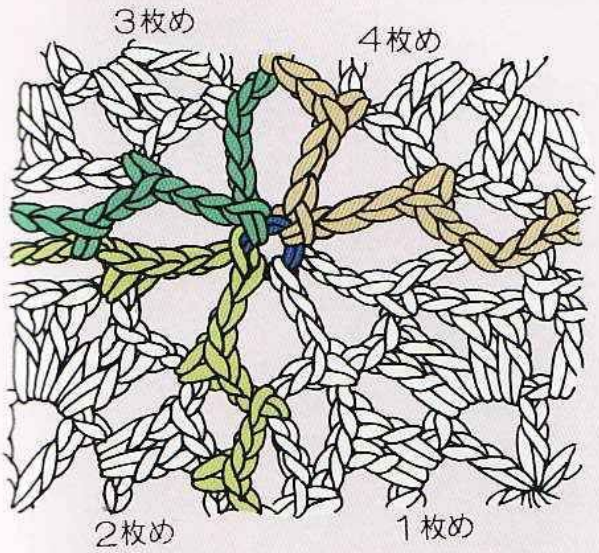
2 鎖3目を編み、記号図どおりにモチーフの続きを編みます。



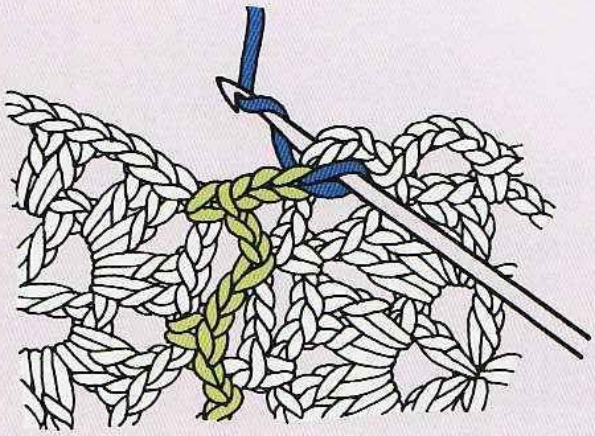
3 鎖5目のところです。鎖3目めで引き抜きます。



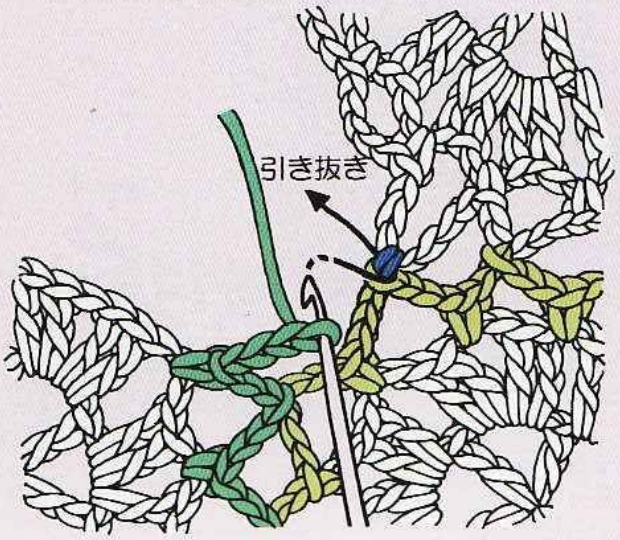
5 鎖3目編み、あとはモチーフの続きを編みます。



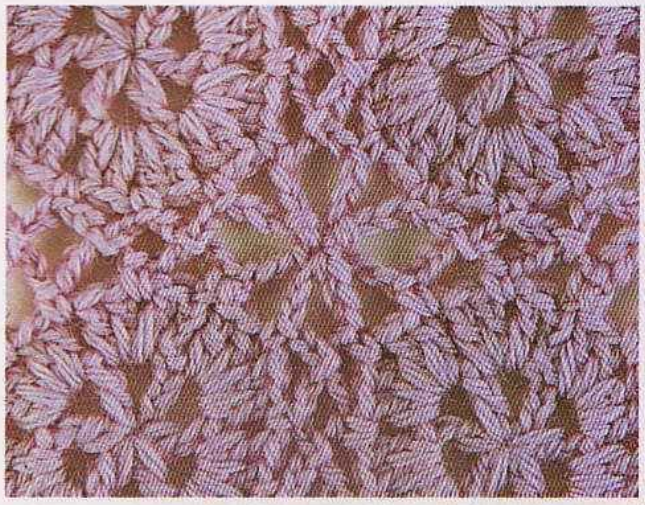
7 4枚めも3枚めと同じところに引き抜きます。



4 4枚集まる角です。2枚めは1と同様に鎖4目めで引き抜きます。



6 3枚めは2枚めの引き抜き編みの足に針を入れて引き抜きます。



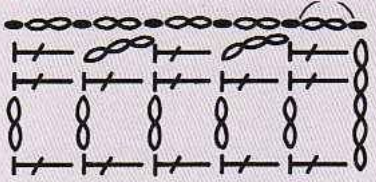
8 モチーフ4枚をつなぎました。

Marisabel

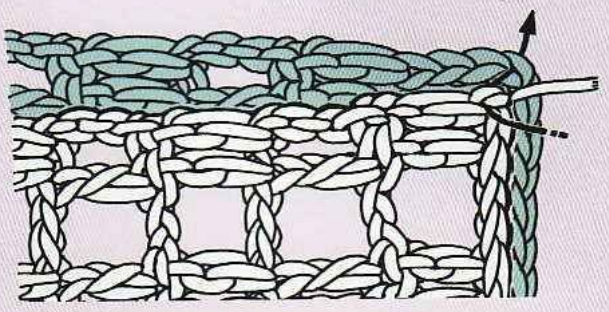
とじ・はぎ

●編み地の段と段をつなぐことをとじといいます。
セーターの脇や袖下などがそれにあたります。とじるときは、編み地についている(残っている)糸を使います。
●編み地の目と目をつなぐことをはぎといいます。セーターの肩はぎがそれにあたります。
肩の編み終わりのときに、肩の編み地の幅の5~6倍の糸を残しておいてはぎ合わせます。

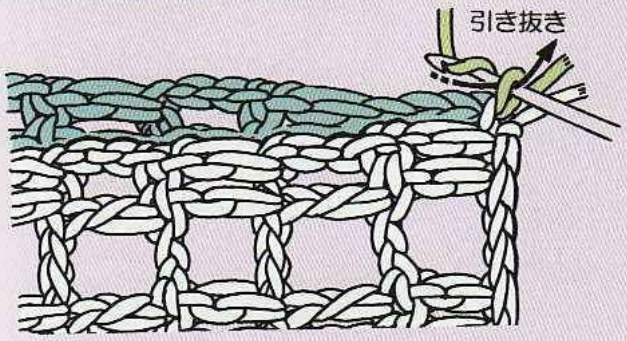
引き抜き編みの鎖とじ



●引き抜き編みの鎖とじの記号図



1 編み地を中表に合わせ、作り目の矢印の位置にかぎ針を入れて糸を引き出します。

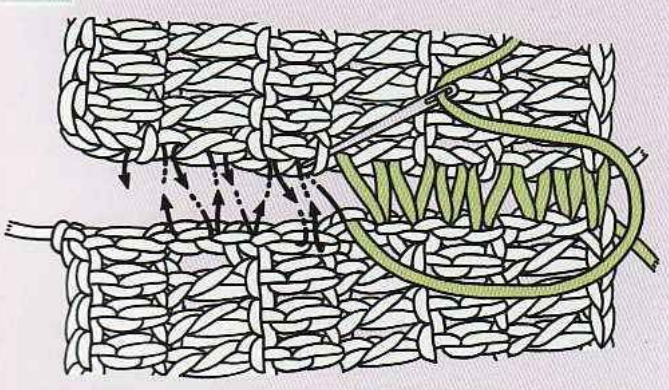


2 針に糸をかけて引き抜き編みを編みます。



3 続けて鎖2目編み、1段めの長編みの頭に引き抜き編み1目を編みます。

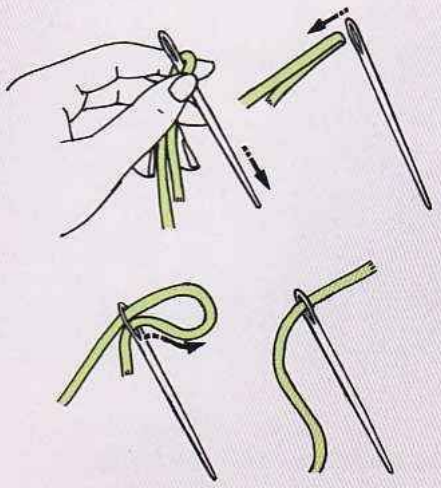
すくいとじ



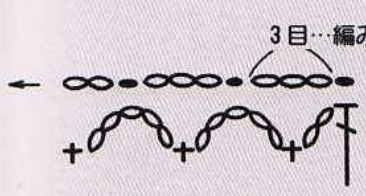
表側を見てつき合わせにします。端の目を割ってとじ針を入れ、糸2本ずつすくって交互にとじます。糸は割り糸(25ページ参照)を使います。

糸の通し方

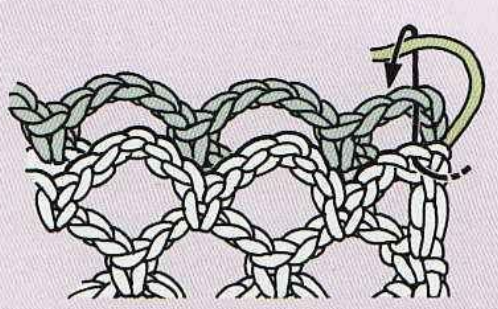
糸がかたくて通しにくいときは、先端をほぐしてやわらかくします。



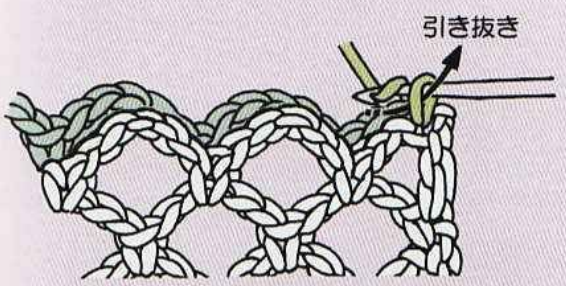
引き抜き編みの鎖はぎ



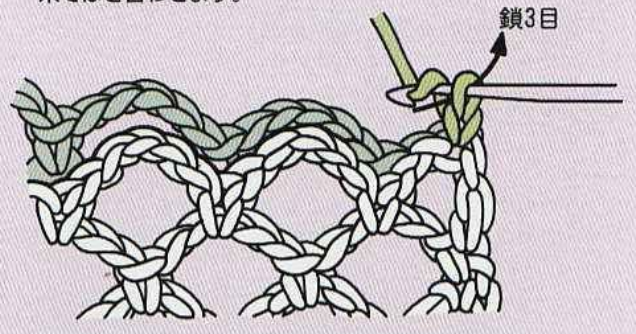
●引き抜き編みの鎖はぎの記号図



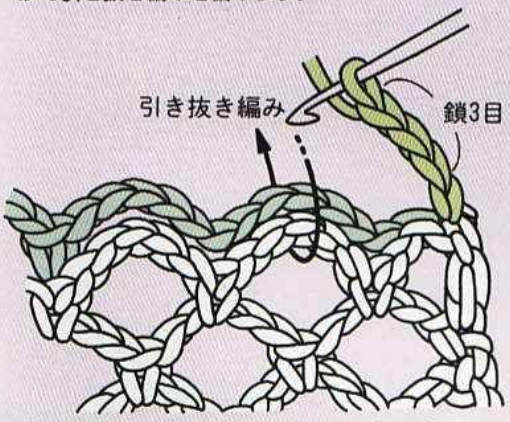
1 中表に2枚を合わせ、編み地についている(残っている)糸ではぎ合わせます。



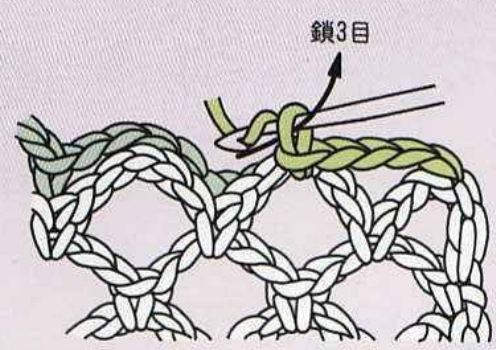
2 最終段の目に針を入れて糸を引き出し、針に糸をかけて引き抜き編みを編みます。



3 鎖3目編みます。この鎖は編み地に合わせて調整します。



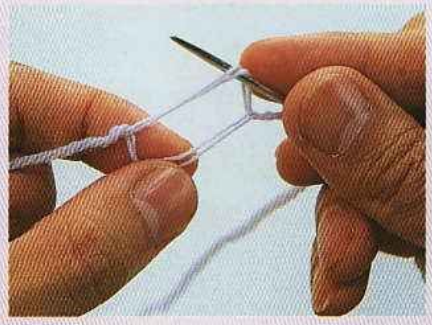
4 2枚の編み地を束に（そくに＝すっぽりと）すくって引き抜き編みを編みます。



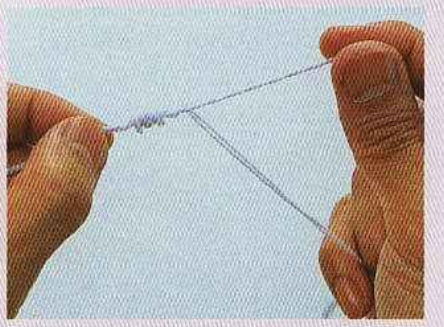
5 いつも3・4をくり返します。

割り糸の作り方

糸が太いときは半分に割って使います。



1 適当な長さに糸を切り、長さの1/2あたりで撚りをもどして半分に分けます。



2 しごくようにして糸を分けます。

Marisabel

仕上げ

縁編みのしかた

セーター、カーディガンの裾、袖口、前端の縁編みをするときのポイントです。
縁編みはいつも表側ばかり見て編むとめくれてきます。偶数段は編み地を持ちかえて、
裏を見て編むと落ちつきます。

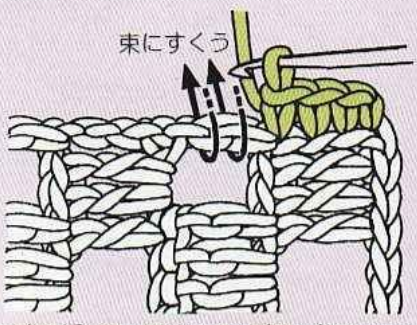
段から目を拾う



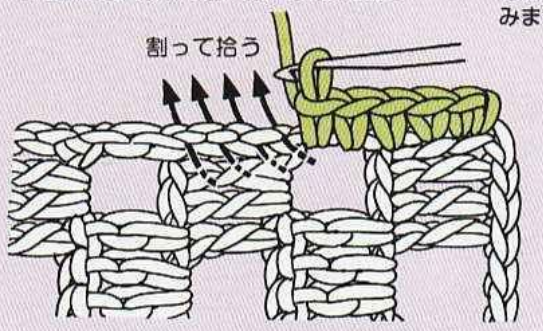
1 立上がりの鎖1目め(鎖の糸1本と裏山の計2本)に針を入れて糸を引き出します。



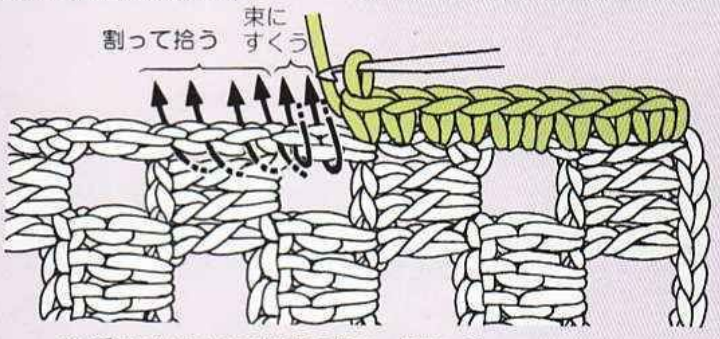
2 鎖1目を編み、編み始めの糸端を編み地の端に添わせながら鎖目に細編みを編みます。



3 次の透けているところは束に（そくに＝すっぽりと）すくって細編みを編みます。



4 長編みで埋まっているところは長編みの頭と鎖目に編みます。



5 透けているところは束に編み、埋まっているところは編み目を割って編みます。

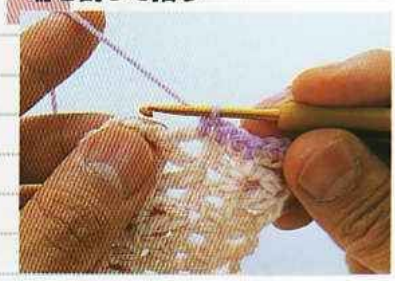
縁編みの拾い目

縁編みの拾い目も、これでなければいけないということもないのですが、一般的にはネット編みや方眼編みをベースにしたものはすっぽり(これを束に拾うという)拾い、地模様は割って拾うことになります。先ずはバランスよく拾うことの方が大事です。



広瀬先生のアドバイス

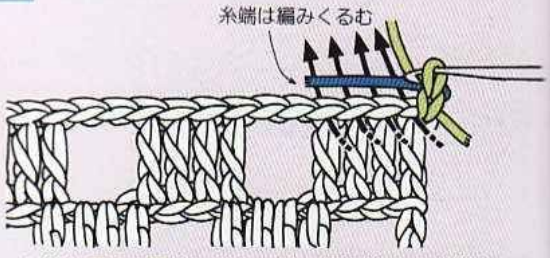
端を割って拾う



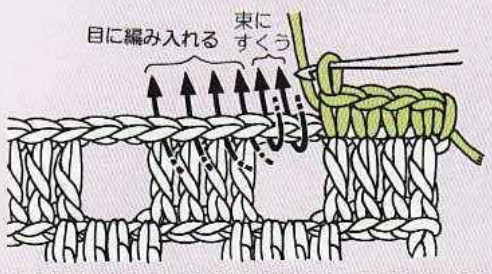
束に(そくに＝すっぽりと)拾う



作り目から拾う

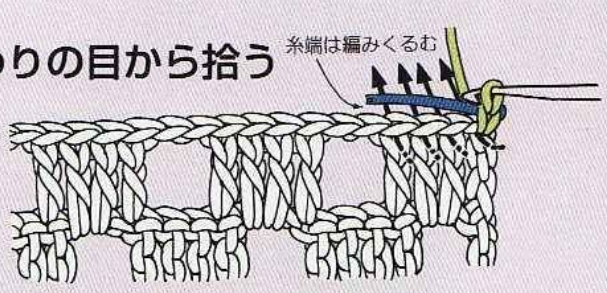


1 作り目の1目めに糸をつけ、編み始めの糸端を編み地の端に添わせながら細編みを編みます。

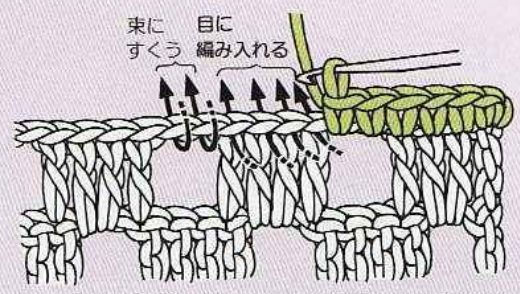


2 透けているところは束にすくい、長編みで埋まっているところは作り目に1目ずつ編みます。

編み終わりの目から拾う

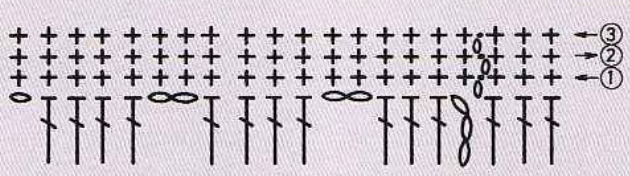


1 端の目に糸をつけ、編み始めの糸端を編み地の端に添わせながら鎖目に細編みを編みます。

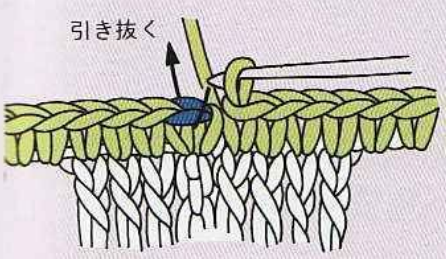


2 長編みで埋まっているところは1目に1目ずつ編み、透けているところは束にすくって編みます。

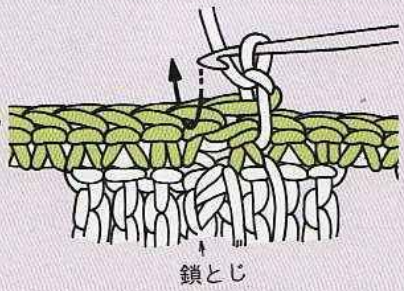
往復編みの編み方



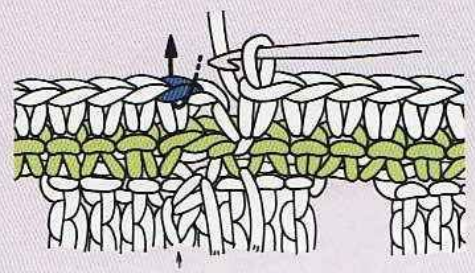
●往復編みの縁編みの記号図



1 縁編み1段めの終わりは1目めに引き抜きます。編み地を持ちかえます。



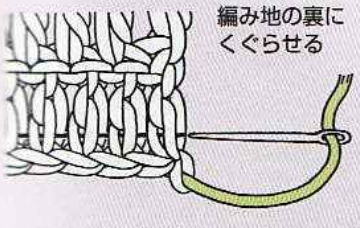
2 立上がりの鎖を編み、1目に1目ずつ細編みを編みます。

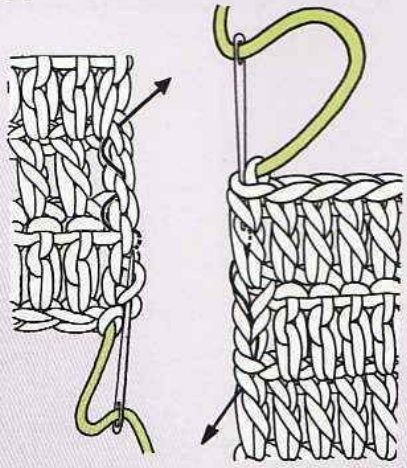


3 2段めの終わりは2段めの始めの目に引き抜き、持ちかえて3段めに移ります。

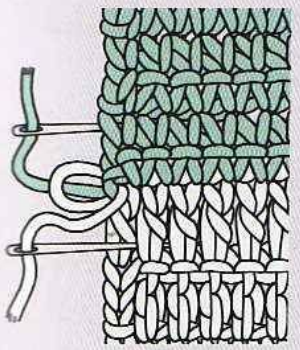
糸始末

糸端は目立たないように編み地の端の目や、編み地の裏にくぐらせます。





端の目にくぐらせる



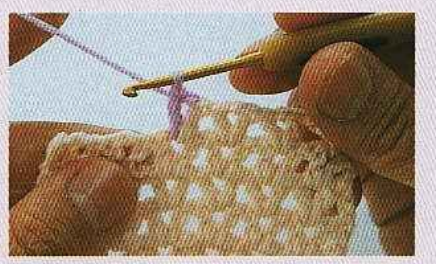
配色のときは同色の編み地側にくぐらせる

糸の足し方

編んでいる途中で糸を足すときはできるだけ端で替えるとよいのですが、このように途中でもできます。

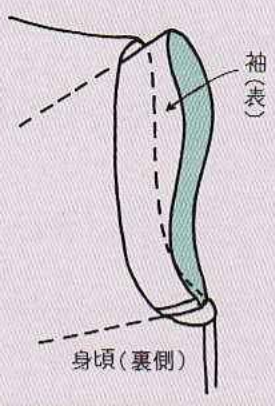


1 長編みを未完成にして、新しい糸で2本を一度に引き抜きます。

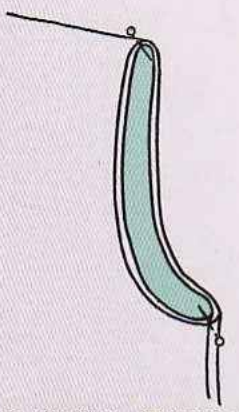


2 そのまま次の目を編みます。

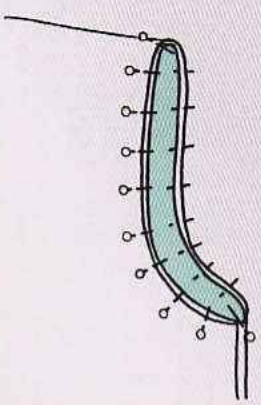
袖つけ　袖のつけ方順序



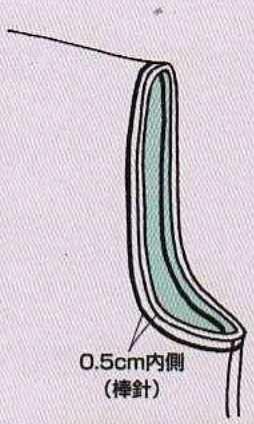
1 身頃の中に袖を入れて中表に合わせます。



2 脇と袖下、袖山中心と肩を合わせてまち針を打ちます。



3 編み地を平均になるように合わせ、袖下から肩に向かって細かくまち針を打ちます。



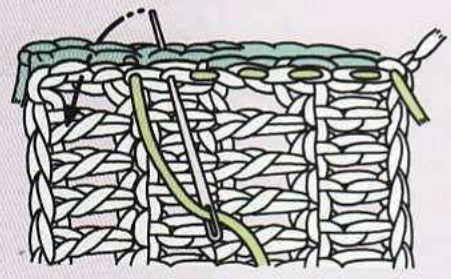
4 かぎ針の場合は端目をとじます。棒針の場合は0.5cm内側をとじます。

引き抜き編みと鎖でつける

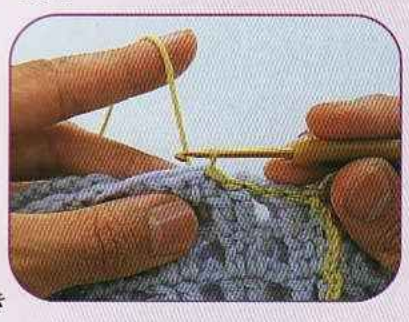
引き抜き編みは編み目の頭に編み入れ、間の鎖は編み目の長さに合わせ、1～3目に変えます。

半返し縫い

中表に合わせ、端の目を割って縫います。
進んだ間隔の半分をもどって縫い進みます。

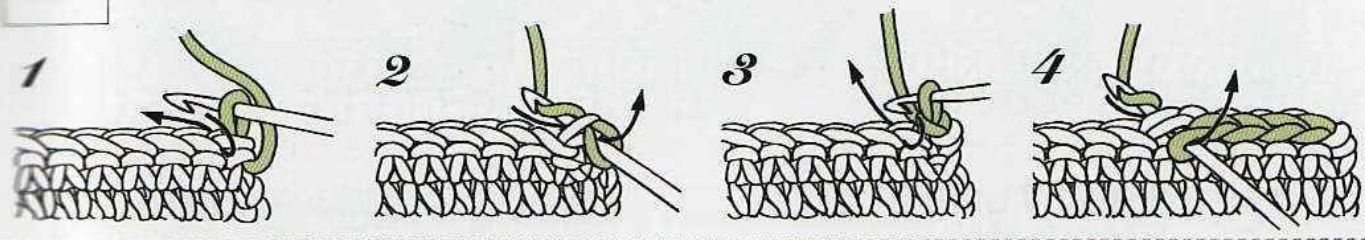


糸が太いときは同色の細めの糸でとじます。



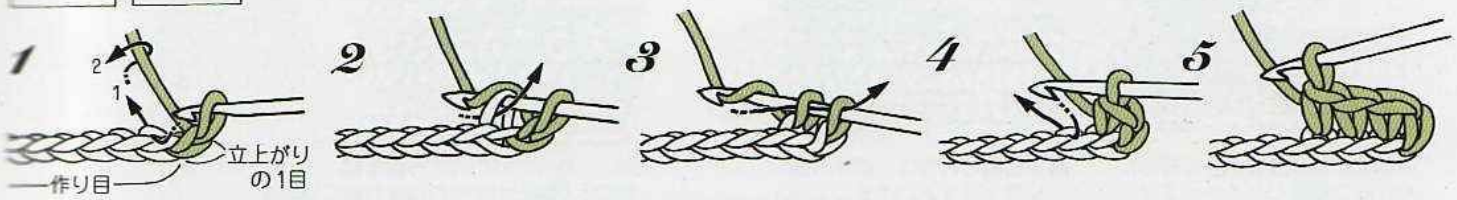
編み目記号の編み方

引き抜き編み目（ひきぬきあみめ）

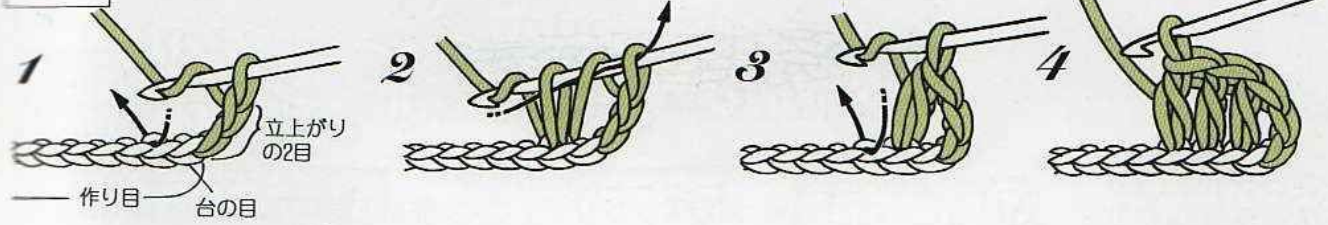


細編み目（こまあみめ）

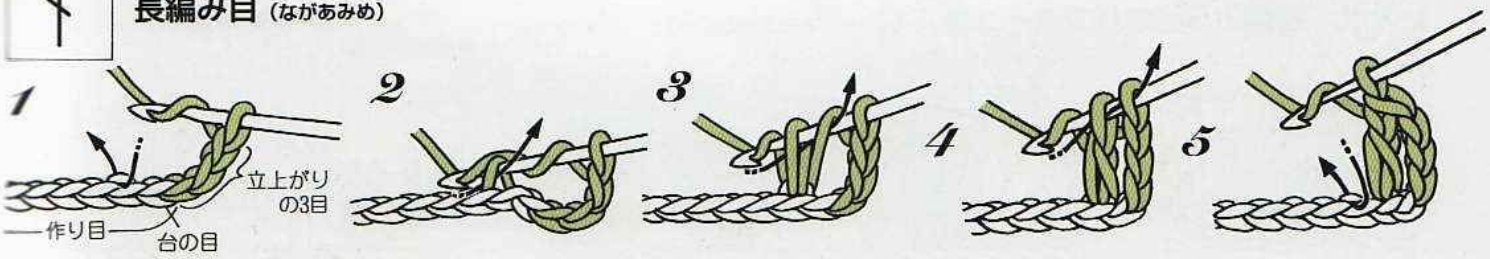
ＪＩＳ記号で定められた細編みの記号は×ですが、日本ヴォーグ社では針を入れる位置がわかりやすいように＋で表示しています。



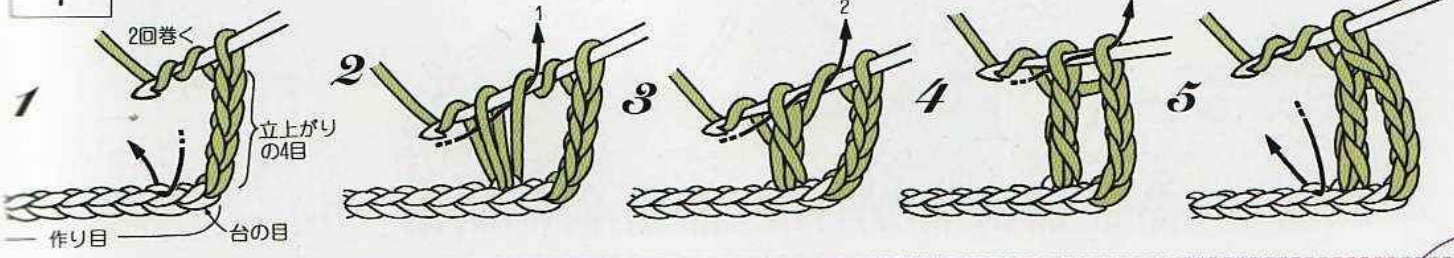
中長編み目（ちゅうながあみめ）



長編み目（ながあみめ）



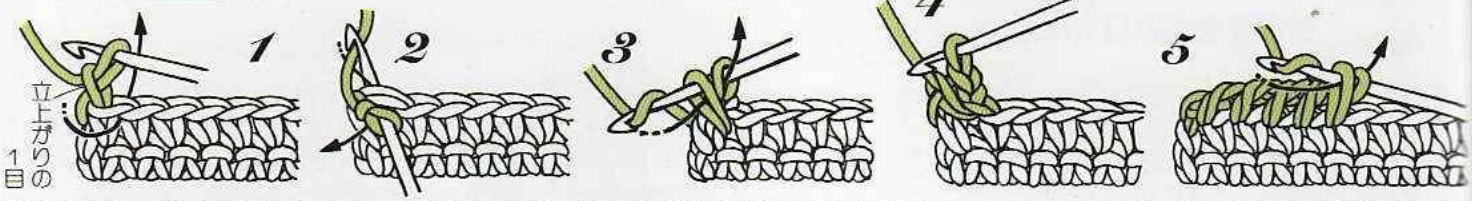
長々編み目（ながながあみめ）



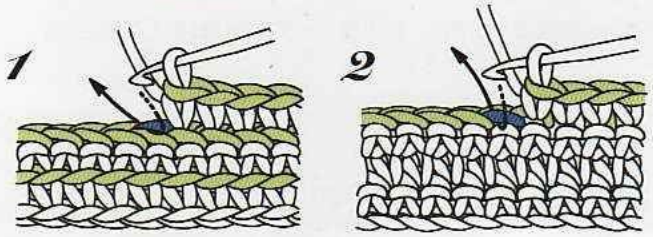
Let's Knit Series NV6077

Marisabel

バック細編み目（ばっくこまあみめ）



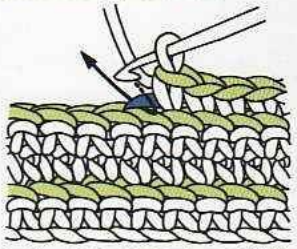
細編みのすじ編み目
（こまあみのすじあみめ）



表側にすじが立つように編むため、表から編むときは、前段の頭の向こう側半目を拾い、

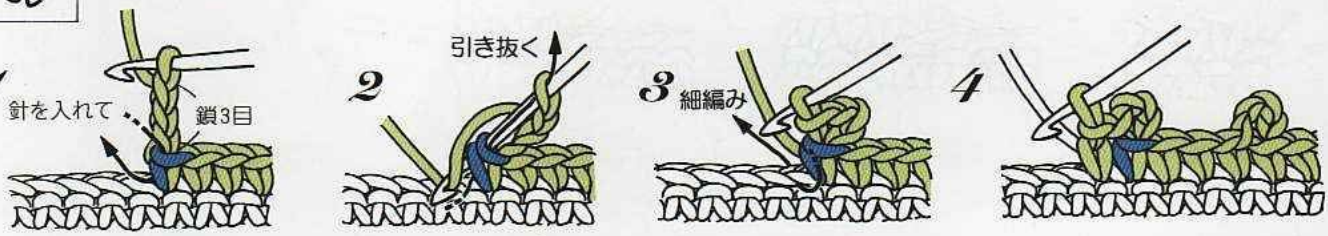
裏から編むときは、前段の手前側半目を拾います。

細編みのうね編み目
（こまあみのうねあみめ）

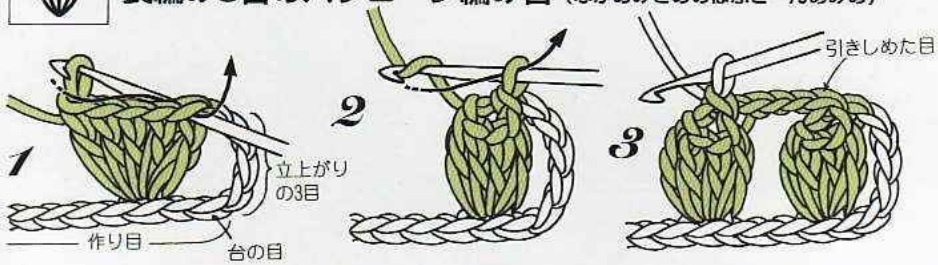


毎段、前段の頭の向こう側半目を拾って編みます。うね状の編み地になります。

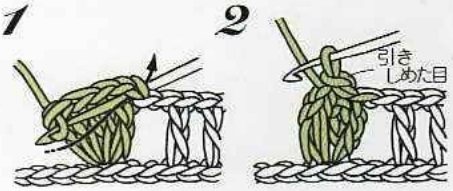
鎖3目の引き抜きピコット（くさりさんめのひきぬきぴこっと）



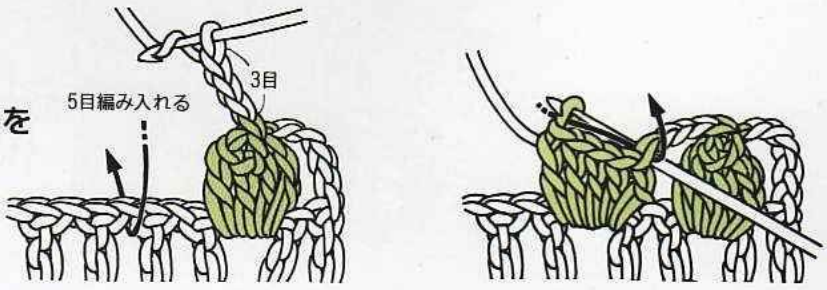
長編み5目のパプコーン編み目（ながあみごめのぱぷこーんあみめ）



●裏側から編むとき

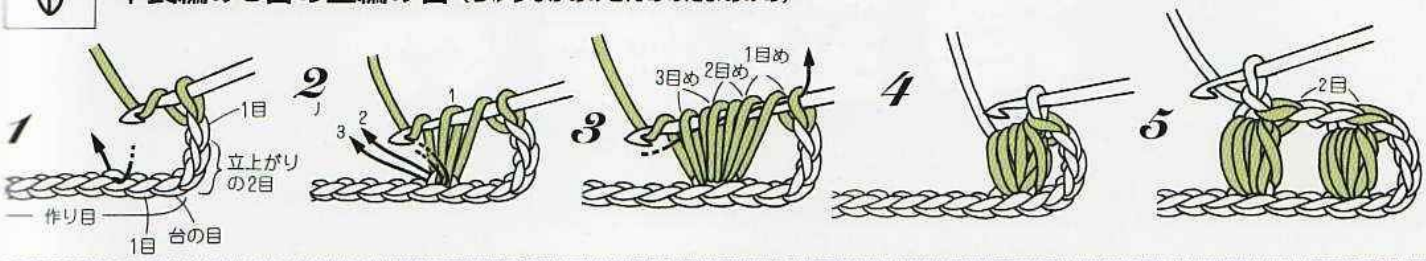


長編み5目のパプコーン編みを束に編み入れる
（ながあみごめのぱぷこーんあみを そくにあみいれる）

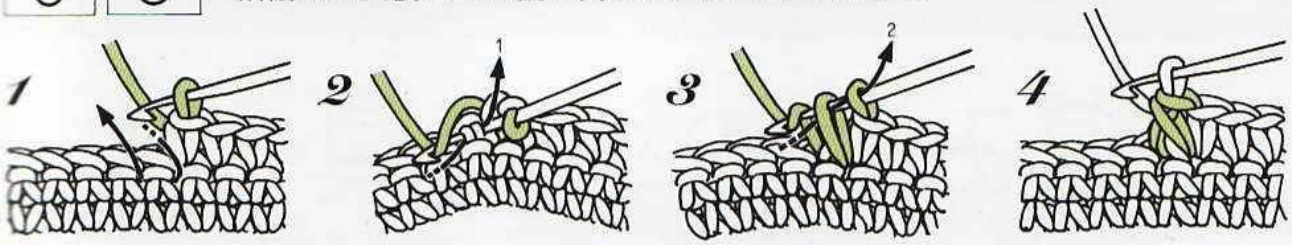


編み目に入れる場合と同じですが、記号を見ると足元が離れています。ここですっぽり（束に）拾うことを判断しましょう。

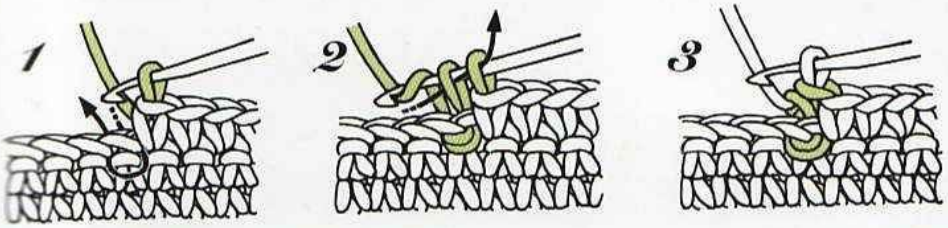
中長編み3目の玉編み目（ちゅうながあみさんめのたまあみめ）



細編みの表引き上げ編み目（こまあみのおもてひきあげあみめ）



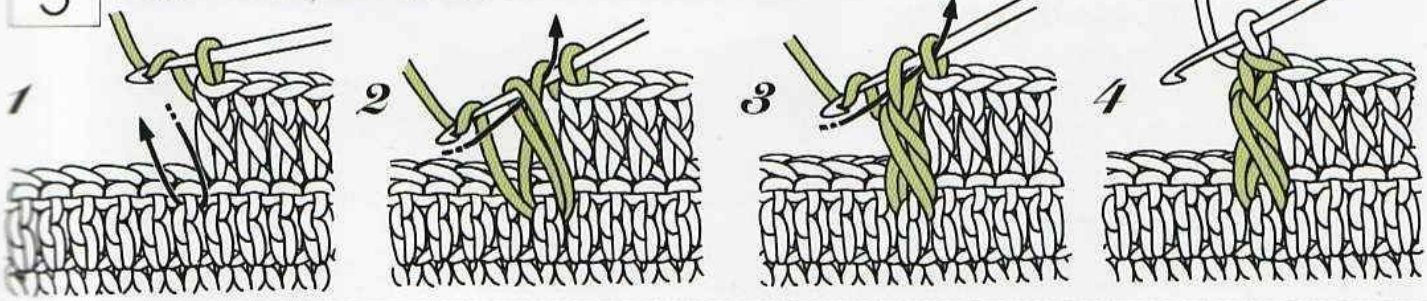
細編みの裏引き上げ編み目（こまあみのうらひきあげあみめ）



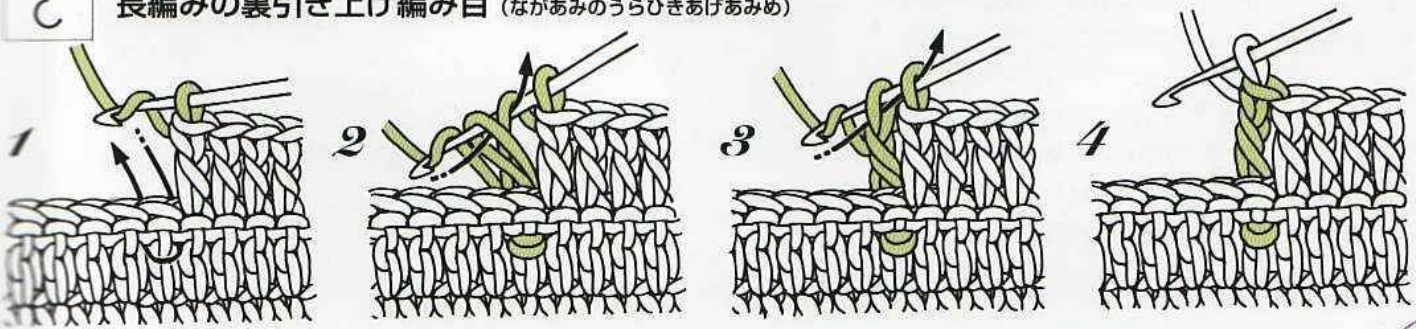
広瀬先生のアドバイス

記号はすべて表から見た状態で書かれています。表引き上げ編み目を裏から編む場合は、編み方を裏引き上げ編みにします。

長編みの表引き上げ編み目（ながあみのおもてひきあげあみめ）



長編みの裏引き上げ編み目（ながあみのうらひきあげあみめ）



棒針編み



棒針編みがいつの頃から始められたのか定かではありませんが、
原始時代に枝か何かで草を編んでいたかも知れませんね。
2本の針から生み出される模様も数限りなくあります。
作品づくりにもいろいろなテクニックがありますが、
この本では、これだけ知っていれば…というシンプルな内容にしました。

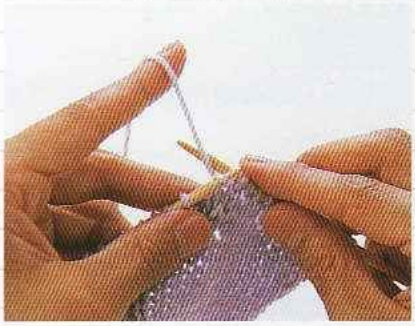
編みものの用具と針と糸の持ち方

広瀬先生のアドバイス　ONE POINT ADVICE

フランス式

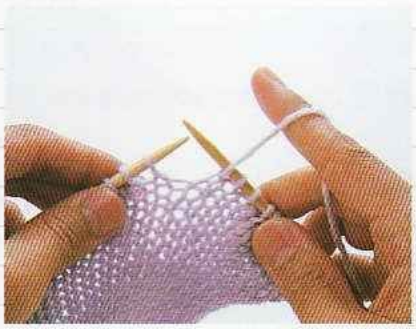
右利きの人の場合、左手に糸をかけて編む方法です。このときの糸を指にかける方法は、かぎ針の糸のかけ方と同様どんなかけ方でも結構です。糸の引き加減（テンション）が編み目のきつさ、ゆるさに影響します。一定に糸を保つのがポイントです。





アメリカ式

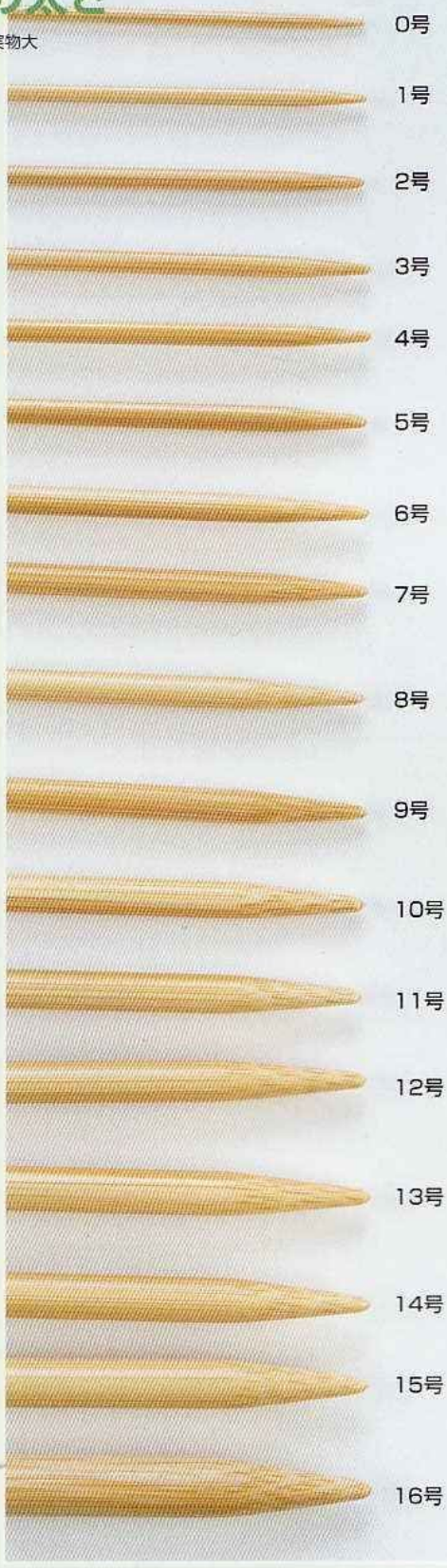
右利きの人の場合、右手に糸をかけて編みます。初心者の方はこちらの方がやりやすいようです。一般的にフランス式より効率が悪いと言われますが、フェアアイル(イギリス北部フェア島の伝統的な多色編み込みのニット)の編み込みを目にも止まらぬ速さで編むのを見ると、それも一概には言えないようです。



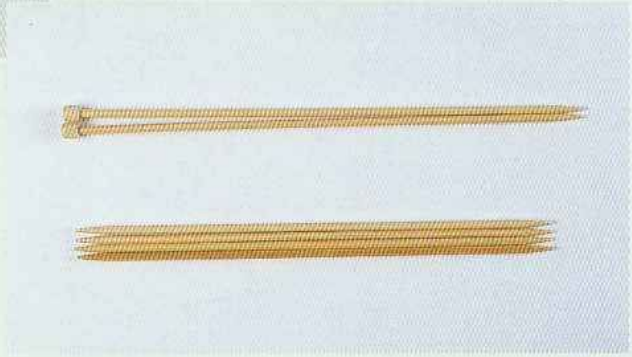


針の太さ

写真は実物大



2本棒針・4本棒針



輪針（わばり）



用具



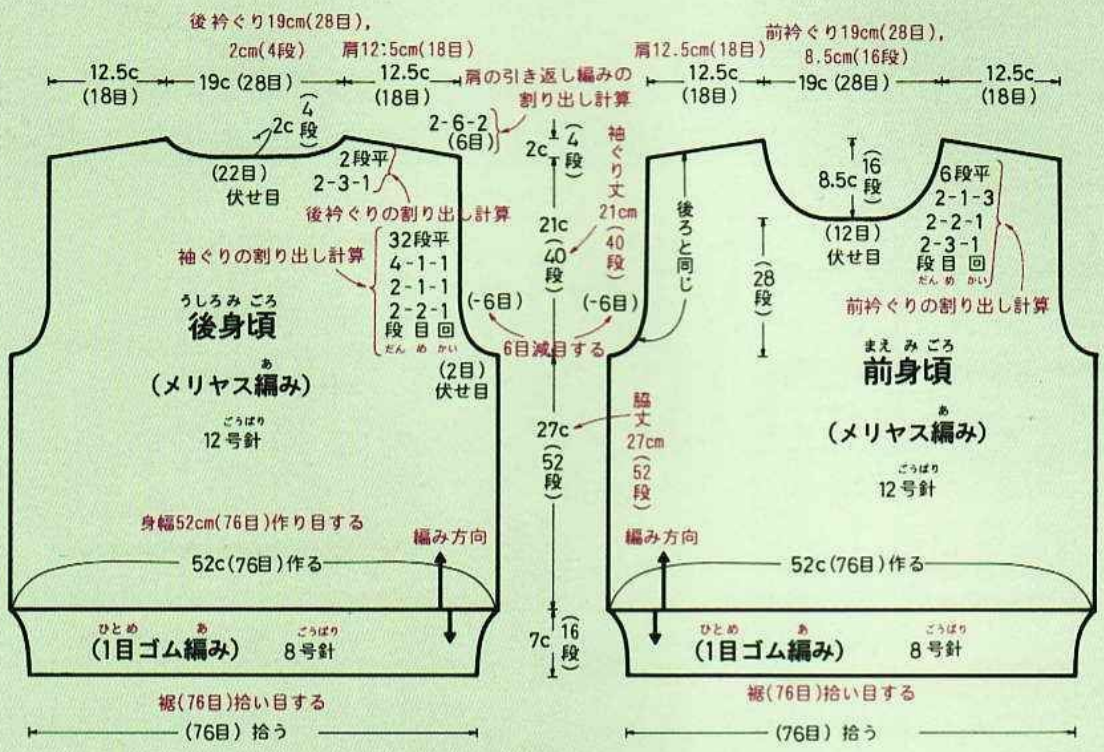
❶とじ針…針先が丸く、糸が割れません。とじやはぎをするのに使います。
❷まち針…とじやはぎをするときの仮止めや、アイロンをするときにアイロン台に止めるのに使います。
❸なわ編み針…なわ編み（交差）をするときに使います。
❹ほつれ止め…目を休めるときに使います。
❺棒針キャップ…編みかけの編み目が針から外れないように止めるキャップです。
❻段数マーカー…安全ピン式の落ちない段数リングです。
❼段数リング…編み目にかけて段数のしるしに使います。
❽目数リング…棒針に通して目数のしるしに使います。

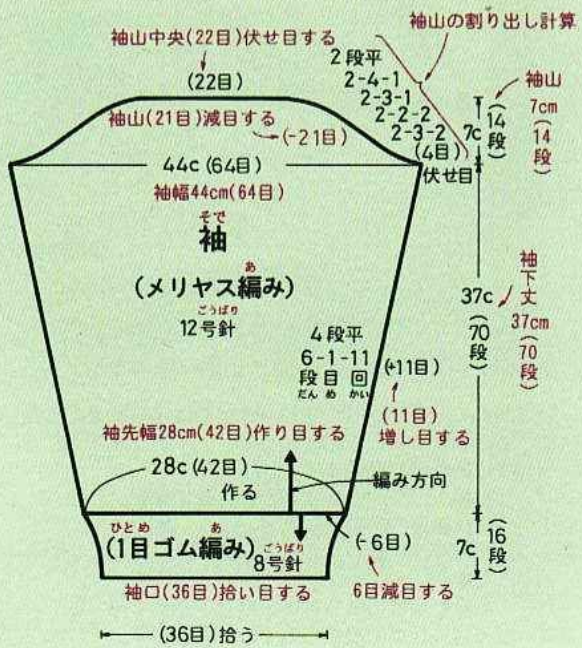
Marisabel

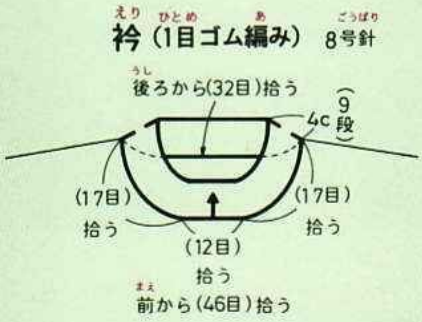
編み方図の読み方

セーターの編み方図は、各パーツの大きさ、形、編み方などをわかりやすく整理し、カーブや斜線の割り出し計算を入れたものです。
実際に作品を編むときはどうするか、編み目グラフで全図解したのが35・36ページです。

＊この作品のゲージ
メリヤス編み10cm平方
横14.5目・縦19段
極太毛糸550g使用

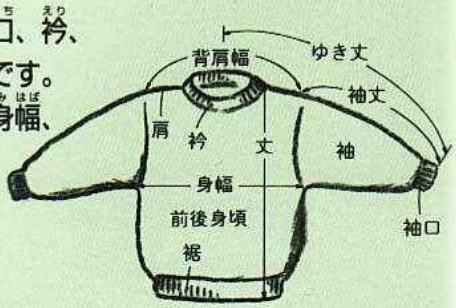




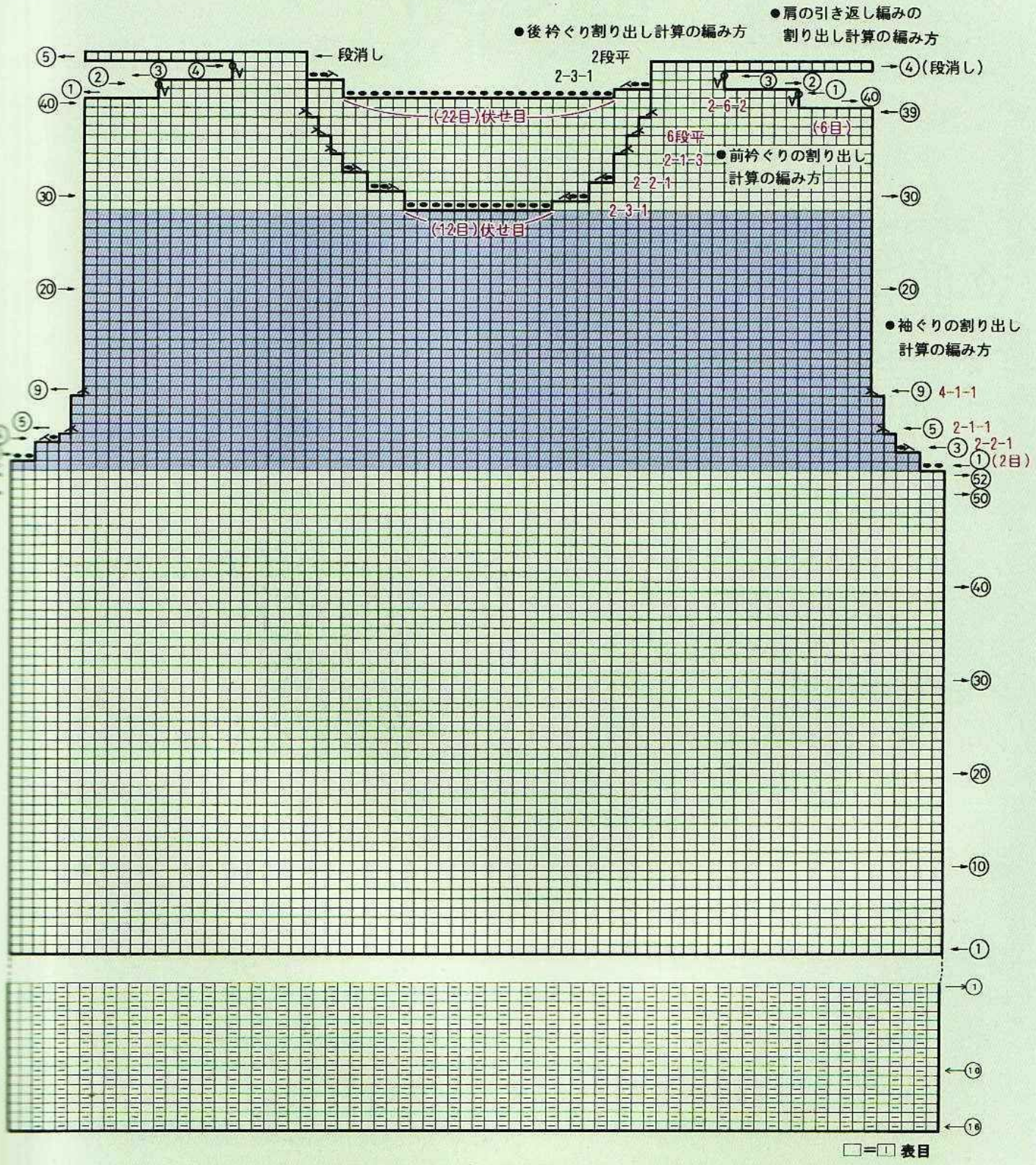


セーターの名称をおぼえましょう。

前後身頃、袖、裾、袖口、衿、肩などがおもなところです。
寸法を知る名称として身幅、背肩幅、袖丈、丈があります。

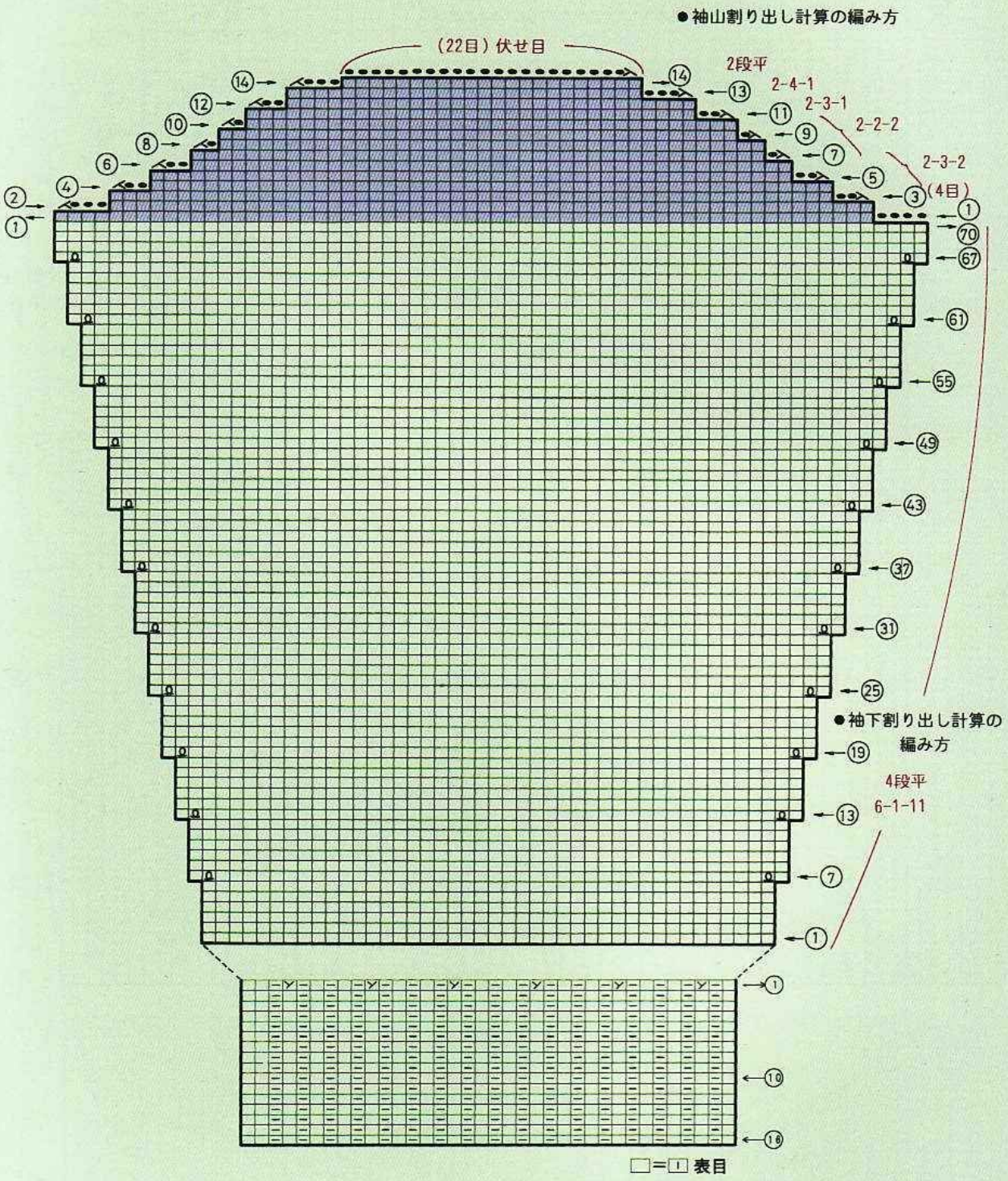


前後身頃の全図解



Marisabel

袖の全図解

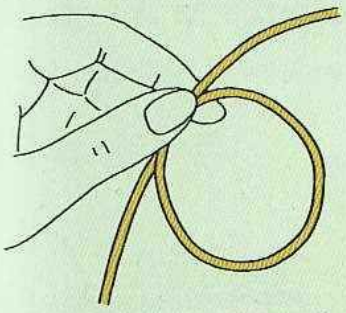

●袖山割り出し計算の編み方
(22目)伏せ目
2段平
2-4-1
2-3-1
2-2-2
2-3-2
(4目)
●袖下割り出し計算の
編み方
4段平
6-1-11
□=□ 表目

作り目

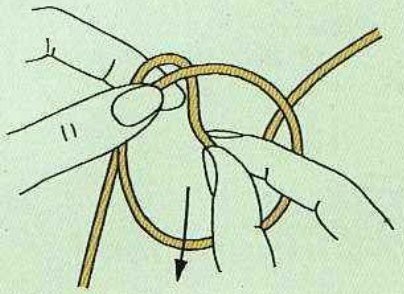
作り目には、いろいろな方法があります。それぞれに特徴がありますから、使いみちに合わせて技法を選んでください。

指でかける作り目

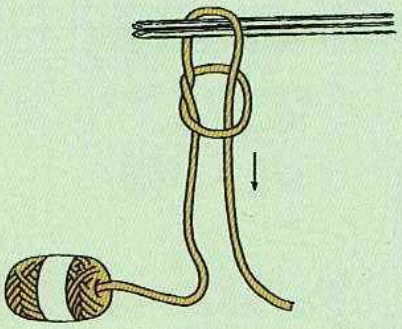
適度な伸縮のある作り目ですが、あとからほどくことはできません。
ゲージを編むときやガーター編みの編み始めなどに使います。



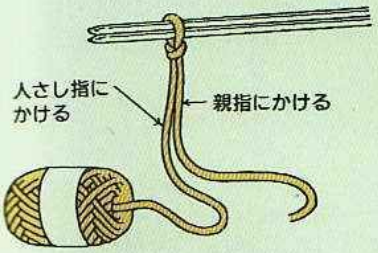
1 糸端から、編もうとする編み地の幅の約3倍の長さを残して、輪を作ります。



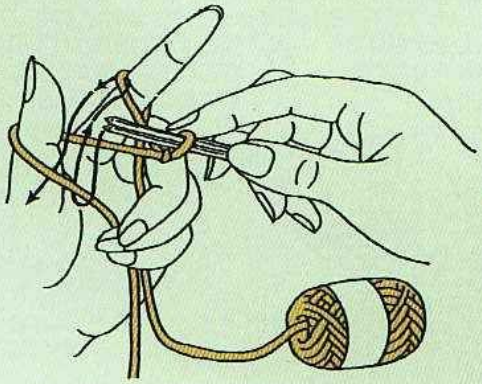
2 輪の中から糸を引き出します。



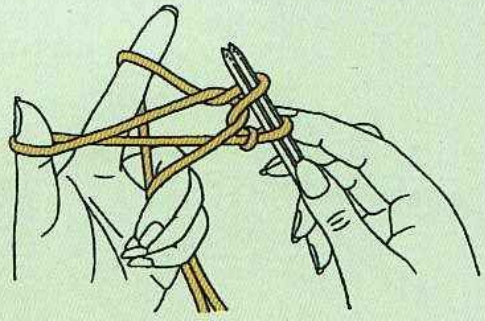
3 針を2本通して、短い糸を引いて目をしめます。



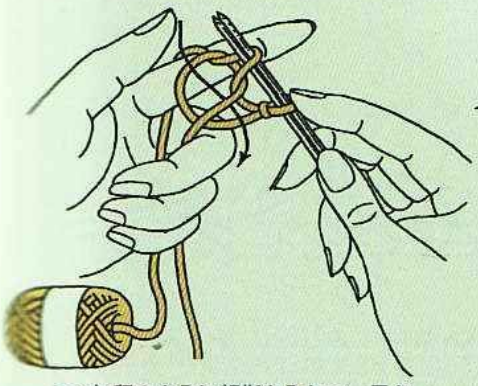
4 1目めのでき上がりです。短い糸を親指に、長い糸を人さし指にかけます。



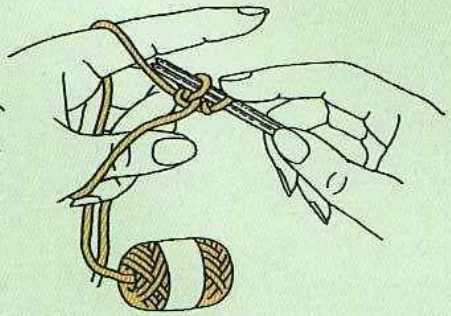
5 針先を矢印のように動かし、糸をかけます。



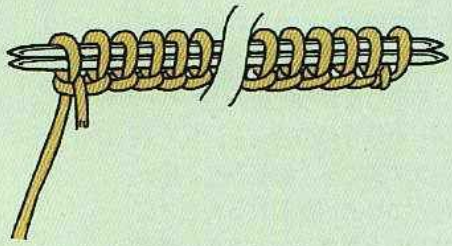
6 親指の糸をいったんはずし、



7 矢印のように親指を入れて、目を引きしめます。



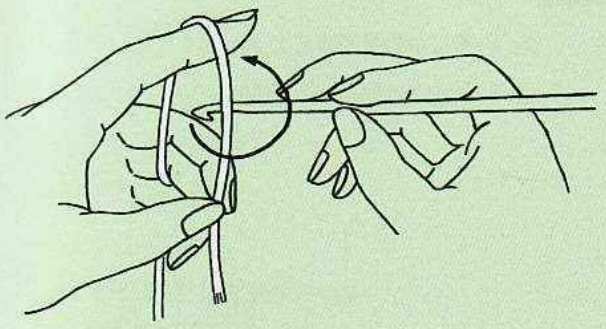
8 2目めのでき上がりです。



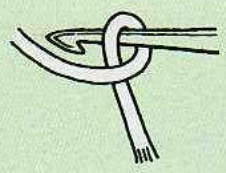
9 同じようにして、必要目数を作ります。

別鎖の作り目

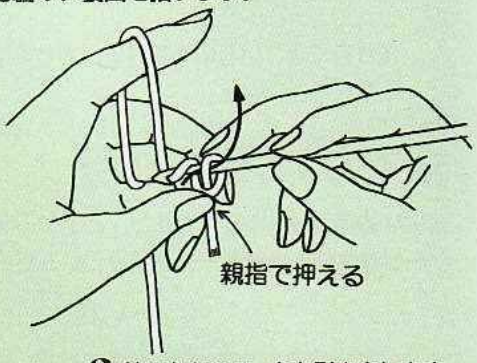
あとから作り目がほどけますから、反対側に目を拾い出すときに使います。
糸はすべりのよい糸、あるいは専用のナイロン糸を使い、
使用する棒針の号数より、2号程度太いかぎ針を使って鎖を編み、裏山を拾います。



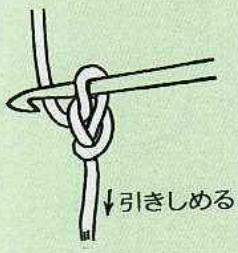
1 針を糸の向こう側から、矢印のように1回転させます。



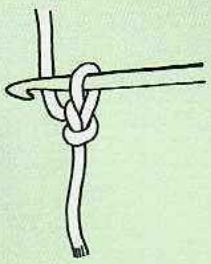
2 針に糸が巻きつきます。



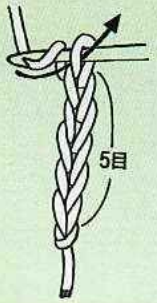
3 針に糸をかけ、糸を引き出します。



4 糸端を引いてしめます。



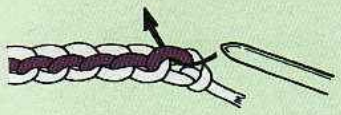
5 最初の目のでき上がりです。この目は作り目の数に含まれません。



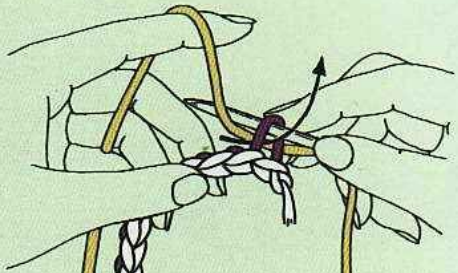
6 同じように糸をかけて引き出します。鎖が5目編めたところです。



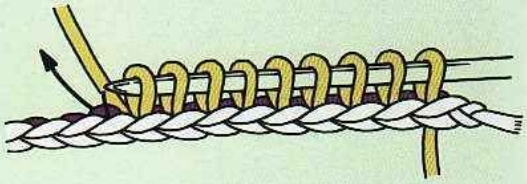
7 鎖の裏山が拾うところです。別鎖は少し余分に編んでおくと安心です。



8 鎖の編み終わり側の最初の裏山に針を入れます。



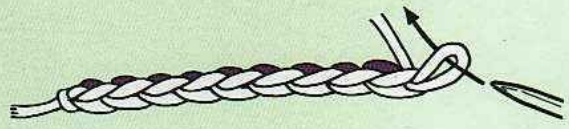
9 作品を編む糸をかけて、矢印のように引き出します。



10 同じようにして、必要な目数を拾います。

共鎖の作り目

作品を編む糸で鎖編みをしますので共鎖と呼ばれています。伏せ目をしたように編み上がり、あとで作り目の始末をしなくても大丈夫です。鎖編みを、編み地とつりあいが取れる大きさに編むことがポイントです。鎖編みを編むまでは別鎖の作り目と同じ要領です。



1 かぎ針で必要目数を編みます。最後の目を棒針に移し、1目とします。



2 鎖の裏山の2目めに棒針を入れて糸を引き出します。同じ要領で1目から1目ずつ拾います。これが1段めです。

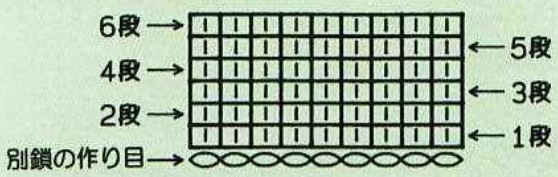
Let's Knit Series NV6077
Marisabel

編み方の基本

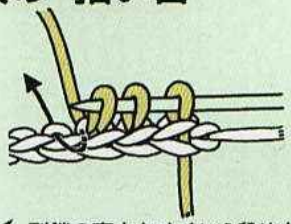
メリヤス編みと裏メリヤス編み

棒針編みでいちばん大切な編み地がメリヤス編みです。
表側から見ると表目ばかり、その裏側が裏目ばかりで裏メリヤス編みと言います。ここでは別鎖の作り目の場合をとりあげます。

●メリヤス編みの記号図



1段め　拾い目

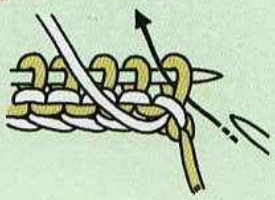


1 別鎖の裏山をすくい1段めを拾います（38ページ参照）。

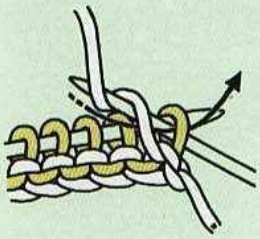


2 左端まで拾ったら左の針先を手前に回して持ちかえます。

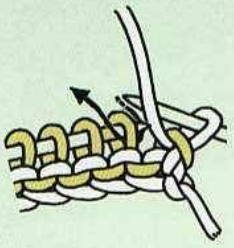
2段め　裏目



3 2段めは裏目を編みます。糸を手前に渡し、向こう側から右の針を入れます。

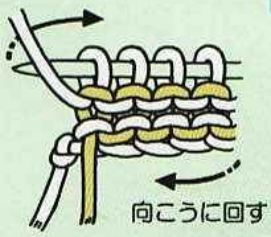


4 針に糸をかけ、向こう側に糸を引き出します。

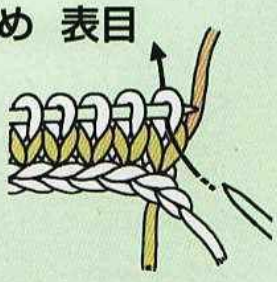


5 裏目1目ができました。3・4をくり返して裏目を編みます。

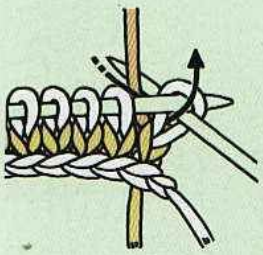
3段め　表目



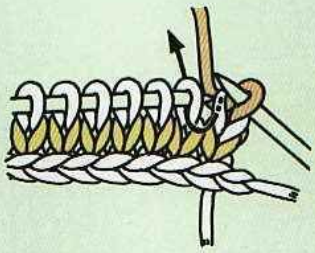
6 左端まで編んだら、2とは逆に左の針先を向こう側に回して持ちかえます。



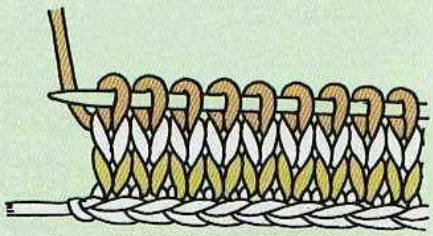
7 3段めは表目を編みます。糸を向こう側にして手前から右の針を入れます。



8 針に糸をかけ、糸を引き出します。



9 表目1目ができました。7・8をくり返して表目を編みます。



10 3段編めたところです。2段め・3段めをくり返して編みます。

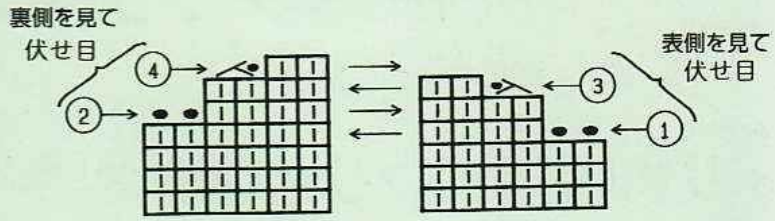
Marisabel

減目と増し目

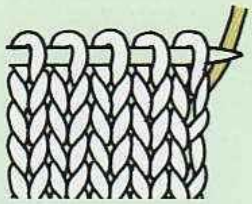
2目以上の減目　伏せ目

セーターの袖ぐりや袖山などのカーブを作るとき、目を減らすときに使う編み方で伏せ目と言います。
伏せ目は糸のある側で編みますから、左側は1段おくれて伏せ目にします。2回めからは端の目を編まないようにしてカーブをなめらかにします。

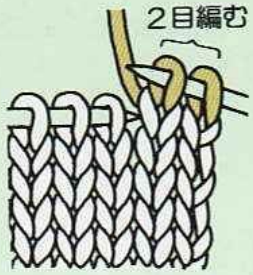
●2目以上の減目（伏せ目）の記号図



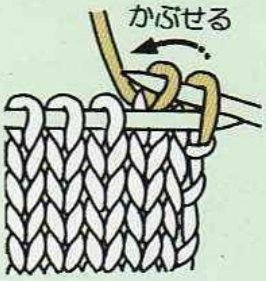
1段め　右側1回め



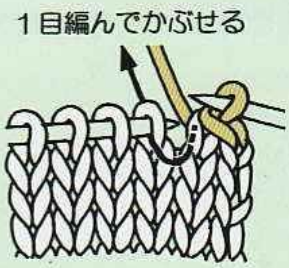
1 1回めは1段めの始めで伏せ目をします。



2 端から2目を表目に編みます。



3 左の針を右の目に入れ、左の目にかぶせます。

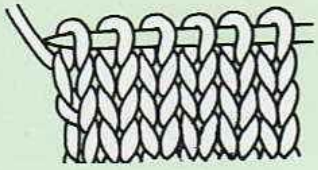


4 次の目も表目に編み、3と同じようにかぶせます。

2段め　左側1回め



5 1回めの伏せ目のでき上がりです。次の目からは表目に編みます。



6 1段めは左端まで編みます。左の針先を手前に回して持ちかえます。

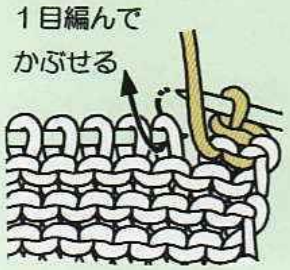


7 左側の1回めは2段めの始めで伏せ目をします。端から裏目2目を編みます。

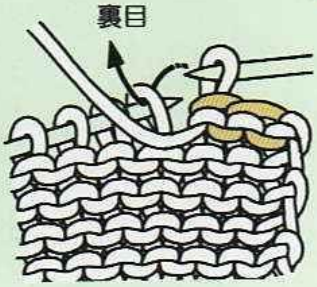


8 左の針で右の目を左の目にかぶせます。

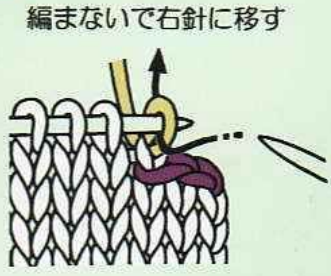
3段め　右側2回め



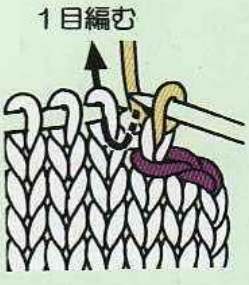
9 次の目も裏目に編み、右の目を左の目にかぶせます。



10 左側1回めの伏せ目のでき上がりです。次の目から端まで裏目を編みます。

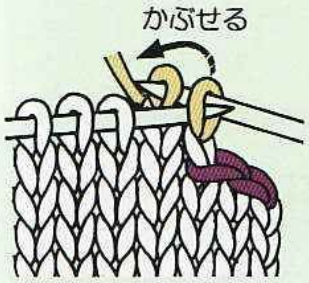


11 右側2回めは3段めの始めで編みます。端の目は編まないで右の針に移します。

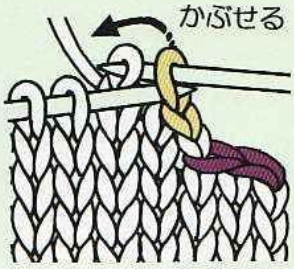


12 次の目は表目に編みます。

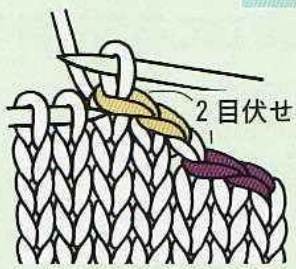
4段め・左側2回め



13 右の目を左の目にかぶせます。



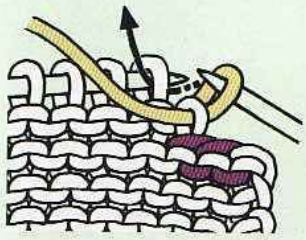
14 次の目を表目に編み、右の目をかぶせます。



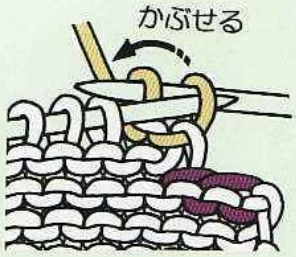
15 右側2回めの伏せ目のでき上がりです。次の目から端まで表目を編みます。



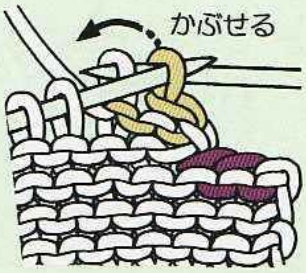
16 左側2回めは4段めの始めで編みます。端の目は編まないで右針に移します。



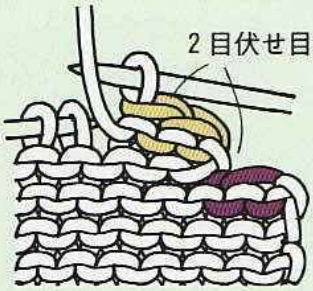
17 次の目を裏目に編みます。



18 右の目を左の目にかぶせます。



19 次の目も裏目に編み、右の目をかぶせます。

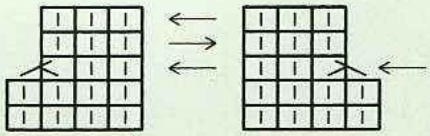


20 左側2回め伏せ目のでき上がりです。

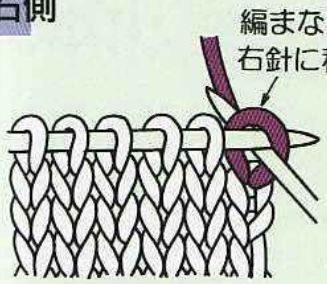
1目の減目　端1目を立てる減目

カーブを編むとき、伏せ目の次にくるのが端を1目を立てる減目です。
右側の端は右上2目一度、左側は左上2目一度の減目を編みます。

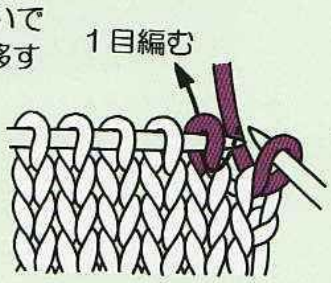
●1目の減目（端1目を立てる減目）の記号図



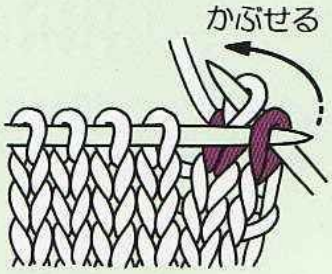
右側



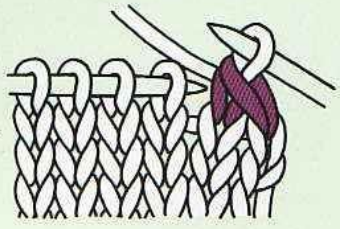
1 端の1目は編まずに右針に移します。



2 次の目は表目に編みます。

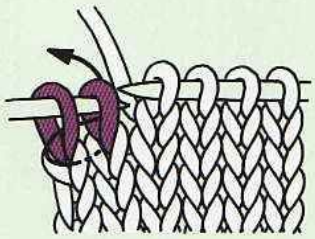


3 左の針で右の目をかぶせます。

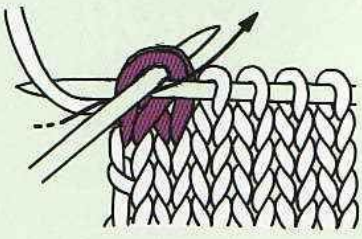


4 1目減目（右上2目一度）のでき上がりです。

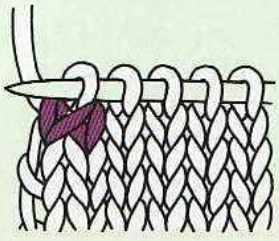
左側



1 左の端は2目手前まで編み、矢印のように2目に針を入れます。



2 針に糸をかけて2目一度に表目を編みます。



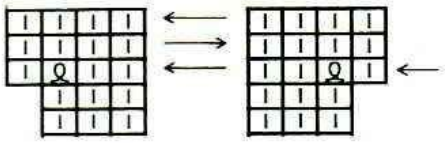
3 1目減目（左上2目一度）のでき上がりです。

Marisabel

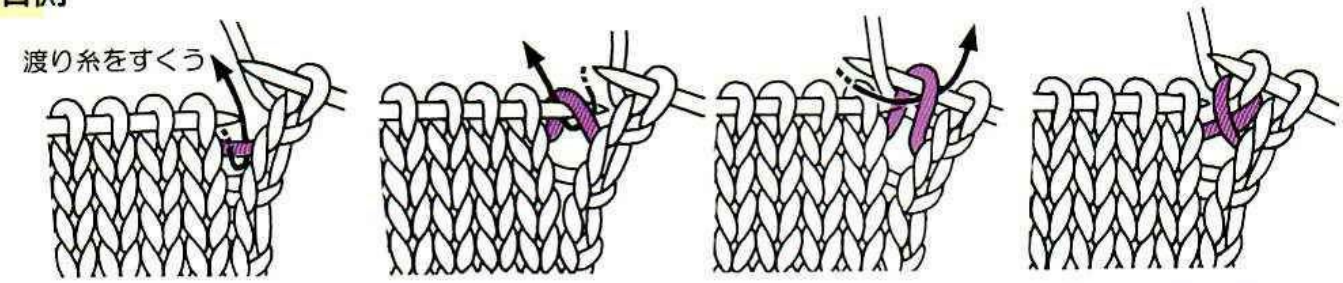
1目の増し目　端1目を立てる増し目

セーターの脇や袖下の斜線を作るのに使います。
同じ段の右端と左端で、1目と2目の間の渡り糸をねじって編む方法です。これをねじり増し目といいます。
裏目で増す場合の記号は ⊖ です。

●1目の増し目（端1目を立てる増し目）の記号図



右側



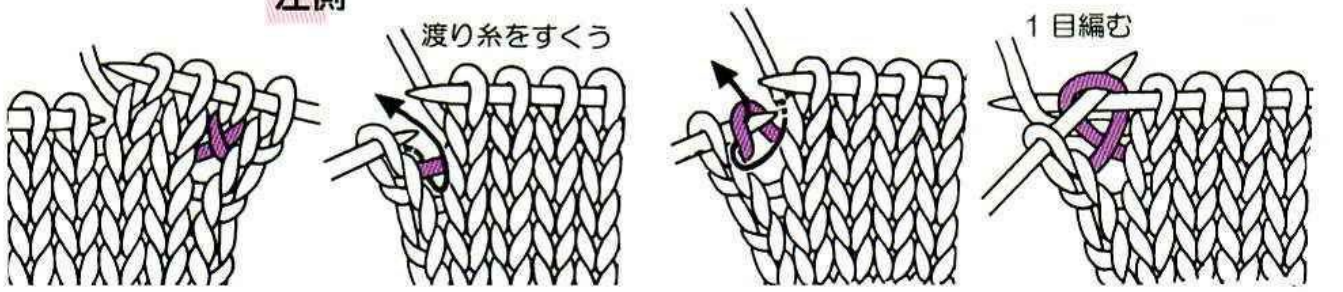
1 端の1目を編み、間の渡り糸を左の針ですくいます。

2 矢印のように右の針を入れます。

3 右の針に糸をかけて編みます。

4 右側のねじり増し目のでき上がりです。

左側

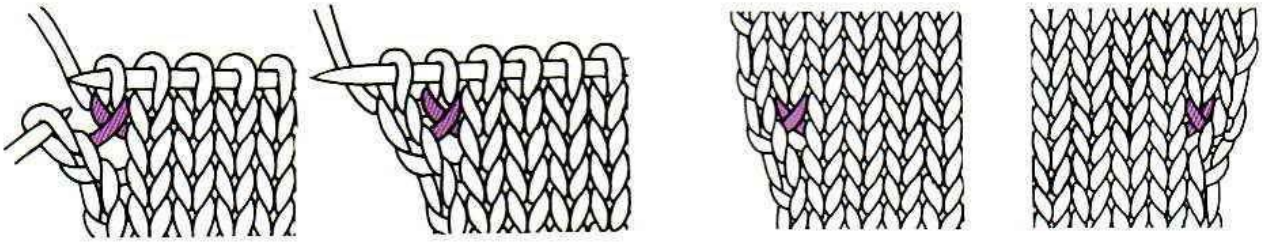


5 次の目から左端の1目手前まで表目に編みます。

6 端の目との間の渡り糸を左針ですくいます。

7 矢印のように針を入れます。入れ方は右側と異なります。

8 右針に糸をかけて編みます。



9 左側ねじり増し目のでき上がりです。

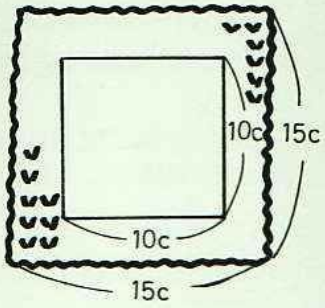
10 端の目も表目に編みます。

11 右側と左側のねじり目は対称形になります。

ゲージについて

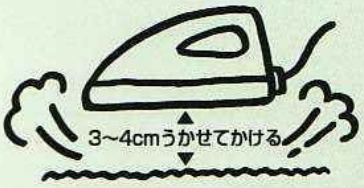
ゲージ

ゲージとは何でしょう？ずばり編み目の大きさのことです。
希望の寸法に編むには自分のゲージを知ることが必要です。
本番と同じ糸と針で編んでみて、横10cmで何目、たて10cmで何段と数えます。



アイロンをかけましょう

編み上げた作品にアイロンをかけます。編み地が落ち着き、型崩れしにくくなります。同様にゲージをとるときもアイロンをかけ、編み上げた作品と同じ条件にしてゲージを測ると、誤差も少なく、安心して編むことができます。



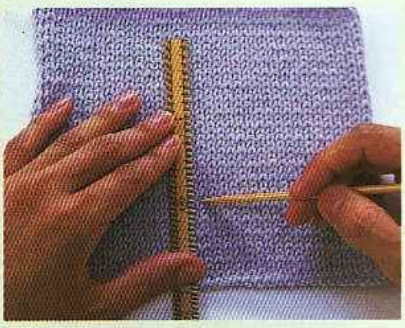
セーターの裏側



編み上げた作品は、とじ、はぎなどをする前に、ばらばらのうちにアイロンをかけますが、実物大製図を書いたときは、その製図に合わせてピン打ちをします。実物大製図を書かないときは、身幅、着丈、背肩幅などの寸法を測りながら、アイロンをかけます。
アイロンは、蒸気アイロンを使い、編み地に強く押しつけないように、軽くなでるようにかけ、編み目と形を整えます。とじ、はぎをしてから、その部分にもう一度裏から軽く、仕上げアイロンをかけます。

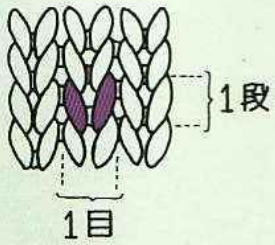
ゲージを測りましょう

なるべく中央部分に定規をあて、10cmに何目何段あるのかを数えます。少しずつ場所を変えて何回か測ると良いでしょう。



編み目

編み目の1目、1段を知っていますか。
棒針で編めば必ずこのかたちになり、その半分を編むことはできません。



割り出し計算をしましょう

10cmで14.5目、19段のとき
●10cmで14.5目→1cmでは1.45目、10cmで19段→1cmでは1.9段
例／52cm×1.45=75.4…76目、27cm×1.9=51.3…52段

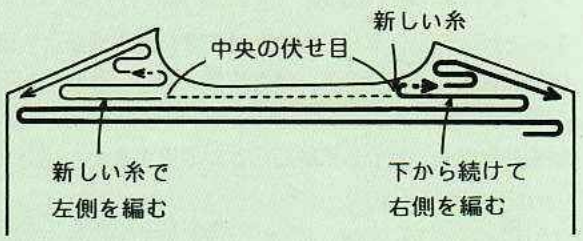
広瀬先生のアドバイス ONE POINT ADVICE

ゲージについて

“ゲージをとるのがイヤ”と言って、いきなり編み始める方もいらっしゃるようです。かぎ針も同じですが、編みものではこのゲージがとても重要です。でもせっかく始めにゲージを編んでも、途中で手加減が変わっては何の意味もありません。ゲージはいつも手元に置いて確認をしながら編みましょう。

衿ぐりカーブと肩の引き返し編み

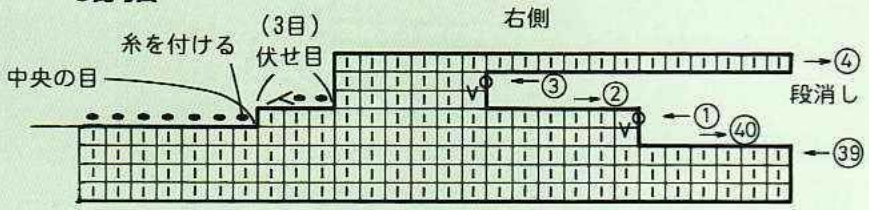
●衿ぐりと肩下がりの編み方順序



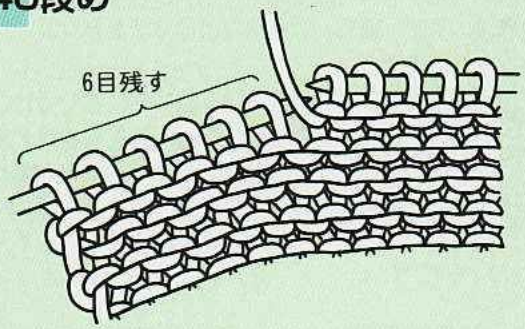
斜めになっている肩を編む場合、「引き返し」と呼ばれる方法で編みます。
これは衿ぐりの減目と同時に編むようになりますので、
少し注意が必要です。後身頃を例に順序を追って編みましょう。

右側

●記号図

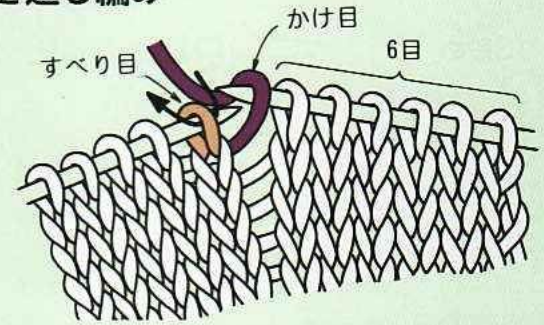


40段め



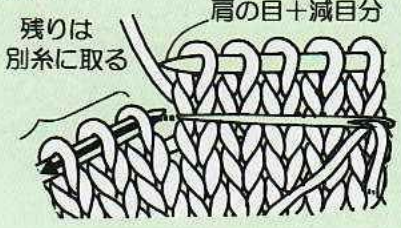
1 裏側を見ながら、左端から6目手前まで裏目を編みます。

肩の引き返し編み 1段め



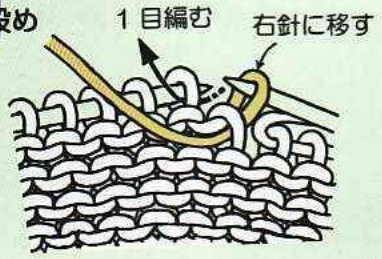
2 持ちかえて表側を見ながら右針にかけ目をし、次の目に矢印のように右針を入れて目を移します（すべり目）。残りの目を編みます。

衿ぐり1段め

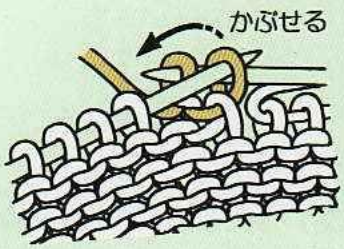


3 衿ぐり1段めは肩の目に衿ぐりの減目分を加えた目数を編み、残りを別の糸またはほつれ止めに休めます。

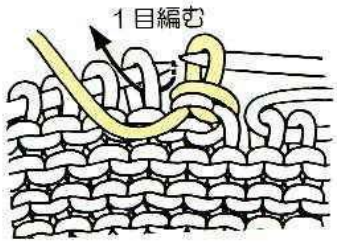
2段め



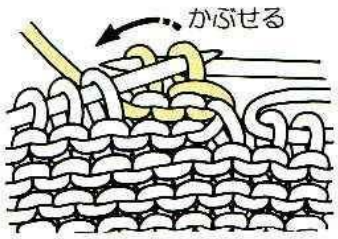
4 裏側を見ながら3目の伏せ目を編みます。端の目は編まずに右針に移します。



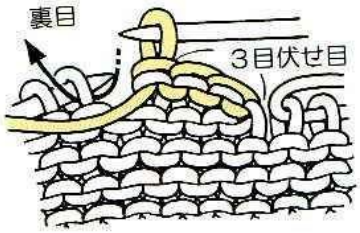
5 次の目を裏目に編み、右の目をかぶせます。



6 次の目も裏目に編みます。

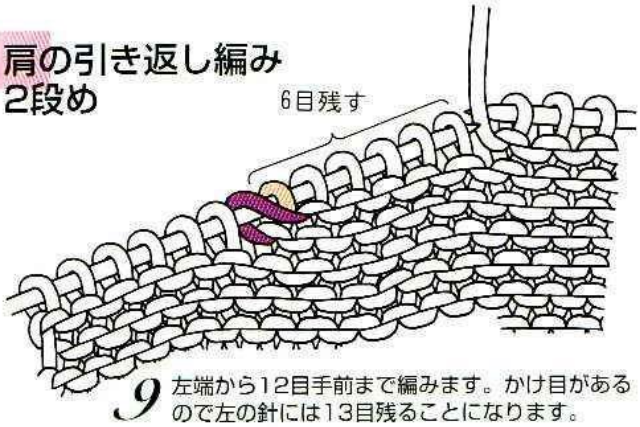


7 左針で右の目をかぶせます。6・7をもう一度くり返します。



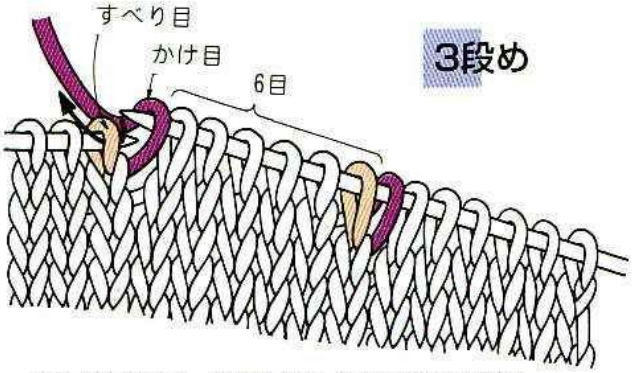
8 3目の伏せ目のでき上がりです。次の目から裏目を編みます。

肩の引き返し編み 2段め



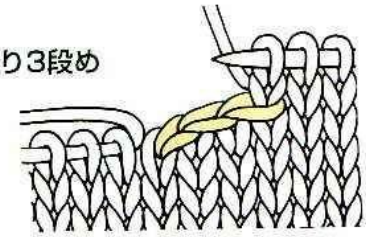
9 左端から12目手前まで編みます。かけ目があるので左の針には13目残ることになります。

3段め



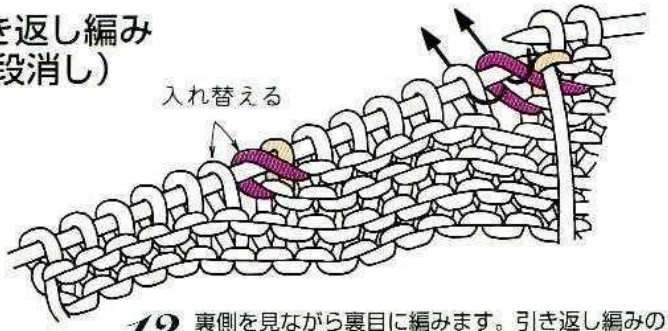
10 持ちかえて、肩の引き返し編み1段めと同様にかけ目とすべり目をして編みます。

衿ぐり3段め

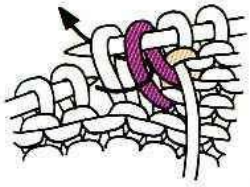


11 衿ぐり3段めは表側を見ながら表目に編みます。

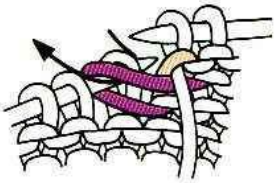
肩の引き返し編み 4段め（段消し）



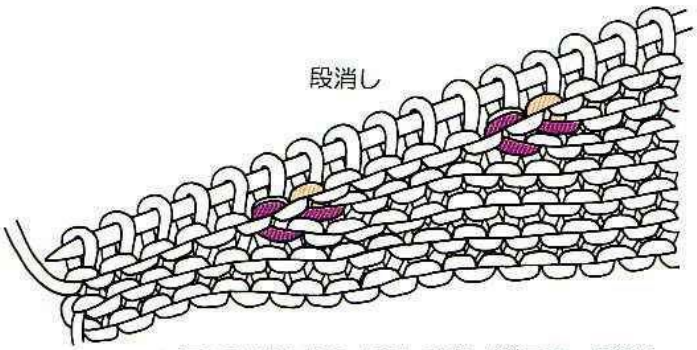
12 裏側を見ながら裏目に編みます。引き返し編みのかけ目と次の目に矢印のように右針を入れます。



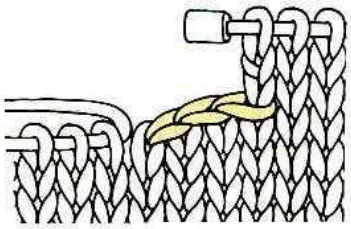
13 矢印のように左の針に戻し、目を入れ替えます。



14 矢印のように右針を入れ、2目一度に編みます。



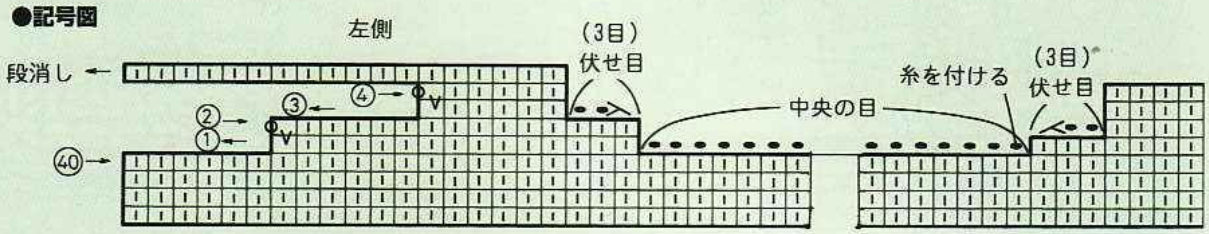
15 肩の引き返し編みを裏から見た状態です。最後に全目編むことを「段消し」といいます。

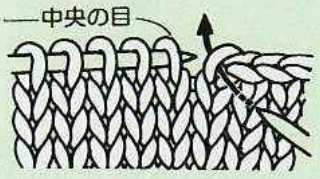


16 衿ぐりのでき上がりです。

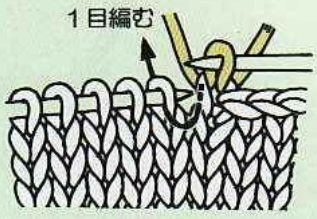
左側

●記号図

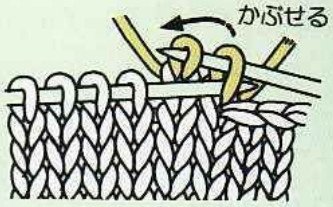




1 中央の目は棒針に移し直し、右側の減目をし始めた目に針を入れて新しい糸をつけます。



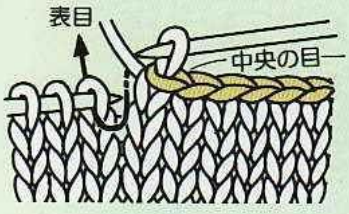
2 糸端を10cmほど残して糸を引き出し、次の目を編みます。



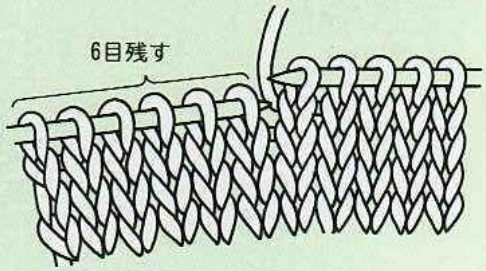
3 左の針で右の目をかぶせて伏せ目にします。2・3をくり返します。

肩の引き返し編み 1段め

衿ぐり1段め

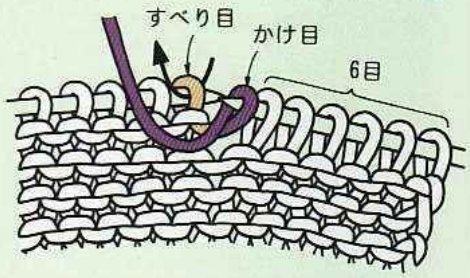


4 中央の目をすべて伏せ目にし、次の目から表目を編みます。



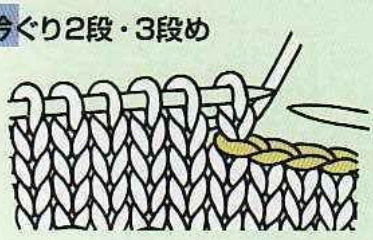
5 左端から6目手前まで編みます。

肩の引き返し編み 2段め

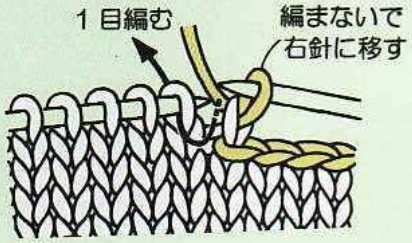


6 持ちかえて右針にかけ目をし、次の目に矢印のように右針を入れて目を移します(すべり目)。残りの目を編みます。

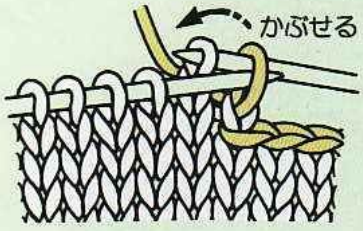
衿ぐり2段・3段め



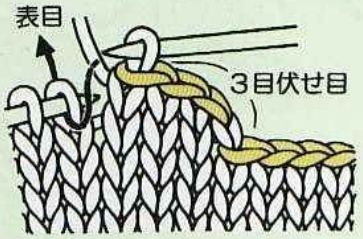
7 衿ぐり2段めは裏側を見ながら裏目を編み、3段めの始めで3目の伏せ目を編みます。



8 端の目は編まずに右針に移し、次の目を編みます。

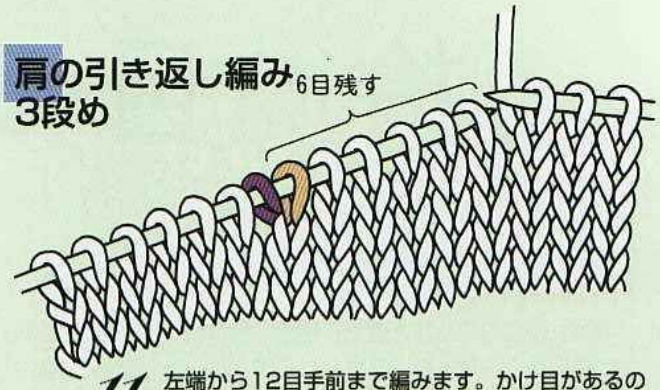


9 左針で右の目をかぶせます。「次の目を編んでかぶせる」を2回くり返します。



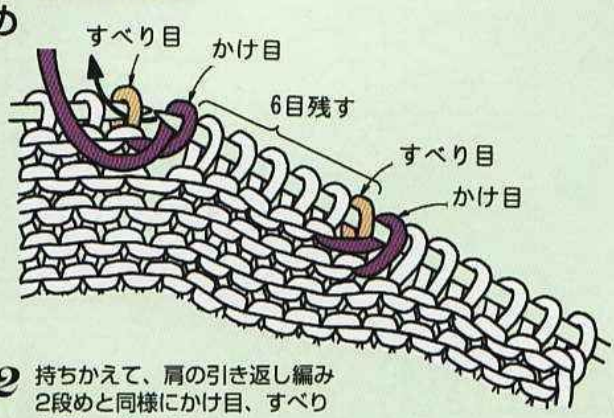
10 3目伏せ目のでき上がりです。次の目から表目に編みます。

肩の引き返し編み 3段め



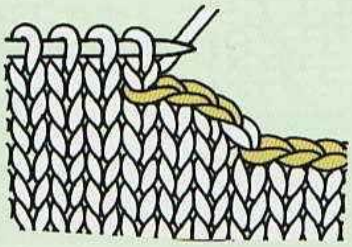
11 左端から12目手前まで編みます。かけ目があるので左針には13目残っています。

肩の引き返し編み 4段め



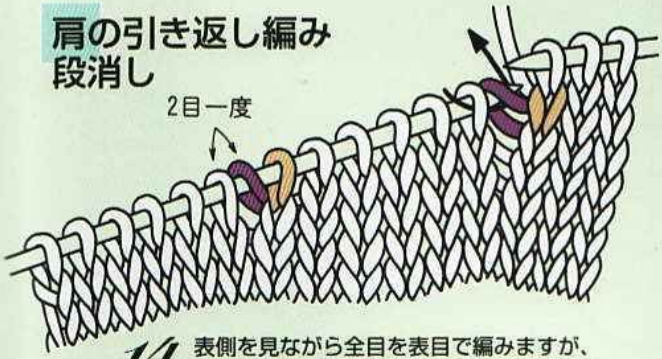
12 持ちかえて、肩の引き返し編み2段めと同様にかけ目、すべり目をして編みます。

衿ぐり4段め

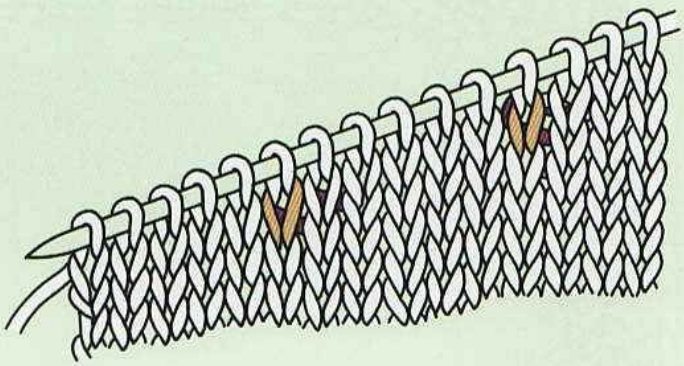


13 衿ぐり4段めは裏を見ながら裏目を編みます。

肩の引き返し編み 段消し

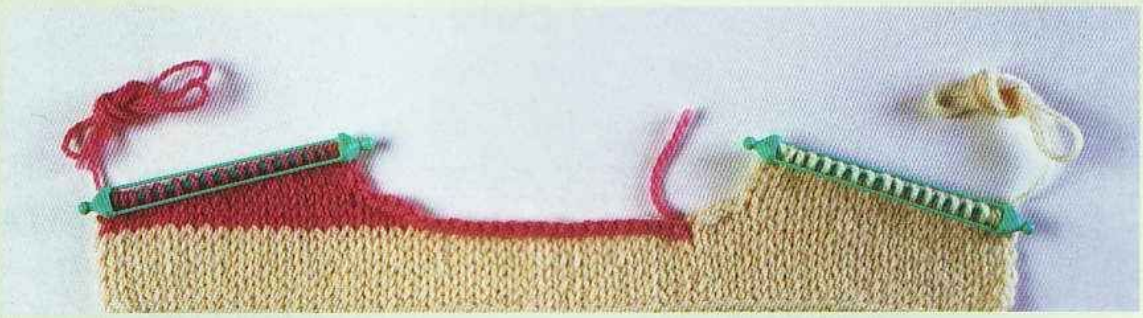


14 表側を見ながら全目を表目で編みますが、かけ目と次の目には矢印のように右針を入れて、2目一度に編みます。



15 編み終わりを表から見た状態です。

●でき上がり

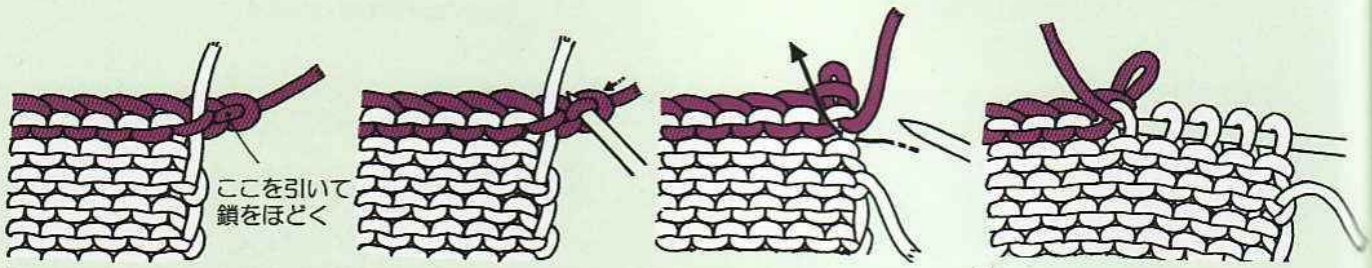


Marisabel

拾い目のしかた

別鎖からの拾い目

セーターの裾、袖口の切りかえ線で、別鎖の作り目（38ページ参照）をして編んだときの拾い目のしかたです。
ゴム編みに使用する棒針は身頃を編んだ号数よりも2～3号細い針にします。

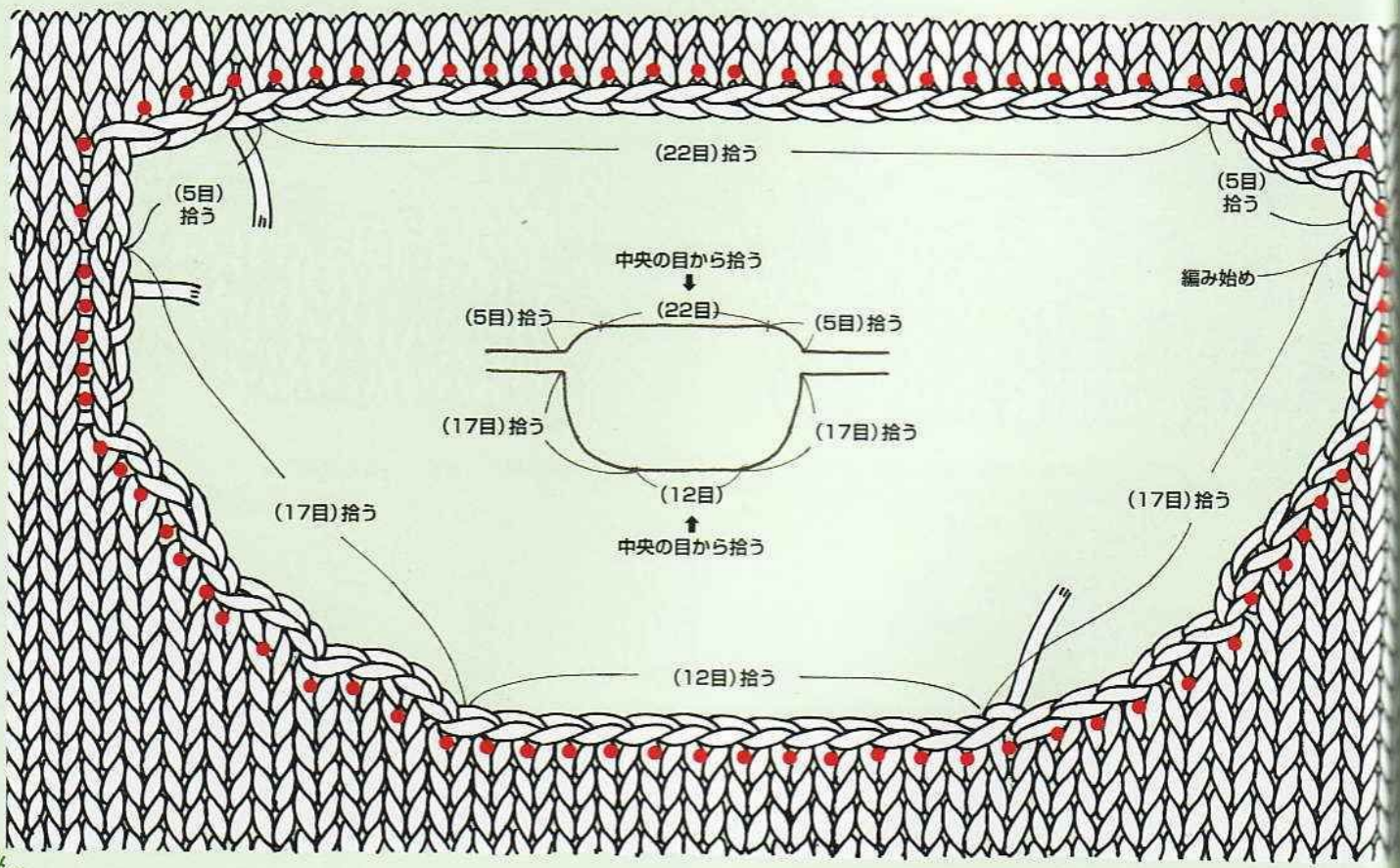


1 編み地の裏側を見て拾い目をします。

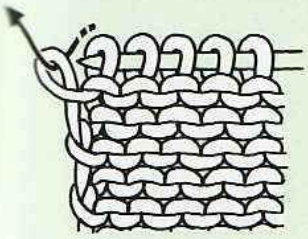
2 鎖の最後の目に棒針を入れて糸端を出します。

3 ゴム編みを編む針を矢印のように入れ、鎖をほどきます。

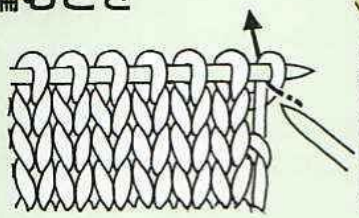
4 右手で針を持ち、左手で鎖をほどきながら拾い目をします。



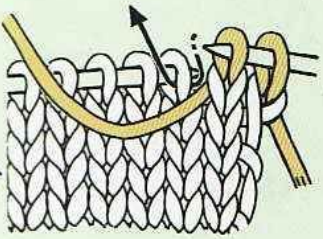
1目ゴム編みを編むとき



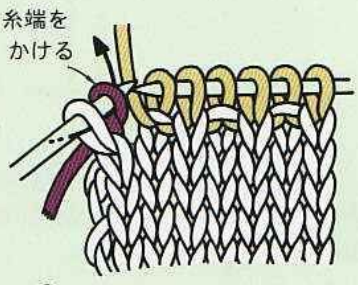
5 端の半目も拾います。



6 端の半目も1目として表目を編みます。



7 端の半目の次からは表目、裏目と交互に編みます。

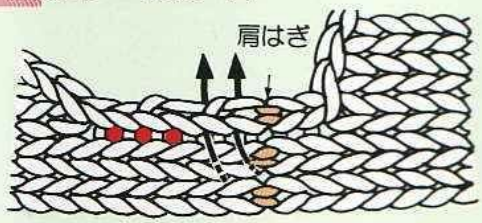


8 左端は糸端をかけて一緒に編みます。

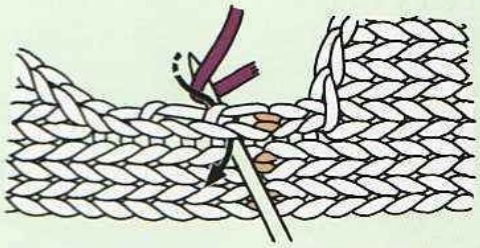
衿ぐりからの拾い目

拾い目位置（赤丸は拾い目位置）　左肩のはぎ位置から、前衿ぐり、後衿ぐりの順に拾います。

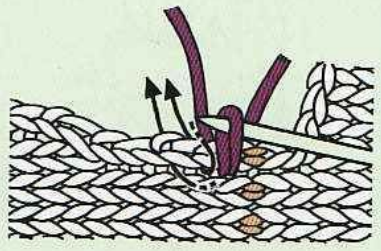
1段め　拾い目



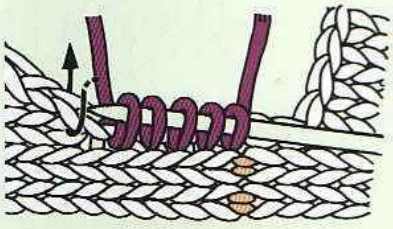
1 左肩のはぎ位置から拾います。矢印と赤丸位置が糸を引き出すところです。



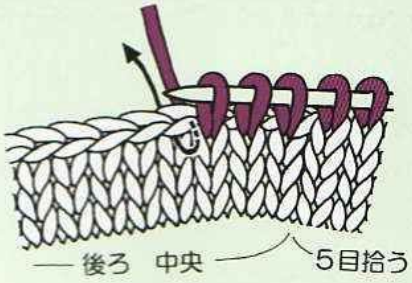
2 衿を編む針を使用し、矢印位置に針を入れて糸を引き出します。



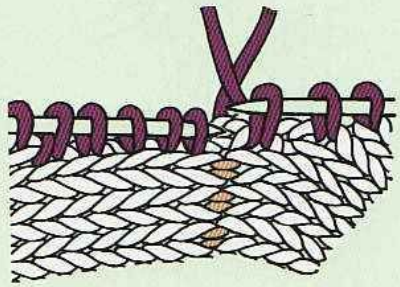
3 1目拾えました。同様にして拾い目をします。



4 2目一度のところは下側の目の中に針を入れて拾い目します。

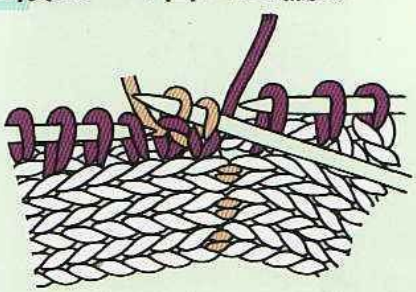


5 前後とも中央の目は1目ずつ拾い目します。



6 1段めの拾い目ができました。全体の目数をたしかめましょう。

2段め　1目ゴム編み



7 2段めは表目・裏目をくり返して編みます。

広瀬先生のアドバイス　ONE POINT ADVICE

かぎ針を使って拾う



カーブからの拾い目はなかなか難しいものです。1段めになる訳ですが、どうしてもゆるみやすくなります。1号～2号細い針で拾うこともいいですし、今回紹介したようにかぎ針を使うと初心者の方でも簡単に拾うことができます。ただし棒針にかけるときの目の向きに注意してください。

Marisabel

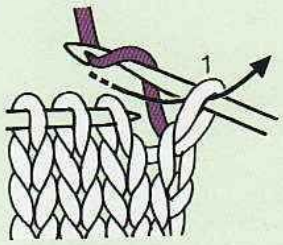
止め・とじ・はぎ

止め

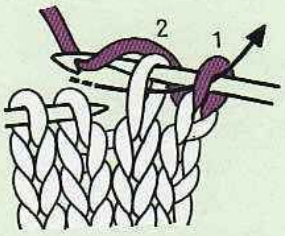
編み終わりの目の止め方はいろいろあります。それぞれ目的に応じて使い分けるとよいでしょう。
どの止め方も、糸の引き方を編み目の大きさに合わせて一定にすると、きれいにできます。

引き抜き止め

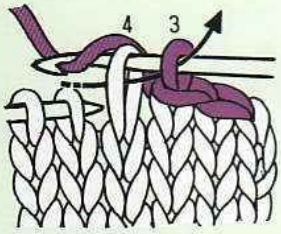
かぎ針を使って目を止める方法です。早く止めることができますが、
糸の引き加減がきつくなりがちですので注意が必要です。



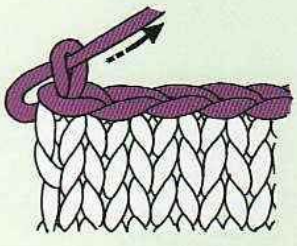
1 端の1目をかぎ針に移し、糸をかけて引き抜きます。



2 2目めをかぎ針に移し、糸をかけ、2目を一度に引き抜きます。



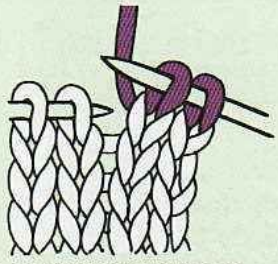
3 同じように次々と引き抜きます。



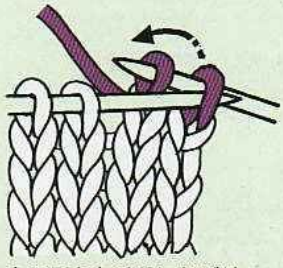
4 最後の目に糸を通して引きしめます。

伏せ止め

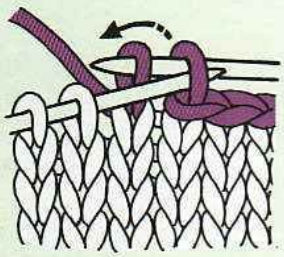
棒針で編みながら、目を止めていくので、バランスよく止めることができます。



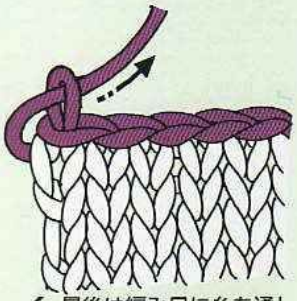
1 右の端から2目を編みます。



2 右の目を左の目にかぶせます。



3 次の目を編み、同じように右の目をかぶせます。



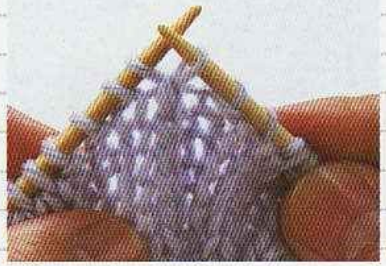
4 最後は編み目に糸を通して引きしめます。

ONE POINT ADVICE

1目ゴム編みに目を入れかえる

1目ゴム編み止めはなんとか理解できるのだけれど、2目ゴム編み止めになると？？？になってしまう方も多いようです。
止める前に編み目を入れ替えておくだけでふしぎふしぎ、1目ゴム編み止めが2目ゴム編み止めに変わってしまいます。

広瀬先生のアドバイス



1 左針にある2目ゴム編みの目を、右針に表目、裏目と交互に並ぶように入れ替えながら移します。



2 移し終わったところ。針にかかった目が表目、裏目と交互に並んでいるのがわかります。



3 1目ゴム編み止め(51ページ参照)をします。2目ゴム編み止めができます。

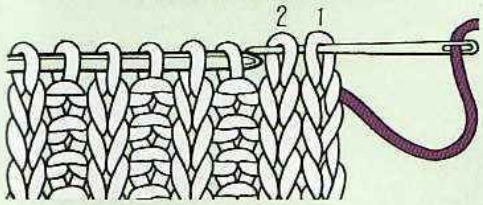
●一般的な2目ゴム編み止めのしかたは52ページに掲載されています。

1目ゴム編み止め

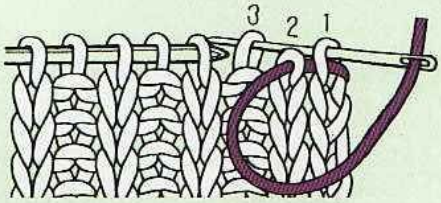
とじ針を使って、ゴム編みの目の状態をくずさずに止めます。
止めに必要な糸は、編み地の幅の約3倍です。

A 平編み（ひらあみ）

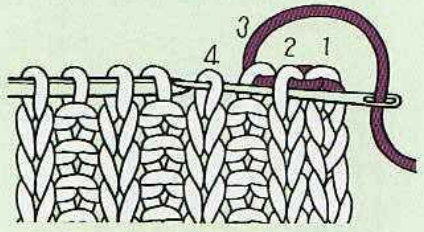
右端が表2目、左端が表1目のとき



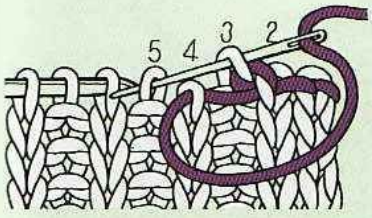
1 1の目の手前から針を入れ、2の目の手前に出します。



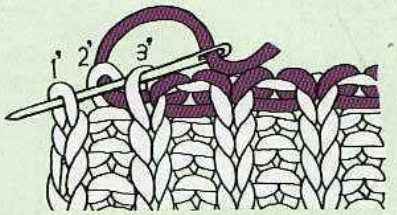
2 もう一度1の目に手前から入れ、3の目の向こうへ出します。



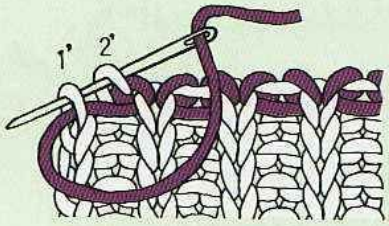
3 表目同士に入れます。2の目の手前から入れ、4の目の手前に出します。



4 裏目同士に入れます。3の目の向こうから入れ、5の目の向こうに出します。3・4をくり返します。

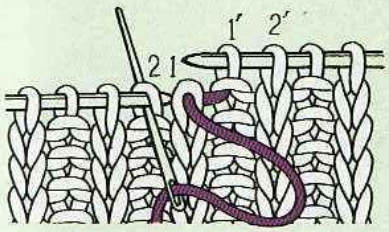


5 最後は3'、1'に入れ、

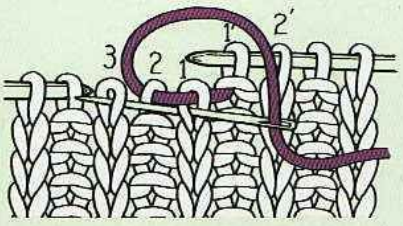


6 2'、1'の順に針を入れます。

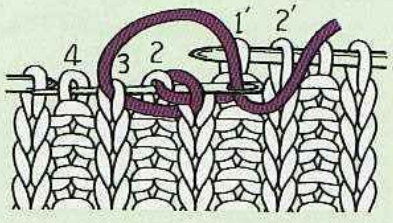
B 輪編み（わあみ）



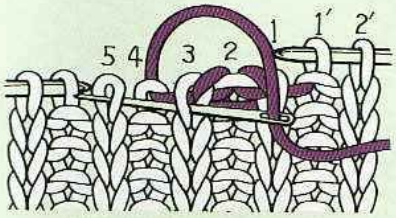
1 編み始めの1の目の向こうから針を入れ、2の目の手前から向こうへ出します。



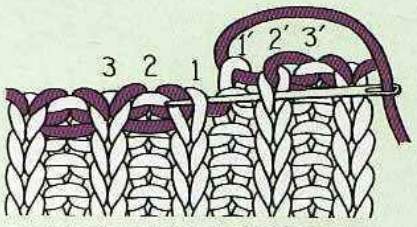
2 次は表目同士で、1の目の手前から入れ、3の目の手前に出します。



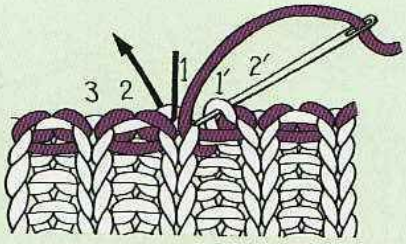
3 裏目同士の2の目の向こうから入れ、4の目の向こうへ出します。



4 表目同士、裏目同士に入れて止めていきます（2・3をくり返す）。



5 編み終わり側の最後の表目の2'に手前から針を入れ、編み始め側の1の目の手前に出します。



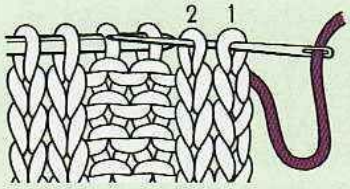
6 編み終わり側の最後の裏目の1'に向こうから針を入れ、編み始め側の2の裏目の向こうに出します。

Marisabel

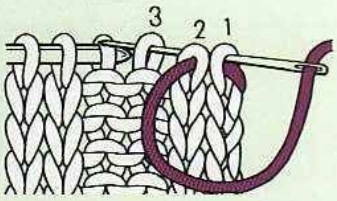
2目ゴム編み止め

とじ針を使って、ゴム編みの目の状態をくずさずに止めます。
止めに必要な糸は、編み地幅の約3倍です。編み地の伸縮をそこなわないように止めましょう。

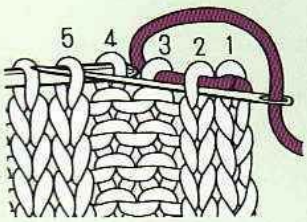
A 平編み（ひらあみ）



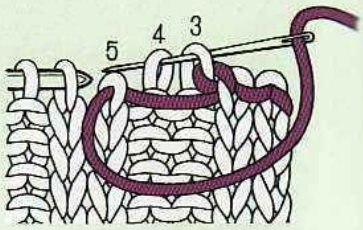
1 1の目の手前から針を入れ、2の目の手前に出します。



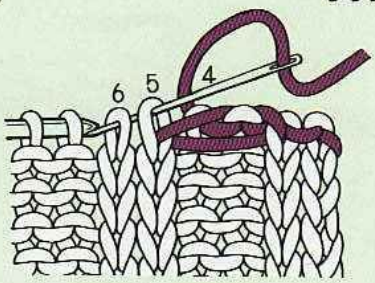
2 もう一度1の目の手前から入れ3の目の向こうへ出します。



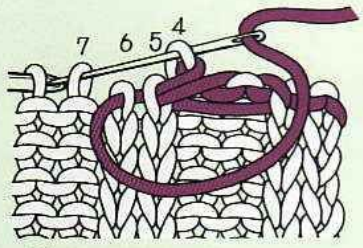
3 次から表目同士で2の目の手前から入れ、5の目の手前に出します。



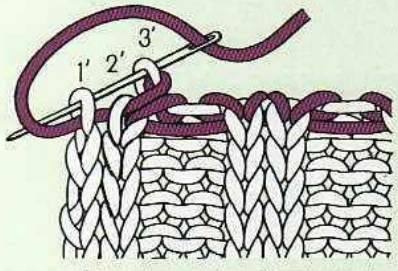
4 裏目同士で3の目の向こうから入れ、4の目の向こうへ出します。



5 表目同士で5の目の手前から入れ、6の目の手前に出します。

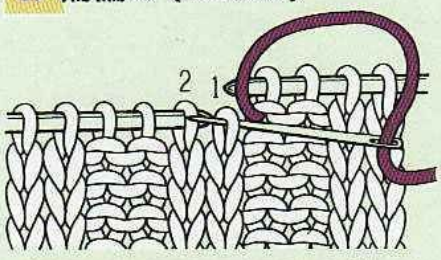


6 裏目同士で4の目の向こうから入れ、7の目の向こうへ出します。3～6をくり返します。

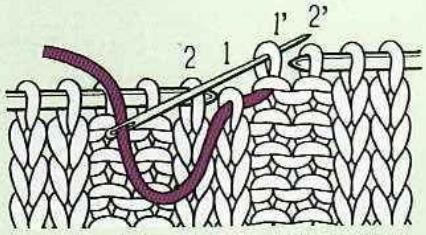


7 最後は、3'、1'と入れます。

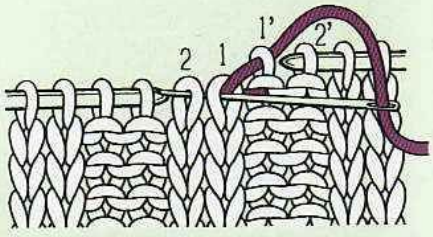
B 輪編み（わあみ）



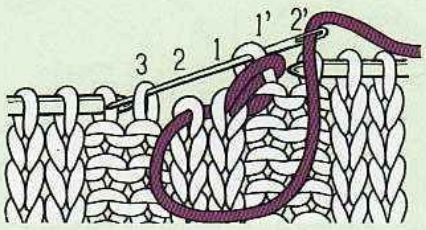
1 編み始めの1の目の向こうから針を入れ、



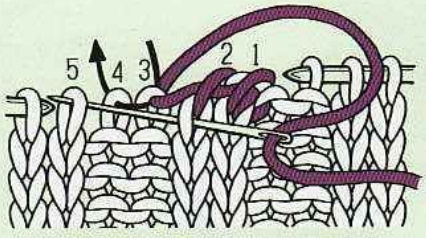
2 編み終りの1'の目に手前から針を入れます。



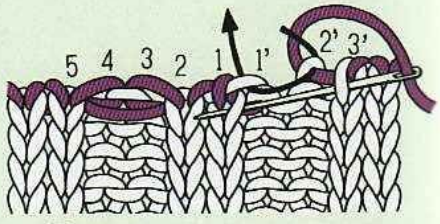
3 編み始めの1の目に手前から入れ、2の目の手前に出します。



4 編み終りの1'に向こうから入れ、編み始めの3の向こうに出します。



5 表目同士の2と5に入れ、裏目同士の3と4に入れます。3～5をくり返します。



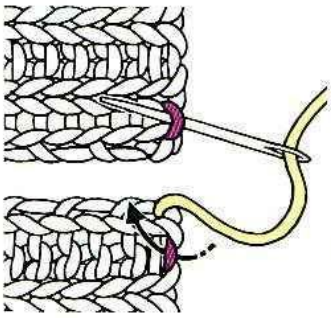
6 最後は、3'、1と入れ、2'、1'と入れます。

とじ

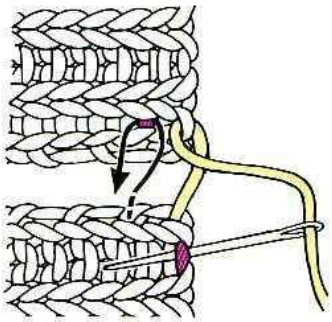
すくいとじ

編み地の段と段をつなぎ合わせることを「とじ」といいます。
セーターでは脇と袖下で「とじ」をすることになり、ほとんどの場合がすくいとじです。
作り目か、止めをしたときの残り糸でとじ始め、足りなくなったら途中で足します。

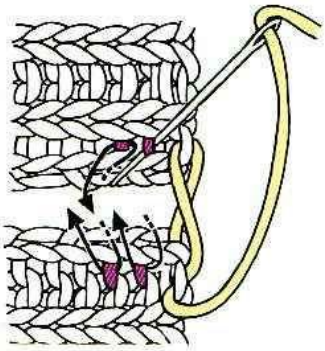
1目ゴム編みからとじる



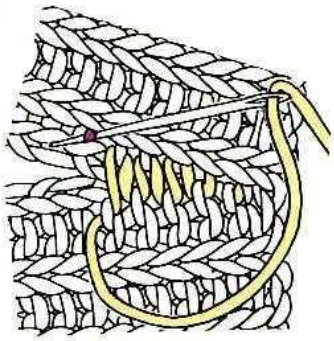
1 編み地をつき合わせ、ゴム編み止めの残りをとじ針に通します。



2 ゴム編み止めの渡り糸をすくいます。

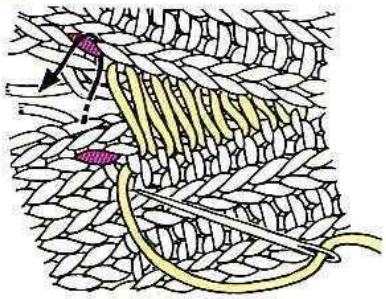


3 1目めと2目めの間の渡り糸を1段ずつ交互にすくいます。

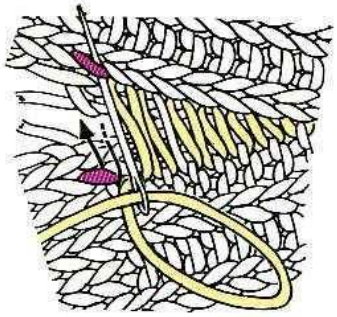


4 5~6段ごとに、とじ糸が見えなくなるまで糸を引きます。

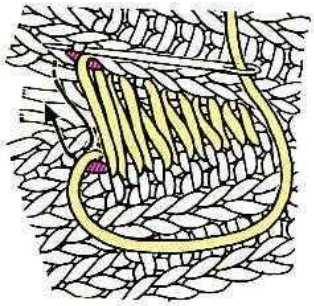
メリヤス編みの境のとじ方



1 裾、袖口の切りかえ位置のとじ方です。矢印のように針を入れます。

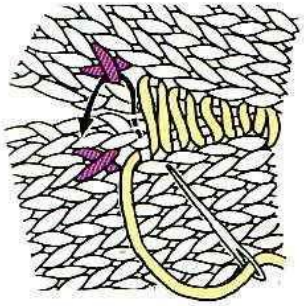


2 手前側も矢印のように斜めに針を入れます。

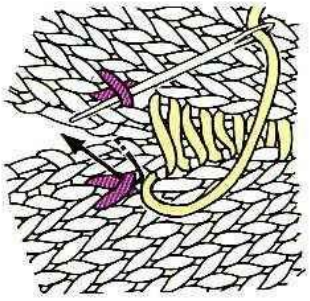


3 メリヤス編みのところは1目めと2目めの間をすくってとじます。糸を引くと半目ずれます。

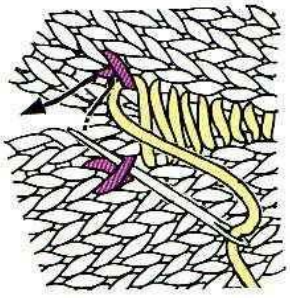
増し目があるとき



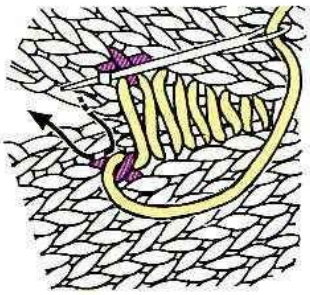
1 ねじり目に矢印のように針を入れます。



2 手前も矢印のように針を入れます。

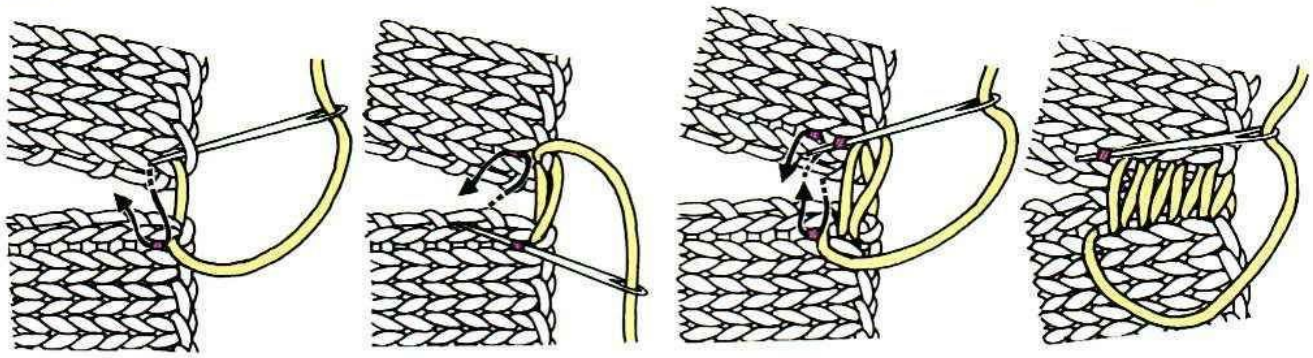


3 次の段は1目めと2目めの間の渡り糸をすくいます。



4 次からふつうにとじます。

メリヤス編み



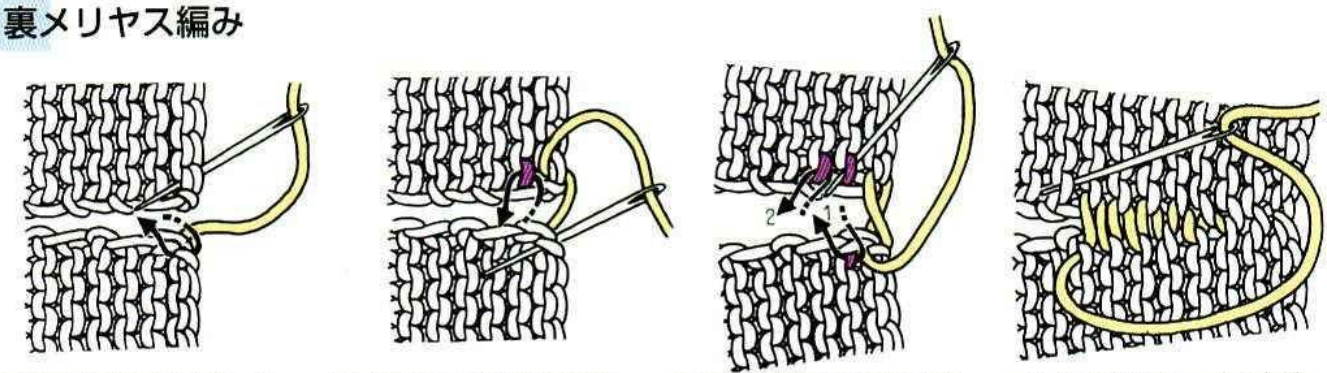
1 表目同士をつき合わせ、作り目の糸をすくいます。

2 1目めと2目めの間の渡り糸をすくいます。

3 向こう側も同じ様にすくいます。

4 5～6段ごとに、とじ糸が見えなくなるまで糸を引きます。

裏メリヤス編み



1 裏目同士をつき合わせ、作り目の糸をすくいます。

2 次から1目めと2目めの間の渡り糸をすくいます。

3 図のふくらんだところが渡り糸で1段ずつすくいます。

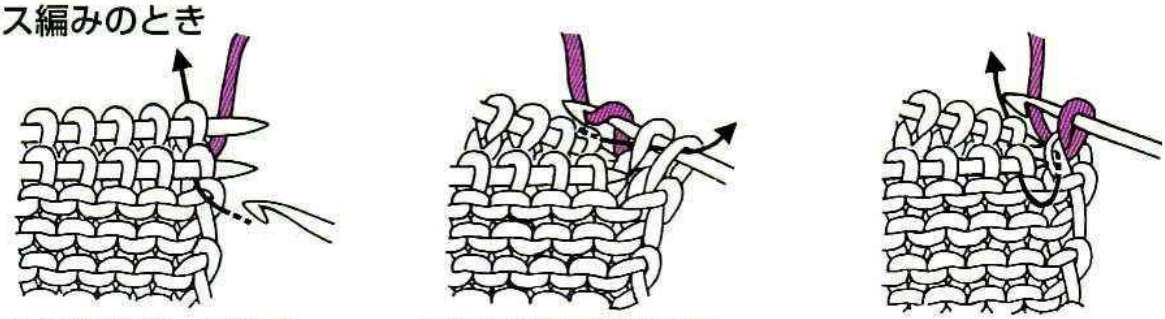
4 5～6段ごとに、とじ糸が見えなくなるまで糸を引きます。

はぎ

引き抜きはぎ

目と目をつなぐことを「はぎ」といいます。
セーターでは肩の部分がそれにあたり、後肩の編み終わりで肩幅の5～7倍の長さに糸を残しておきます。
なわ編みなどで裏目が入ったときは、伸びないように2目一度にはぎます。

メリヤス編みのとき



1 編み地は棒針に移し、中表に合わせてかぎ針ではぎます。

2 それぞれ1目ずつかぎ針にとり、糸をかけて一度に引き抜きます。

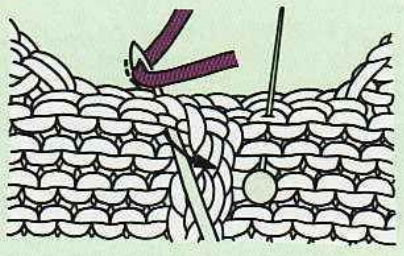
3 次の目もそれぞれかぎ針にとります。

袖つけ

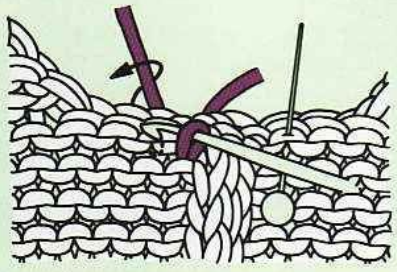
袖のつけ方順序

袖のつけ方順序はかぎ針あみの場合（28ページ参照）と同じです。

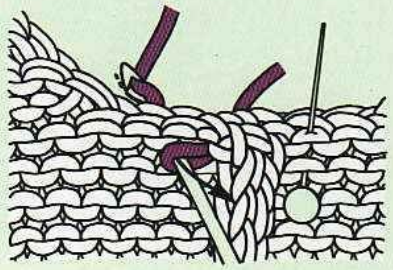
引き抜きとじ



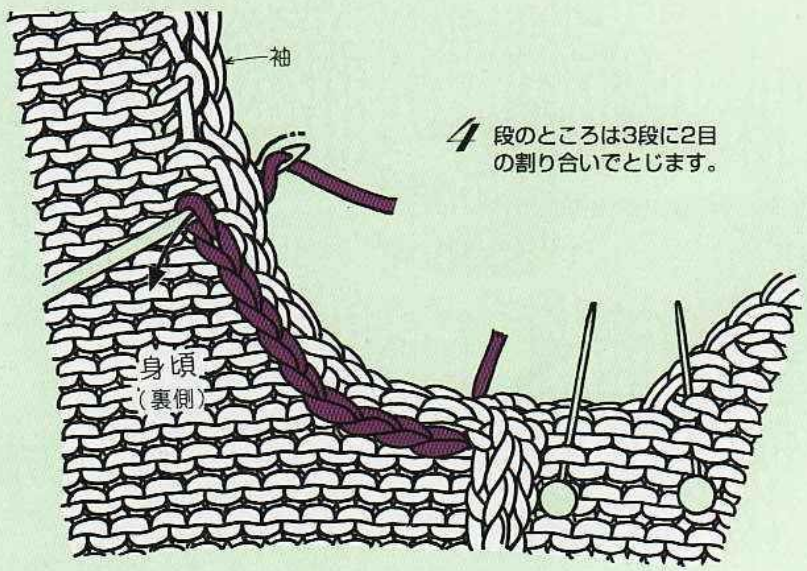
1 脇とじのすぐ横から針を入れて引き出します。糸端は5～10cm残しておきます。



2 1目1段内側を引き抜きます。次の目も袖まで針を通し、糸をかけます。



3 かぎ針を引き抜いてとじます。あとはカーブにそってとじていきます。



4 段のところは3段に2目の割り合いでとじます。

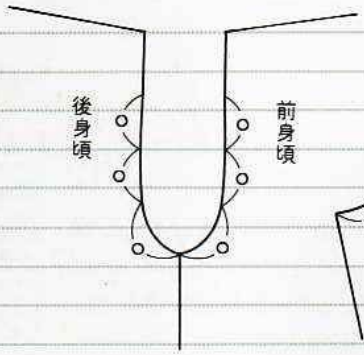


5 終わりは糸端をとじ針に通し、始めに通して1目作り、袖側に出します。

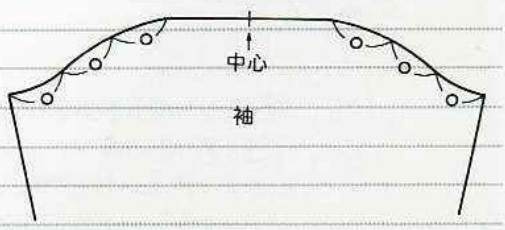
広瀬先生のアドバイス

袖つけのポイント

袖つけの上手、下手で作品のイメージがずい分変ってしまいます。仕上げの最も重要なポイントですね。引き抜きとじはやり直しがやりやすいので初心者向きです。袖つけの合印もつけると安心です。実際の編み地を測って身頃と、袖山に合印をつけます(58ページを参照)。糸の引き加減も注意しましょう。



糸印はメジャーで測って、5cmまたは6cm間隔につけます。前後各3か所くらいに印をつけると、残りは袖山の方が少し多めに残りますので、つけるときにいせ込みます。

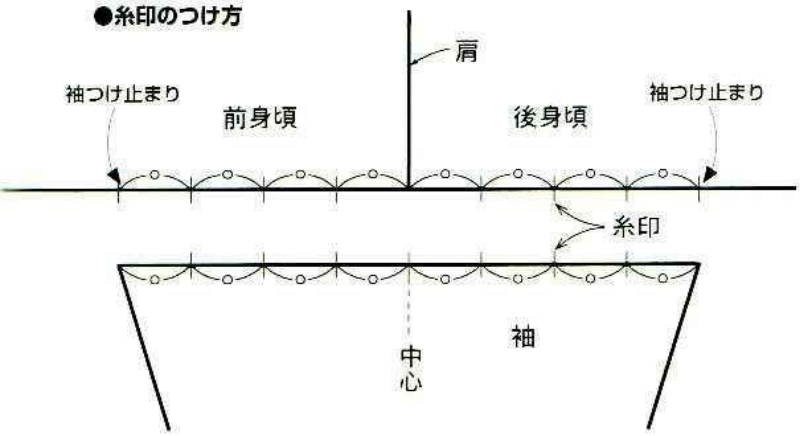


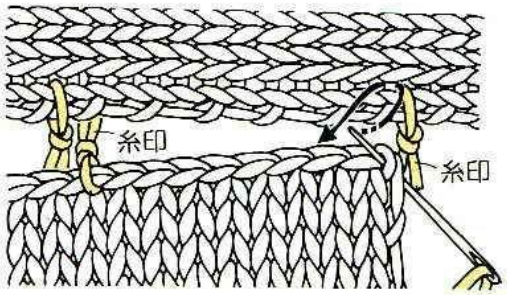
ONE POINT ADVICE

目と段のはぎ

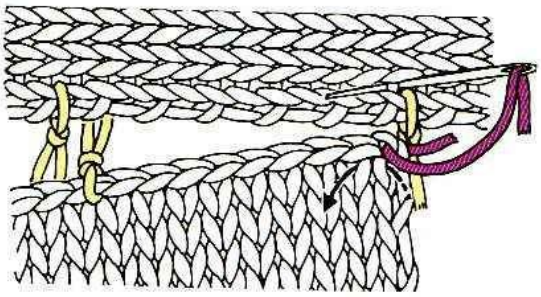
まっすぐな身頃に平らな袖をつけるとき、目と段のはぎを使います。
身頃も袖も編み地を折って半分のところに糸印をし、そのまた半分…。つけるところを8等分します。
むずかしい計算などしないで、1等分ずつきちんとはぎ合わせれば、まずは平らに袖つけができます。

●糸印のつけ方

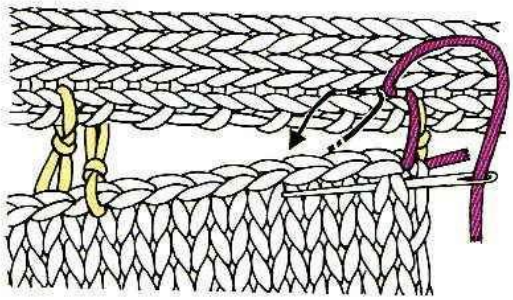




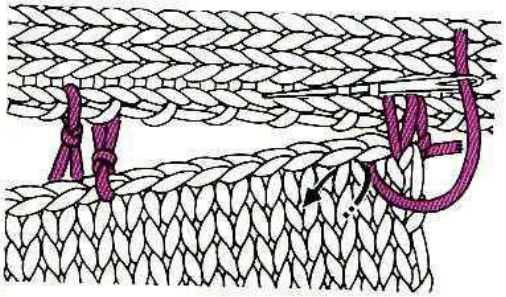
1 とじ針に身頃や袖と同じ糸を通し、袖の端の目に通します。



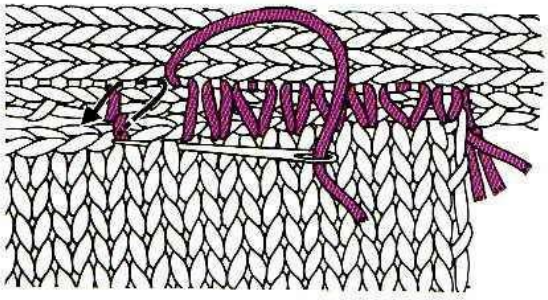
2 身頃は1目めと2目めの間の渡り糸をすくいます。



3 袖の目の方はいつも表から裏、裏から表とすくいます。



4 目数と段数の差は2段一緒にすくいます。
1等分の中で平均になるようにしましょう。



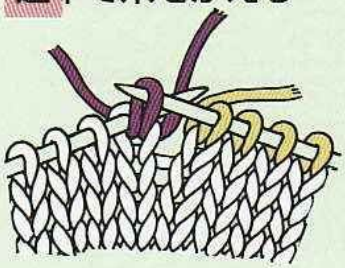
5 糸印同士がきちんと合うようにします。はぎ糸は引いて見えなくします。

編む途中のこと・仕上げ

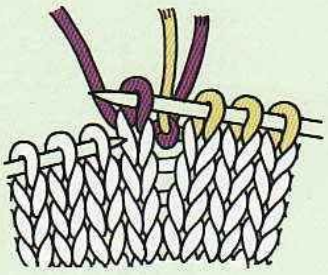
糸(いと)のかえ方・糸始末(いとしまつ)

糸1玉が終わり、次の糸玉にかえるときは、結び玉を作らずに新しい糸玉に続ける方法をとります。
編み地の途中でかえたり、編み地の端でかえます。どちらもつなぎ目がなくきれいに仕上がります。

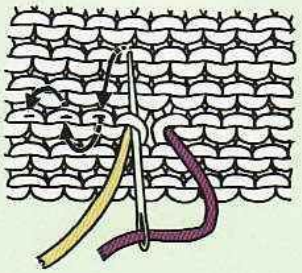
途中で糸をかえる



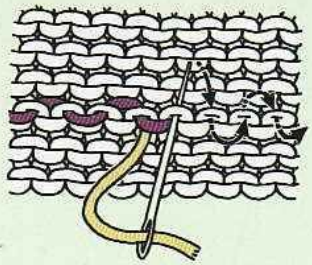
1 今まで編んできた糸は裏にたらして休め、新しい糸で編み始めます。



2 糸端は裏で仮に結んでおきます。

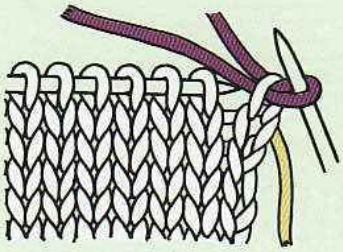


3 途中で仮に結んでおいた糸端をほどき、右の糸は左の目をすくって始末します。

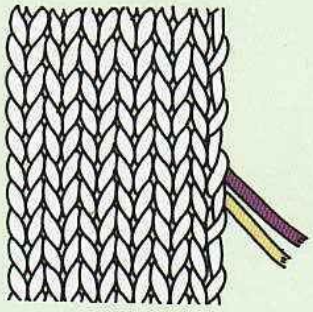


4 左の糸は右の目をすくって始末します。

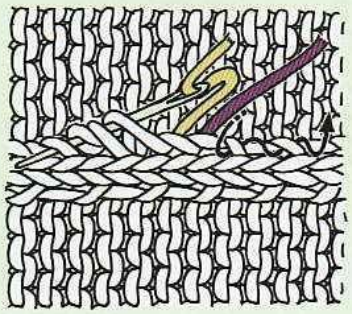
編み端で糸をかえる



1 新しい糸は糸端を15cmくらい残して編み始めます。

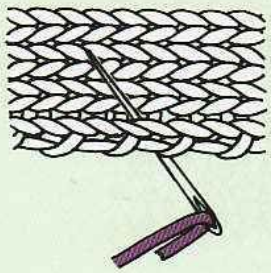


2 2本とも編み端にさげておきます。

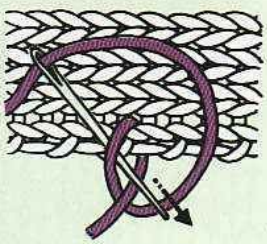


3 糸端はとじ終わってからとじしろの目にからげて始末します。

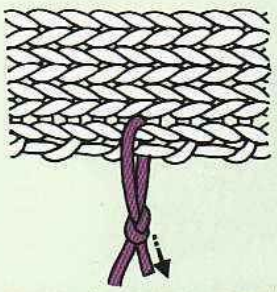
糸印(いとじるし)のつけ方



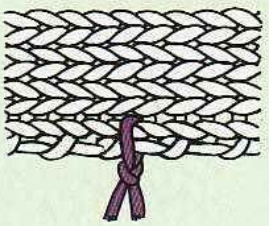
1 とじ針に糸を通し、編み地に針を入れます。



2 糸端の上から輪を描くようにして回し、矢印のように針を通します。



3 長い方の糸を引いて結び目をしめ、短い方を引いて編み地によせます。

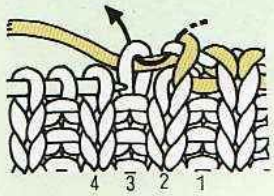


4 糸端は3~5cmに切っておきます。

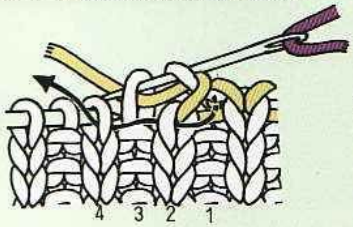
糸の足し方・糸始末

仕上げの途中で止め糸がなくなったり、とじ糸が短くなったりすることがあります。
そんなときも結び玉を作らずに、自然な感じに仕上げることが大切です。
こんな便利な方法をマスターしておけば作品作りにきっと役立ちます。

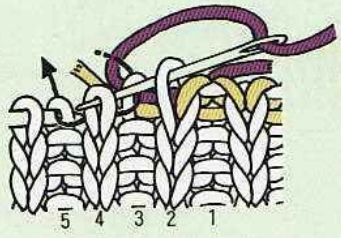
止め糸の足し方 ●1目ゴム編み止めの途中で足す場合



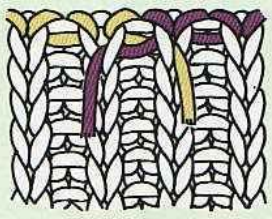
1 裏目同士（1と3）に通したところで糸を足します。



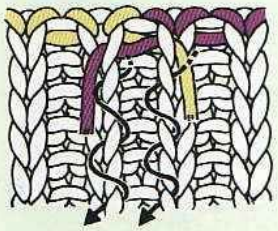
2 新しい糸を1と3に通し、次に表目同士（2と4）に通します。



3 3と5の裏目同士に通します。以後は2と3をくり返します。



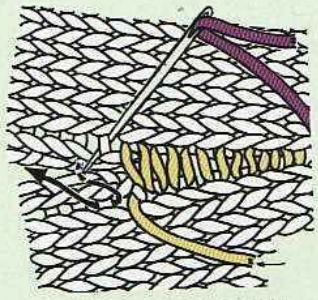
4 糸端は2本とも裏側に出ます。



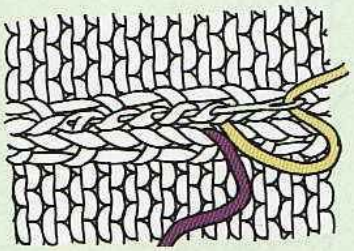
5 裏側の目に通して目立たないように始末します。

とじ糸の足し方

●メリヤス編みの途中で足す場合

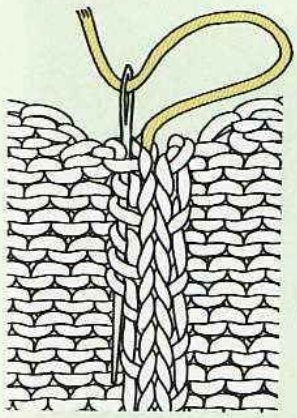


1 糸端は10cmくらい残し、新しい糸でとじていきます。



2 糸端2本は裏に出し、とじ代の目にからげて始末します。

とじ終わりの糸始末



とじ終わりの糸端はとじしろの目にからげておきます。

ONE POINT ADVICE

広瀬先生のアドバイス

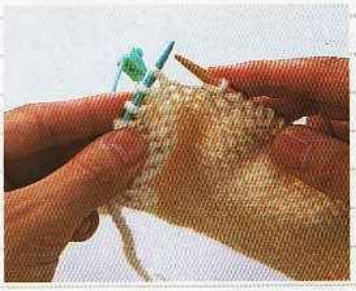
編み目を休ませるとき

編み目を休めるとき、糸を通したとじ針で1目1目通す方法もありますが、ほつれ止めに目を移すほうが早くて簡単です。



棒針に編み目を移すとき

ほつれ止めに休めておいた目を棒針に移すときは、裏側を見ながらながら1目1目針に取ります。目のとり忘れがないように注意しましょう。

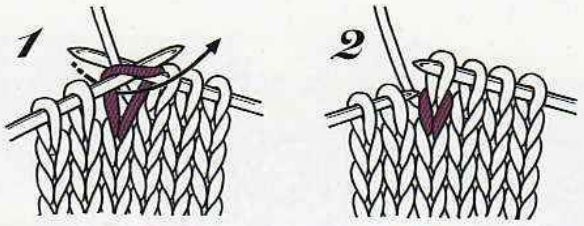


ほつれ止め

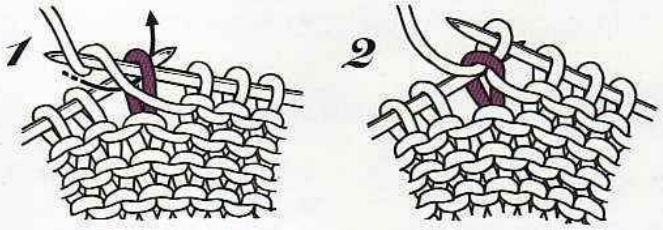
ほつれ止めは、安全ピン型のものもありますが、休めた目をいったん棒針に移さないと編めません。ここで紹介したほつれ止めはどちら側でもはずすことができますし、棒針に移し返さなくても編めるすぐれものです。

編み目記号の編み方

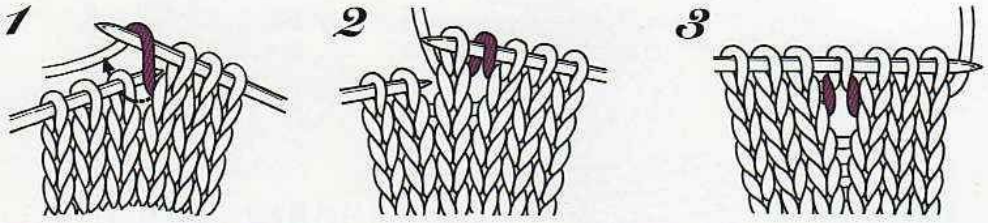
表目（おもてめ）



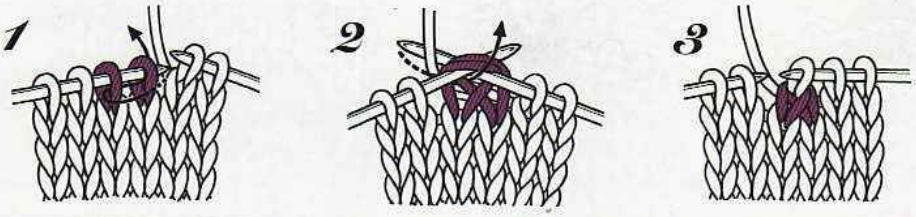
裏目（うらめ）



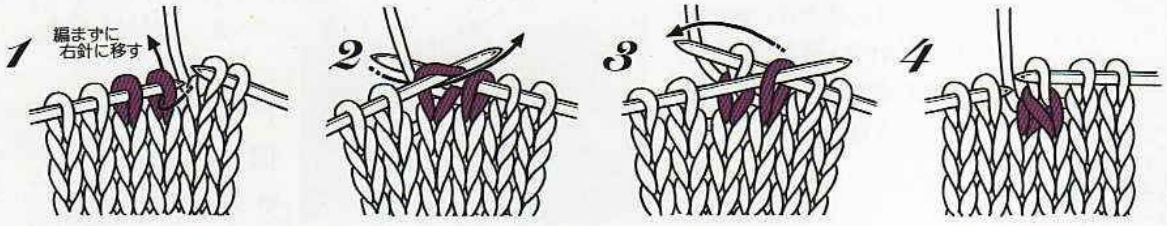
かけ目（かけめ）



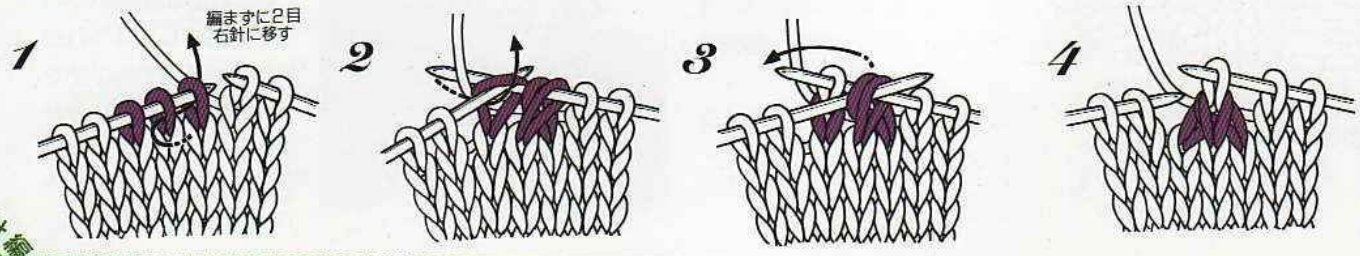
左上2目一度（ひだりうえにめいちど）



右上2目一度（みぎうえにめいちど）

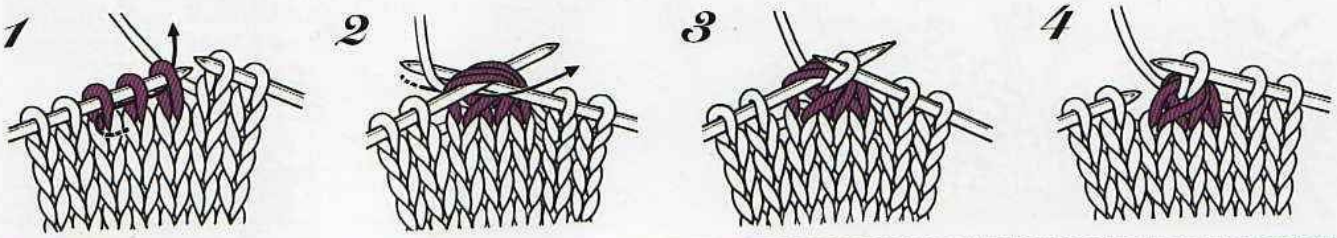


中上3目一度（なかうえさんめいちど）

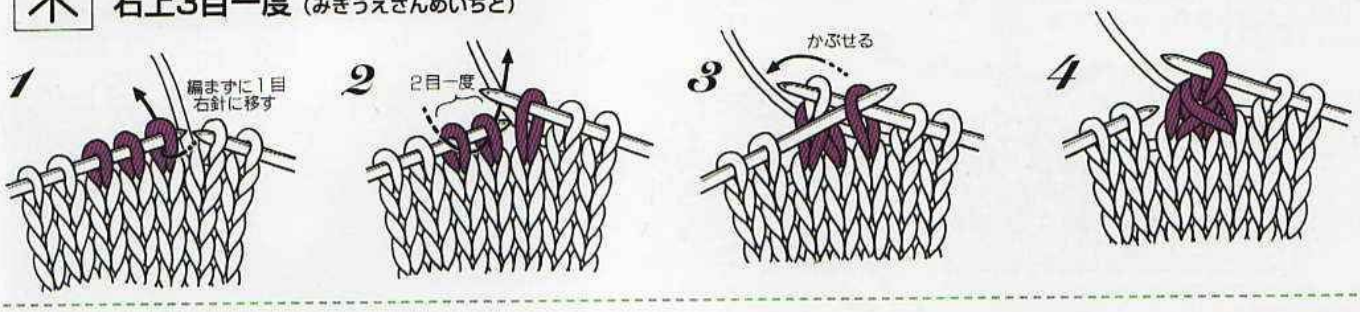


Let's Knit Series NV6077

左上3目一度（ひだりうえさんめいちど）

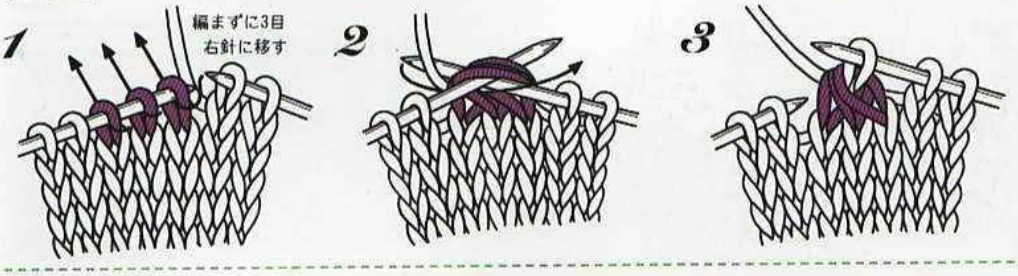


右上3目一度（みぎうえさんめいちど）

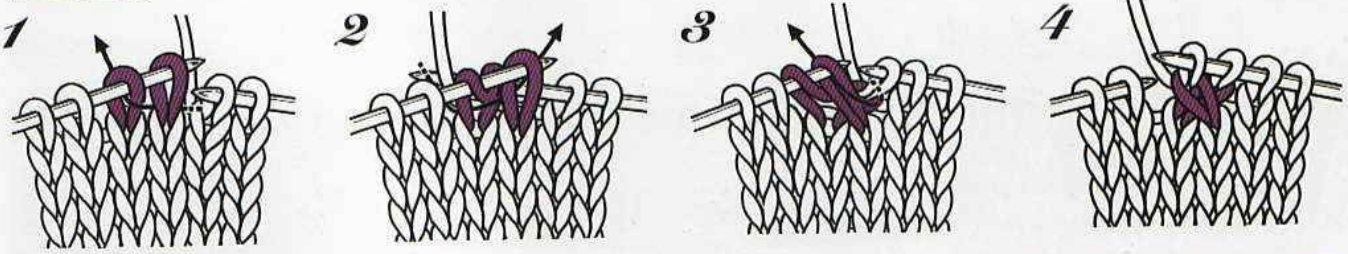


右上3目一度（みぎうえさんめいちど）

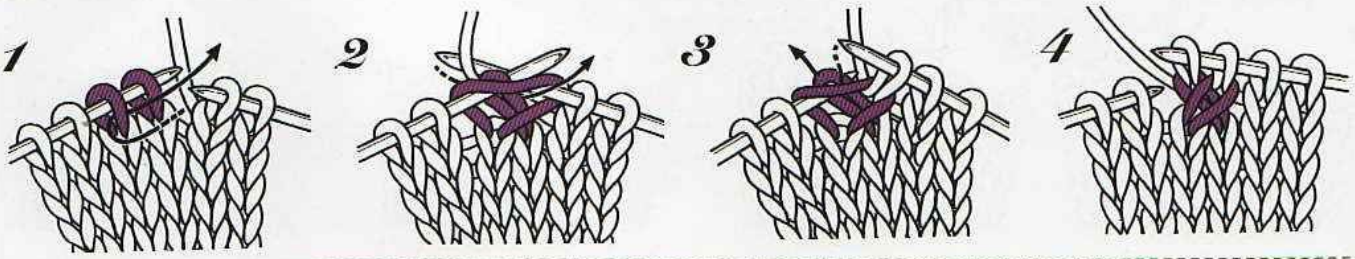
左上3目一度と左右対称にできるこんな方法もあります。



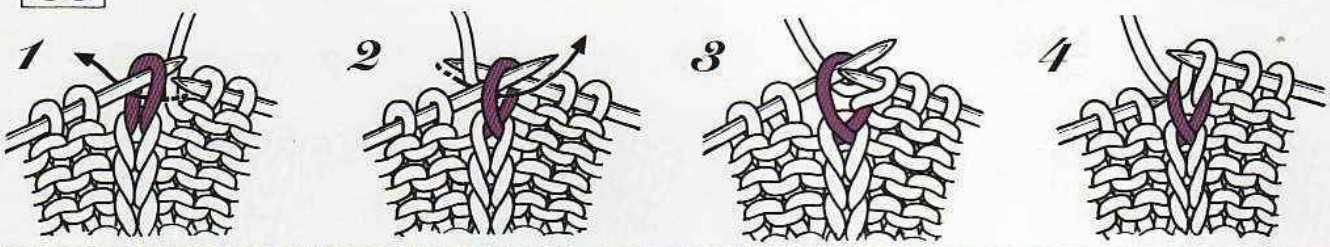
右上1目交差（(みぎうえひとめこうさ）



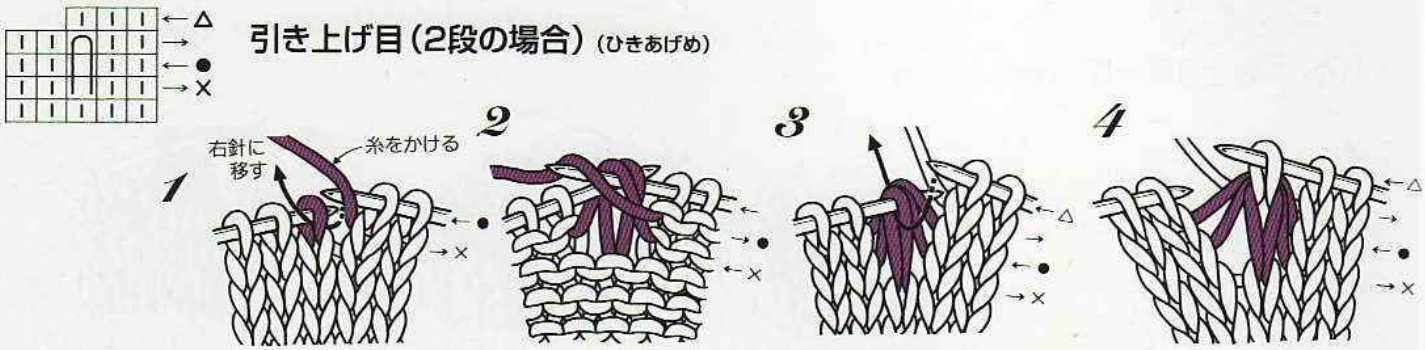
左上1目交差（ひだりうえひとめこうさ）



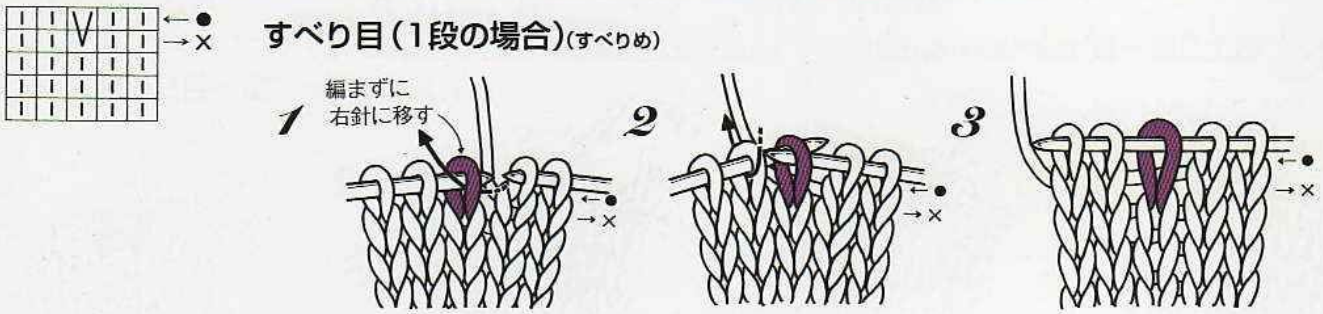
ねじり目（ねじりめ）



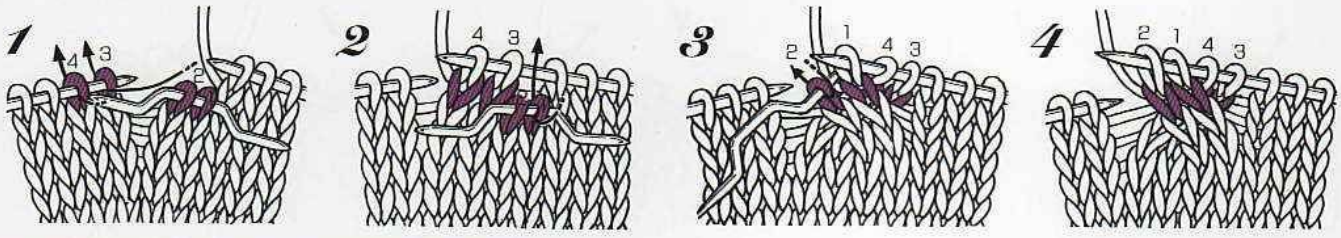
引き上げ目（2段の場合）（ひきあげめ）



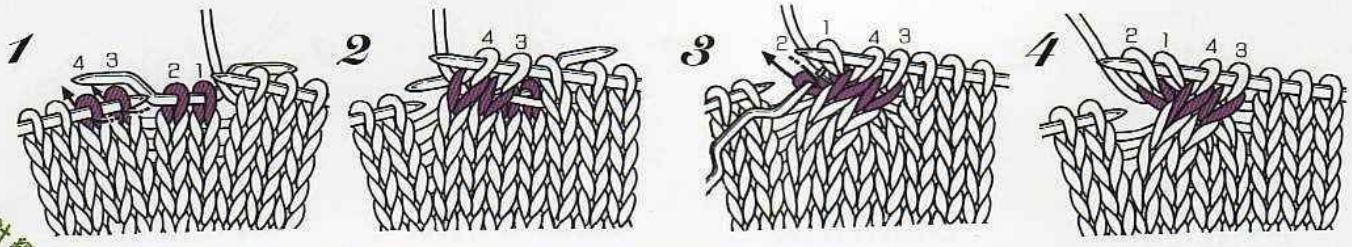
すべり目（1段の場合）（すべりめ）



右上2目交差（みぎうえふためこうさ）



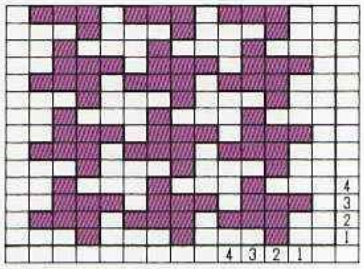
左上2目交差（ひだりうえふためこうさ）



Let's Knit Series NV6077

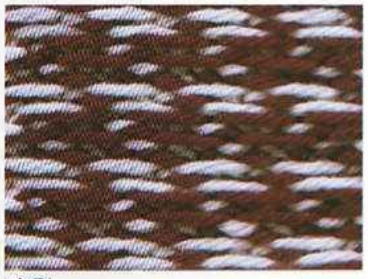
編み込み模様

横に糸を渡す編み込み模様
（よこにいとをわたすあみこみもよう）



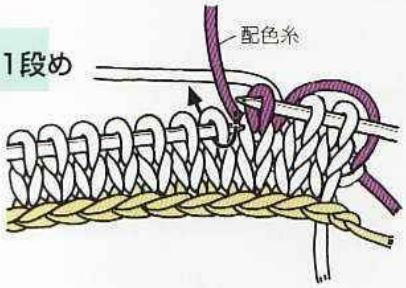


表側

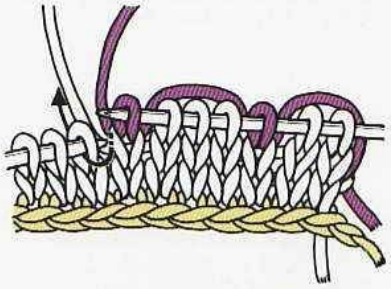


裏側

1段め

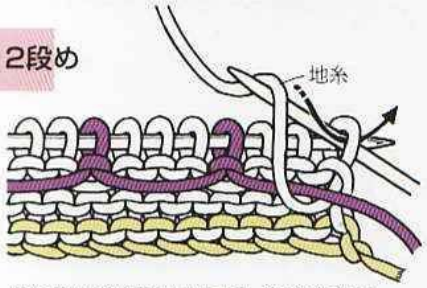


1 配色糸をはさんでから編み始め、地糸で2目、配色で1目編みます。

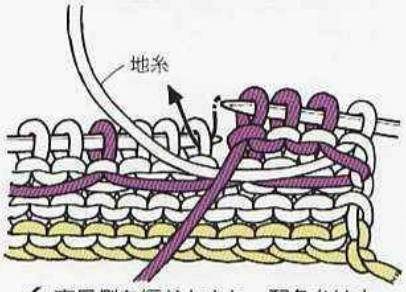


2 配色糸は上、地糸は下に渡して地糸3目、配色1目をくり返します。

2段め

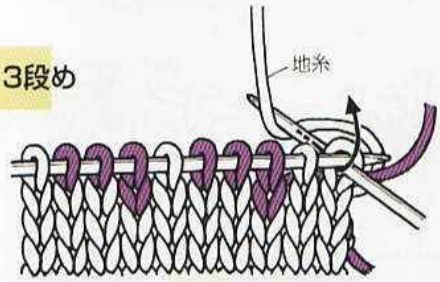


3 2段めの編み始めです。配色糸をはさんで1目めを編みます。

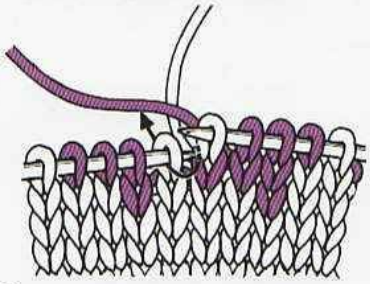


4 裏目側を編むときも、配色糸は上、地糸は下に渡して編みます。

3段め

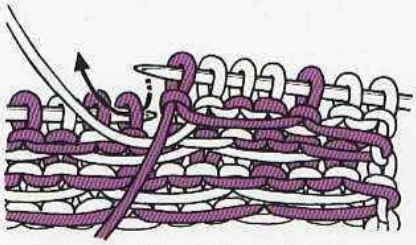


5 各段の編み始めは、編む糸に休める糸をはさんでから編みます。



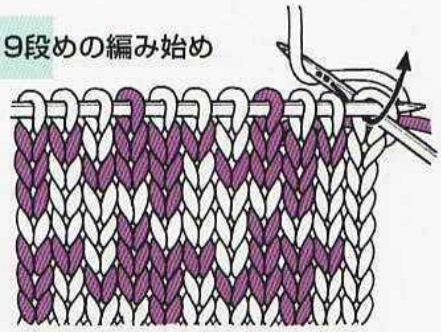
6 配色糸で3目、地糸で1目を記号図通りにくり返します。

4段め



7 配色糸1目、地糸3目をくり返します。この段で1模様が編めました。

9段めの編み始め



8 更に4段編んで、千鳥格子の模様が2模様編めたところです。

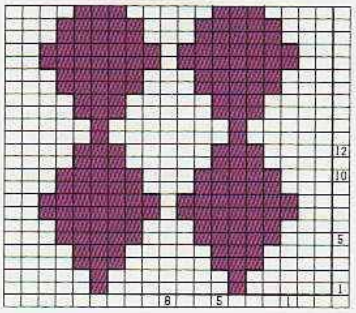
両手を使う方法

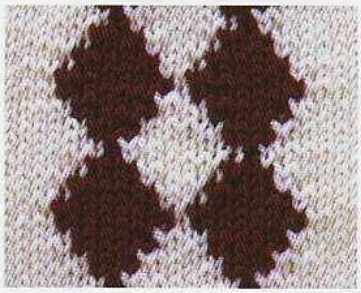




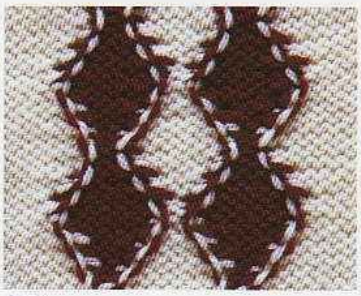
両手の人さし指に2色の糸をそれぞれ1本ずつかけ、必要な糸をその都度編みます。いちいち糸を持ち替えなくてすみますので、スピーディーに編むことができます。

縦に糸を渡す編み込み模様
（たてにいとをわたすあみこみもよう）

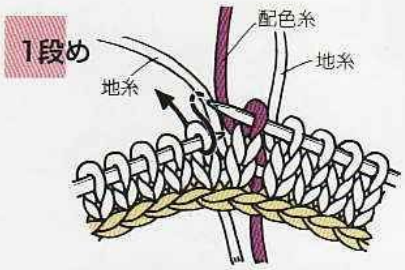




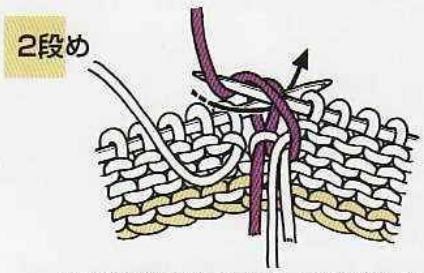
表側



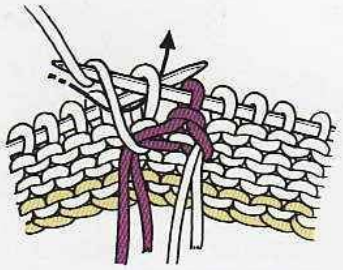
裏側



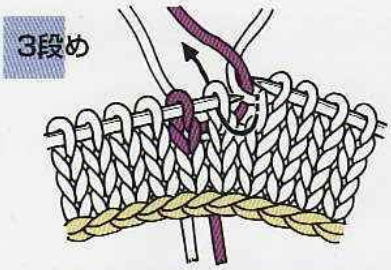
1 ダイヤ柄の各先端でそれぞれ糸をつけて編み始めます。



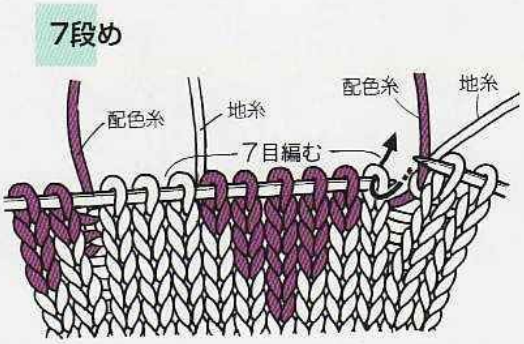
2 配色糸にかえるとき、地糸の下から渡して交差させます。



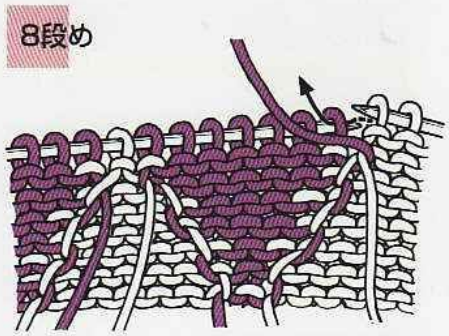
3 地糸にかえるときも同じで、下から渡して交差させます。



4 表を見て編む段も、編む糸を下から渡して交差します。



5 この模様は2段ごとのダイヤ柄なので、表目側で模様がかわります。

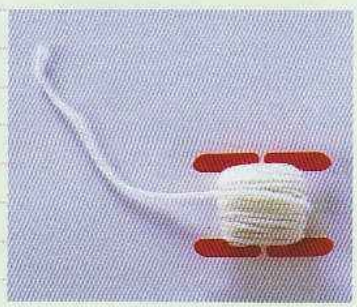


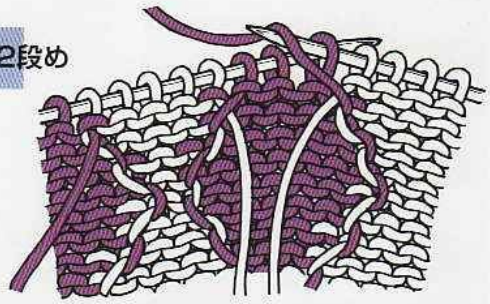
6 裏目側は前段と同じ色で編みます。色をえるときは2色を交差させます。

広瀬先生のアドバイス　ONE POINT ADVICE

糸は小さく分けて使う

縦に糸を渡す編み込みは、色をかえる分だけ糸玉が必要になります。大きな糸玉を下げておくのは効率的ではありません。小さな糸巻きを用意して糸玉のかわりにしましょう。





7 12段めを編んでいるところです。裏側はこんな状態になります。

索引

かぎ針編み

◆あ
編み終わりの目から目を拾う……27
編み地の回し方……9
編み目記号の編み方……29
編み目の高さ……8
糸始末……20,27
糸と針……4
糸の選び方……5
糸のかけ方と針の持ち方……6
糸の足し方……27
糸の通し方……24
糸端で輪を作る作り目……18
糸端の始末……27
うね編み目……30
円編み……6
往復編みの編み方……27

◆か
カーブの編み方……16
かぎ針……4
記号図の見方……6
基本の編み地……8
基本の増減目……14
基本のモチーフ……18
鎖編みの作り目……7
鎖3目の引き抜きピコット……30
鎖で輪を作る作り目……18
減目……14
細編み……8,29
細編みのうね編み目……30
細編みの裏引き上げ編み目……31
細編みの表引き上げ編み目……31
細編みのすじ編み目……30
細編み1目の減目……14
細編み1目の増し目……14

◆さ
最初の目の作り方……7
仕上げ……26
四角モチーフ……19
すくいとじ……24
すじ編み目……30
束(そく)に拾う……26
袖つけ……28

◆た
立上がり……8
段から目を拾う……26
中長編み……12,29
中長編み3目の玉編み目……31
作り目……7,18
作り目から目を拾う……26
作り目の針の号数……7
とじ……24

◆な
長編み……10,29
長編み5目のパプコーン編み目……30
長編み5目のパプコーン編みを
束に編み入れる……30
長編みの裏引き上げ編み目……31
長編みの表引き上げ編み目……31
長編みの角度……11
長編み1目の減目……15
長編み1目の増し目……15
長々編み……12,29

◆は
はぎ……24
端を割って拾う……26
バック細編み目……30
針の号数……7
針の持ち方……6
半返し縫い……28
引き抜き編みでモチーフを
つなぐ……22
引き抜き編みと鎖でつける……28
引き抜き編みの鎖はぎ……25
引き抜き編み目……29
引き抜き編みの鎖とじ……24
平編み……6
拾い目……26
縁編みのしかた……26
縁編みの拾い目……26

◆ま
巻きかがりでモチーフをつなぐ……21
増し目……14
モチーフの編み方……19
モチーフの糸始末……20
モチーフのつなぎ方……21

◆や
約束ごと……8

◆ら
ラベルの見方……5
レース針……4

◆わ
輪の作り目……18
割り糸の作り方……25
割り出し方……13

棒針編み

◆あ
アイロンをかけましょう……43
編み方図の読み方……34
編み方の基本……39
編み込み模様の編み方……63,64
編み端で糸をかえる……58
編み目……43
編み目記号の編み方……60
編み目を休ませるとき……59
編みものの用具……33
編む途中のこと……58
アメリカ式(針の持ち方)……32
糸始末……59
糸印のつけ方……58
糸のかえ方……58
糸の足し方……59
糸の持ち方……32
裏目……60
裏メリヤス編みの編み方……39
裏メリヤス編みのすくいとじ……54
衿ぐりカーブと肩の引き返し編み……44
衿ぐりからの拾い目……49
表目……60

◆か
かけ目……60
肩の引き返し編み……44
ゲージについて……43
減目と増し目……40

◆さ
仕上げ……58
すくいとじ……53
すべり目(1段の場合)……62
セーターの名称……34
全図解……35,36
袖つけ……56
袖つけのポイント……56

◆た
縦に糸を渡す編み込み模様……64
段消し……45,47
作り目……37
とじ……53
とじ糸の足し方……59
とじ終わりの糸始末……59
途中で糸をかえる……58
止め……50
止め糸の足し方……59
共鎖の作り目……38

◆な
中上3目一度……60
2本棒針……33
ねじり目……62

◆は
はぎ……54
針と糸の持ち方……32
針の太さ……33
半返し縫い……55
引き上げ目(2段の場合)……62
引き返し編み……44
引き抜きとじ……56
引き抜き止め……50
引き抜きはぎ……54
左上3目一度……61
左上2目一度……60
左上1目交差……61
左上2目交差……62
1目ゴム編みからとじるすくいとじ
……53
1目ゴム編み止め(平編み、輪編み)……51
1目の減目、端1目を立てる減目……41
1目の増し目、端1目を立てる増し目……42
拾い目のしかた……48
伏せ止め……50
伏せ目……40
2目以上の減目……40
2目ゴム編み止め(平編み、輪編み)
……52
フランス式(針の持ち方)……32
別鎖からの拾い目……48
別鎖の作り目……38
棒針に目を移すとき……59
ほつれ止め……59

◆ま
増し目……42
増し目があるときのすくいとじ……53
右上3目一度……61
右上2目一度……60
右上1目交差……61
右上2目交差……62
目と段のはぎ……57
メリヤス編みとゴム編みの境の
すくいとじ……53
メリヤス編みの編み方……39
メリヤス編みのすくいとじ……54
メリヤスはぎ……55

◆や
指でかける作り目……37
用具……33
横に糸を渡す編み込み模様……63
4本棒針……33

◆わ
輪針……33
割り出し計算をしましょう……43

お・わ・り・に

30年以上も編んでいると、始めの頃にわからなかったことが、あたり前のことになってしまいます。編みものに初めてチャレンジする人がわからないことが、わからなくなってしまいます。そんな反省点を元に私の考える基礎技法を本にまとめました。

とにかく編みものにはこれでなければダメということは殆んどありません。手軽に楽しく編んでいただくことを願っています。この本を手にしてくださった、ひとりひとりの方々に感謝いたします。



著者プロフィール
広瀬光治（ひろせみつはる）

高校生の頃からニットに興味を持ち、作品を編み始める。水産会社に勤務の傍ら霞ヶ丘技芸学院で編物、レースを学び、卒業後日本ヴォーグ社に入社。編集者、編物講師として活躍。1999年にフリーに。現在は全国の講習会、講演会に飛び回り、編みものの普及のために力を注いでいる。社団法人日本編物文化協会理事。ヴォーグ学園、NHKカルチャーセンター、霞ヶ丘技芸学院などで講師を務める。

著書
「広瀬光治の魅惑のニット」「広瀬光治の魅惑のニットPart2」「広瀬光治のあみもの指南」「広瀬光治の華麗なニット」「ニットの貴公子 広瀬光治のエレガンスニット」「広瀬光治のゆび編みレッスン」「広瀬光治のパーティニット」小社刊
「広瀬光治のはじめてでも失敗なくできるニット」NHK出版刊、「広瀬光治の初めてのニット」講談社刊、「羊のきもち」モデラート刊等多数。

広瀬光治ホームページ
http://member.nifty.ne.jp/HIROSE-M/

【スタッフ】
撮影／伏見行介
レイアウト／黒柳真美
版下／アトリエ・ハヤシ（林 明子）
編集協力／野田圭美
編集／曽我圭子・荒井久仁子
表紙素材提供：株式会社　元廣

＊万一、乱丁本、落丁本がありましたらお取り替え致します。
日本ヴォーグ社 ニットディビジョンTEL03-5261-5084

○本書の複製件・翻訳権・上映権・譲渡権・
公衆送信権（送信可能化権を含む）は
株式会社日本ヴォーグ社が保有します。
○JCLS〈（株）日本著作出版権管理システム委託出版物〉
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。
複写される場合は、そのつど事前に
（株）日本著作出版権管理システム
（TEL.03-3817-5670、FAX.03-3815-8199）
の許諾を得てください。

クロバー Clover
あみもの・手芸・ソーイング

匠
たくみ

日本のあみ針「匠」

語り継がれる信頼の品質。「匠」は日本のあみ針のロングセラーです。



●クロバー棒針「匠」(竹製)
0号～ジャンボ15mm
輪編みに便利
●クロバー輪針「匠」(竹製)
3号～ジャンボ10mm
40・60・80・100cmがあります。

天然素材だけが持つ、豊かな質感。

材料の竹には、日本の寒冷地で育った肉厚で繊維のつまったものだけを厳選。適度な硬さと曲げの復元力、さらに天然素材ならではのしっとりとした風合いを持つ最高級のあみ針です。使い込むほど手になじみ、美しい編み目をつくります。

いつまでも変わらない針先と使いごこち。

竹の特性を最大限に活かした独自の製法と加工技術で、編みやすさと美しさが長持ち。
気になる糸割れがなく、すべりも抜群です。種類・サイズを豊富に揃えました。

クロバー株式会社
「お客様係」TEL06-6978-2277　http://www.clover.co.jp
本社/〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5

Let's Knit Series NV6077

Marisabel

広瀬光治のあみものの基礎

発行日／2001年12月10日第1刷　2008年7月26日第9刷
著者／広瀬光治
発行人／瀬戸信昭　編集人／小林恵一
発行所／株式会社日本ヴォーグ社　〒162-8705　東京都新宿区市谷本村町3-23
TEL.／販売…03-5261-5081　編集…03-5261-5084　振替／00170-4-9877
出版受注センター／TEL.048-480-3322　FAX.048-482-2929
印刷所／大日本印刷株式会社　Printed in Japan ©Mitsuharu Hirose　2001

定価　本体981円　NV6077
※消費税が別に加算されます。

ISBN978-4-529-03634-4
C5077　¥981E

9784529036344

1925077009819

HOT LINE ホットライン

この本に関するご質問は、お電話またはＷｅｂで
書名／広瀬光治のあみものの基礎
本のコード／NV6077
担当／第一編集部
Tel：03-5261-5084（平日13：00～17：00受付）
Ｗｅｂサイト「日本ヴォーグ社の本」http://book.nihonvogue.co.jp/
※サイト内（お問い合わせ）からお入りください。（終日受付）
（注）Ｗｅｂでのお問い合わせはパソコン専用となります。

●ハンドクラフトを楽しむウェブサイト「手づくりタウン」　http://www.tezukuritown.com